2019年度
教職・資格（市ヶ谷）
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【C6000】教職入門［天野　一哉］春学期授業/Spring 1
【C6001】教職入門［寺崎　里水］春学期授業/Spring 2
【C6002】教職入門［児玉　洋介］秋学期授業/Fall 3
【C6003】教職入門［高野　良一］秋学期授業/Fall 4
【C6004】教育原理［天野　一哉］秋学期授業/Fall 5
【C6005】教育原理［遠藤　野ゆり］春学期授業/Spring 6
【C6006】教育原理［筒井　美紀］秋学期授業/Fall 7
【C6007】教育原理［飯窪　真也］秋学期授業/Fall 8
【C6008】教育原理［澤里　翼］春学期授業/Spring 9
【C6009】教育の制度・経営［高野　良一］春学期授業/Spring 10
【C6010】教育の制度・経営［植竹　丘］春学期授業/Spring 11
【C6011】教育の制度・経営［仲田　康一］秋学期授業/Fall 12
【C6162】教育の制度・経営［高野　良一］秋学期授業/Fall 13
【C6012】教育の制度・経営［植竹　丘］秋学期授業/Fall 14
【C6013】教育心理学［田澤　実］秋学期授業/Fall 15
【C6014】教育心理学［輕部　雄輝］秋学期授業/Fall 15
【C6015】教育心理学［児玉　茉奈美］春学期授業/Spring 16
【C6016】教育心理学［山上　真貴子］春学期授業/Spring 17
【C6017】教育心理学［遠藤　裕子］春学期授業/Spring 18
【C6018】教育心理学［児玉　茉奈美］秋学期授業/Fall 19
【C6019】教育課程論［松尾　知明］春学期授業/Spring 20
【C6020】教育課程論［川津　貴司］春学期授業/Spring 20
【C6021】教育課程論［飯窪　真也］春学期授業/Spring 21
【C6022】教育課程論［黄　郁倫］秋学期授業/Fall 21
【C6023】教育課程論［飯窪　真也］秋学期授業/Fall 22
【C6024】教育方法論［岩本　俊一］春学期授業/Spring 22
【C6025】教育方法論［松尾　知明］春学期授業/Spring 23
【C6026】教育方法論［黄　郁倫］春学期授業/Spring 23
【C6027】教育方法論［川津　貴司］秋学期授業/Fall 24
【C6028】教育方法論［黄　郁倫］秋学期授業/Fall 24
【C6029】教育相談［田澤　実］春学期授業/Spring 25
【C6030】教育相談［今井　文男］秋学期授業/Fall 25
【C6031】教育相談［輕部　雄輝］春学期授業/Spring 26
【C6032】教育相談［山上　真貴子］秋学期授業/Fall 27
【C6033】教育相談［輕部　雄輝］秋学期授業/Fall 28
【C6034】教育相談［今井　文男］春学期授業/Spring 29
【C6035】道徳教育指導論［井藤　元］春学期授業/Spring 30
【C6036】道徳教育指導論［廣瀬　仁郎］春学期授業/Spring 31
【C6037】道徳教育指導論［渡邉　優子］秋学期授業/Fall 33
【C6038】道徳教育指導論［廣瀬　仁郎］秋学期授業/Fall 34
【C6039】特別活動論［中村　岳夫］春学期授業/Spring 36
【C6040】特別活動論［中村　岳夫］春学期授業/Spring 37
【C6041】特別活動論［児玉　洋介］春学期授業/Spring 38
【C6042】特別活動論［中村　岳夫］秋学期授業/Fall 39
【C6043】特別活動論［森本　扶］秋学期授業/Fall 40
【C6044】生徒・進路指導論［岩本　俊一］春学期授業/Spring 41
【C6045】生徒・進路指導論［渡部　忠治］春学期授業/Spring 42
【C6046】生徒・進路指導論［児玉　洋介］秋学期授業/Fall 43
【C6047】生徒・進路指導論［児美川　孝一郎］秋学期授業/Fall 44
【C6048】生徒・進路指導論［綿貫　公平］秋学期授業/Fall 45
【C6049】特別な教育的ニーズの理解と支援［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall 46
【C6050】特別な教育的ニーズの理解と支援［太田　研］秋学期授業/Fall 47
【C6127】社会・地歴科教育法［石出　法太］年間授業/Yearly 48

【C6051】社会・地歴科教育法（1）［石出　法太］春学期授業/Spring 49
【C6052】社会・地歴科教育法（2）［石出　法太］秋学期授業/Fall 50
【C6129】社会・地歴科教育法［本山　明］年間授業/Yearly 51
【C6055】社会・地歴科教育法（1）［本山　明］春学期授業/Spring 52
【C6056】社会・地歴科教育法（2）［本山　明］秋学期授業/Fall 53
【C6131】社会・地歴科教育法［石出　法太］年間授業/Yearly 54
【C6059】社会・地歴科教育法（1）［石出　法太］春学期授業/Spring 55
【C6060】社会・地歴科教育法（2）［石出　法太］秋学期授業/Fall 56
【C6133】社会・公民科教育法［八木橋　正之］年間授業/Yearly 57
【C6063】社会・公民科教育法（1）［八木橋　正之］春学期授業/Spring 58
【C6064】社会・公民科教育法（2）［八木橋　正之］秋学期授業/Fall 59
【C6135】社会・公民科教育法［松尾　知明］年間授業/Yearly 59
【C6067】社会・公民科教育法（1）［松尾　知明］春学期授業/Spring 60
【C6068】社会・公民科教育法（2）［松尾　知明］秋学期授業/Fall 61
【C6137】社会・公民科教育法［石出　法太］年間授業/Yearly 61
【C6071】社会・公民科教育法（1）［石出　法太］春学期授業/Spring 62
【C6072】社会・公民科教育法（2）［石出　法太］秋学期授業/Fall 63
【C6139】商業科教育法［木村　良成］年間授業/Yearly 64
【C6075】商業科教育法Ⅰ［木村　良成］春学期授業/Spring 65
【C6076】商業科教育法Ⅱ［木村　良成］秋学期授業/Fall 66
【C6144】英語科教育法Ⅰ［石原　紀子］春学期集中/Intensive(Spring) 67
【C6085】英語科教育法（1）［石原　紀子］春学期授業/Spring 68
【C6086】英語科教育法（2）［石原　紀子］春学期授業/Spring 69
【C6146】英語科教育法Ⅱ［飯野　厚］年間授業/Yearly 70
【C6089】英語科教育法（3）［飯野　厚］春学期授業/Spring 71
【C6090】英語科教育法（4）［飯野　厚］秋学期授業/Fall 72
【C6154】中国語科教育法Ⅰ［渡辺　昭太］春学期集中/Intensive(Spring) 73
【C6093】中国語科教育法（1）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 75
【C6094】中国語科教育法（2）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 76
【C6155】中国語科教育法Ⅱ［渡辺　昭太］秋学期集中/Intensive(Fall) 77
【C6095】中国語科教育法（3）［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 78
【C6096】中国語科教育法（4）［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 79
【C6097】情報科教育法Ⅰ［御園生　純］春学期授業/Spring 80
【C6098】情報科教育法Ⅱ［御園生　純］秋学期授業/Fall 81
【C6099】教育実習（事前指導）［米蒸　健一］春学期授業/Spring 81
【C6100】教育実習（事前指導）［池田　真澄］秋学期授業/Fall 82
【C6101】教育実習（事前指導）［福田　淑子］秋学期授業/Fall 83
【C6102】教育実習（事前指導）［松尾　知明］秋学期授業/Fall 84
【C6103】教育実習（事前指導）［寺崎　里水］秋学期授業/Fall 84
【C6104】教育実習（事前指導）［高野　良一］秋学期授業/Fall 85
【C6105】教育実習（事前指導）［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall 86
【C6106】教育実習（事前指導）［筒井　美紀］秋学期授業/Fall 87
【C6107】教育実習（事前指導）［御園生　純］秋学期授業/Fall 88
【C6108】教育実習（事前指導）［宮坂　健介］秋学期授業/Fall 89
【C6109】教職実践演習［米蒸　健一］秋学期授業/Fall 90
【C6110】教職実践演習［池田　真澄］秋学期授業/Fall 91
【C6111】教職実践演習［福田　淑子］秋学期授業/Fall 91
【C6112】教職実践演習［松尾　知明］秋学期授業/Fall 92
【C6113】教職実践演習［寺崎　里水］秋学期授業/Fall 93
【C6114】教職実践演習［高野　良一］秋学期授業/Fall 94
【C6115】教職実践演習［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall 95
【C6116】教職実践演習［筒井　美紀］秋学期授業/Fall 96
【C6117】教育実習（高）［高野　良一、児美川　孝一郎、筒井　美紀、遠藤　野ゆり、松尾　知明、寺崎　里水］年間授業/Yearly 97
【C6118】教育実習（中・高）［高野　良一、児美川　孝一郎、筒井　美紀、遠藤　野ゆり、松尾　知明、寺崎　里水］年間授業/Yearly 97
【C6119】人文地理学Ⅰ［片岡　義晴］春学期授業/Spring 98

【C6120】人文地理学Ⅱ［片岡　義晴］秋学期授業/Fall 99
【C6121】自然地理学Ⅰ［狩野　真規］春学期授業/Spring 100
【C6122】自然地理学Ⅱ［狩野　真規］秋学期授業/Fall 101
【C6123】地誌Ⅰ［山口　隆子］春学期授業/Spring 102
【C6124】地誌Ⅰ［伊藤　達也］春学期授業/Spring 102
【C6125】地誌Ⅱ［山口　隆子］秋学期授業/Fall 103
【C6126】地誌Ⅱ［伊藤　達也］秋学期授業/Fall 103
【C6758】職業指導（仕事の場と学び）［高橋　浩］年間授業/Yearly 104

教職入門

天野　一哉

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	4 年間の学びをイメージする
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第 4 回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第 14 回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的 専門書 (教育史を含む) の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）、
生徒指導提要（平成 22 年 3 月）　※いずれも PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 40 %、定期試験： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

寺崎　里水

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。
①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で行う。
授業内で指定された課題のもとにグループディスカッション、リアクションペーパーの提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：4 年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第 14 回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定の範囲を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。
具体的には、授業中に提示される課題： 40 %、定期試験： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

児玉　洋介

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流を大切に授業をすすめたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	職務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いながら、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特別に時間をかけた授業準備等の必要はないが、3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示　文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回）などから、基本的な知識や考え方、教職課程の学びへの取り組みの意思等を見て、総合的に評価する。定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

高野　良一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教師という職業の特徴	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の 3 要素
第 3 回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマの中の教師
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	「学び続ける教師」、「反省的実践家」、教師養成「改革」
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	学校改革の展開、教員評価、「私の出会った教師」再考
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と責務、教師の労働実態、「教師の働き方改革」
第 7 回	職務の全体像	教育指導の 4 分野、教師の指導文化、部活動
第 8 回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂、各教科の変更点、授業研究
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	総合学習の時間、進路指導、キャリア教育
第 11 回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌、チーム（同僚性）
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	保護者の学校参加、コミュニティ・スクール、異視線の専門家との連携
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	「学び続ける教師と教職履修生」、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
藤本典裕『新版（改訂二版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）

※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 40 %程度、修了試験： 60 %程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当する授業である。授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

天野　一哉

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
　教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】
　教育の基本的諸概念を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。
　次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテー ションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現役教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第 12 回	プレゼンテーション①	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回	プレゼンテーション②	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、
※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
　教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」： 40 %、レポート（またはプレゼンテーション）： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
　可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
　春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today’s educational issues

教育原理

遠藤　野ゆり

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の予習課題を出しますので、その課題を遂行したうえで授業に臨んでください。授業では教員からの発問が中心です。主体的に臨んでください。受講生の希望に応じてグループディスカッションを取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	本授業の内容と目的について理解します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシャ、ローマ時代の教育について、社会の仕組みや思想の観点から理解します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教が隆盛を極めた時代に教育がどのように成立したのかを理解します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世後期の教育について理解します。当時の「子ども」が社会においてどのような存在だったのかを理解します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	近代になって市民社会が成立する中で教育思想はどのように生まれたのかを理解します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命によって社会の経済が急激に変化したことは、教育思想にどのような影響をもたらしたのかを理解します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	19 世紀後半に教育の制度がととのった背景には何があったのかを帝国主義や大戦の影響の中で見ていきます。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	戦後の日本の学校教育はどのような思想に支えられているのか、またその問題は何かを理解します。
第 9 回	発達と学習	子どもの発達の特徴を理解し、学校教育における学習とのすれ違いを理解します。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育を支える学校外の環境が子どもの学習に与える影響を理解します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導、生徒指導の基本的な枠組みを理解します。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	子ども個々の個性と画一的な「学力」との齟齬を理解し、根底に流れる教育思想を理解します。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校教育の役割は今後どのように変わっていくのか、AI と学校教育との関係を含んだ「未来の教育」について考えます。
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	授業全体の総括をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間指定された範囲の予習をしてきてください。

【テキスト（教科書）】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、予習課題と授業への取り組み (30 %)、期末テスト (70 %) から判断します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の振り返りの時間が足りないということなので、振り返りの時間が十分に取れるように気を付けます。

【その他の重要事項】
授業の構成は受講者の要望に応じてそのつど若干の調整をおこないます。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

筒井　美紀

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷きに。テキスト第 1 章第 1・2 節、第 4 章第 1 節）
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷きに。テキスト第 1 章第 3 節）
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷きに。テキスト第 4 章第 1 節）
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第 2 章第 1〜3 節）
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第 3 章第 1〜3 節）
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第 3 章第 4 節）
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷きに。テキスト第 3 章第 4 節）
第 9 回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷きに。テキスト第 4 章第 2〜3 節）
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？ ――公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？――児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？ ――「その子の個性・能力」を見極め育てることの困難
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	AI ロボットに教わるか生身の先生に教わるか？ ――高度知識社会における人間性の発達
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	総まとめ：教育の基本的諸概念に関するミニ・クイズを解いて理度を確認する 定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進め方と方法、を参照

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する－－自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出のリアクションペーパー 28%（2×14 回）, 中間レポート 22%, 期末論述試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
前方で上映するパワーポイントのスライド枚数は極力減らしていますので、じっくり考えながらノートをとる時間を確保できます。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.
Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

飯窪　真也

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第 9 回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容について復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢 30%，リアクションペーパー 30%, 授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育原理

澤里　翼

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第 9 回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	教育内容を決めるべき主体がだれなのかについて考えます
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低 1 回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）10 %
小テスト　10 %
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）　40 %
期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.
Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

高野　良一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の１～３条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり
第 13 回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
第 14 回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】
教員が必要に応じて指定する。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学 (改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（４０％程度）、定期試験 (６０％程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながら、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

植竹　丘

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
小川正人・勝野正章（2016）『改訂版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会．
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会．
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社．
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房．
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会．
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター．
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店．
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版．
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる．

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

仲田　康一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第 4 回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認～特に貧困・格差等
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第 8 回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第 9 回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第 10 回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第 13 回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の再読、意見の言語化

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学 (改訂新版)』学文社
小川正人・勝野正章『改定版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（４０％程度）、定期試験 (６０％程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの記入を求めたがが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心を呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

高野　良一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の１～３条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり
第 13 回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
第 14 回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】
教員が必要に応じて指定する。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学 (改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（４０％程度）、定期試験 (６０％程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながら、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育の制度・経営

植竹　丘

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
小川正人・勝野正章（2016）『改訂版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会．
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会．
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社．
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房．
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会．
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター．
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店．
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版．
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる．

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

田澤　実

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第 3 回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第 4 回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第 5 回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第 6 回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第 7 回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第 9 回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第 10 回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第 11 回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第 12 回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第 13 回	発達障害の理解	３つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第 14 回	発達障害の支援・指導	３つの発達障害の具体的特徴を踏まえた学習支援と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにアップロードする。各自で印刷して持参する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
授業の感想を踏まえて、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

輕部　雄輝

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で以下の４つのトピックを扱う。
1.【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第 2 回～第 5 回）
2.【学習】幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を踏まえた学習を支える指導（第 6 回～第 10 回）
3.【パーソナリティ】：幼児、児童及び生徒の特徴を理解するときの視点（第 11 回～第 12 回）
4.【臨床】特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第 13 回～14 回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第 5 回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と，アイデンティティとの関連について紹介する。
第 6 回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第 7 回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第 9 回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第 10 回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第 11 回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度から継続し，授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ，受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して，本授業では理論のみならず，可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉　茉奈美

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式ですすめていく。授業後半では，その日の学習内容をまとめた問題を解くことによって授業内容の振り返りをする。その上で，その日のテーマについてグループワークを行い，リアクションペーパーに自分の考えを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	教育における発達理解の意義	幼児期から青年期まで発達過程を理解する教育的意義を説明する。
第 3 回	対人関係の発達	幼児期から青年期までの対人関係の発達について説明する。
第 4 回	認知の発達	幼児期から青年期までの認知の発達について説明する。
第 5 回	アイデンティティ	ライフサイクルと、発達時期による発達課題を説明する。
第 6 回	学習の理論	幼児から青年期までの学習のメカニズムについて説明する。
第 7 回	学習の指導	学習指導の在り方や方法を説明し、アクティブラーニングなど新しい学びの方法も紹介する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけについて説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	記憶の種類	記憶のメカニズムをもとに、記憶と学習との関係を説明する。
第 11 回	性格の理解	性格テストを体験しながら、心理測定法の考え方を説明する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	質問紙法、作業検査法、投影法など主要な心理測定法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のタイプに応じた特徴を説明する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害のある幼児、児童、生徒をどのように指導・支援できるか説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備等］教科書やレジュメを予め読んでおくこと
［復習等］レジュメを参照しながらミニテストの復習をすること

【テキスト（教科書）】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2015）やさしい教育心理学〔第 4 版〕　有斐閣（2052 円）

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回復習の時間にペアで重要用語を説明しあう時間を設けていますが、レジュメを見ずに説明できるようにしたいという声がありました。本年度からは、よりアクティブな復習時間を設けたいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

山上　真貴子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
穴埋めプリントを中心に、講義形式で授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	半期を通じた授業の流れについて説明する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第 3 回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第 4 回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第 5 回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第 6 回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第 7 回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第 8 回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第 9 回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第 10 回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第 11 回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第 13 回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出題されるまとめの問題について復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
鎌原雅彦ら 2015『やさしい教育心理学 第 4 版』有斐閣アルマ

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

遠藤　裕子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ディスカッション、ワークショップ、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学べるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題などは授業内で完結することを基本とします。現代の子ども・青年を取りまく状況に関心を寄せ、日常の中で疑問や発見を意識することが、授業時間外の学習となります。自分自身の日常生活における疑問や経験を意識しながら授業に臨みたいと思います。

【テキスト（教科書）】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣 2100 円＋税

【参考書】
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（40 %）、毎時間配布するワークシート・授業への積極的参加（60 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、現場での経験をふまえて、事例から具体的に学ぶ授業にもなります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

児玉　茉奈美

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式ですすめていく。授業後半では，その日の学習内容をまとめた問題を解くことによって授業内容の振り返りをする。その上で，その日のテーマについてグループワークを行い，リアクションペーパーに自分の考えを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	教育における発達理解の意義	幼児期から青年期まで発達過程を理解する教育的意義を説明する。
第 3 回	対人関係の発達	幼児期から青年期までの対人関係の発達について説明する。
第 4 回	認知の発達	幼児期から青年期までの認知の発達について説明する。
第 5 回	アイデンティティ	ライフサイクルと、発達時期による発達課題を説明する。
第 6 回	学習の理論	幼児から青年期までの学習のメカニズムについて説明する。
第 7 回	学習の指導	学習指導の在り方や方法を説明し、アクティブラーニングなど新しい学びの方法も紹介する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけについて説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	記憶の種類	記憶のメカニズムをもとに、記憶と学習との関係を説明する。
第 11 回	性格の理解	性格テストを体験しながら、心理測定法の考え方を説明する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	質問紙法、作業検査法、投影法など主要な心理測定法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のタイプに応じた特徴を説明する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害のある幼児、児童、生徒をどのように指導・支援できるか説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備等］教科書やレジュメを予め読んでおくこと
［復習等］レジュメを参照しながらミニテストの復習をすること

【テキスト（教科書）】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2015）やさしい教育心理学〔第 4 版〕　有斐閣（2052 円）

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回復習の時間にペアで重要用語を説明しあう時間を設けていますが、レジュメを見ずに説明できるようにしたいという声がありました。本年度からは、よりアクティブな復習時間を設けたいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育課程論

松尾　知明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりにカリキュラムのデザイン力とマネジメント力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解することを目的としている。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、教育課程を不断に改善するカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
2	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
3	教育内容の選択	教育の目的、教育課程編成の基本原理
4	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
5	学習指導要領とは	性格及び位置付け、社会的役割や機能
6	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
7	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び枠組み
8	学力論の系譜	教育課程と学力
9	カリキュラム・マネジメント	学習活動と条件整備活動の連関
10	社会に開かれた教育課程	社会とのつながり
11	教育課程と指導計画－通時性と共時性	教育課程の編成
12	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	教育課程の編成
13	カリキュラム評価	PDCA サイクルとカリキュラム評価
14	授業のまとめとテスト	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読み、課された課題を行う。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の組み立て方を工夫する。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

川津　貴司

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	ＰＤＣＡサイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

飯窪　真也

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

黄　郁倫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史的変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方について理解する。

【到達目標】
21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂なのポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本のおける特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

飯窪　真也

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

岩本　俊一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらにまた教育法方論の基本的な問題である生活指導と学習指導の関係について、我が国のカリキュラム体系と関連づけて考察する。
上記講義内容に関する理解を助けるため、我が国の学校における教育課程の概要及び具体的な実践例等、諸資料を適宜配布する。そのさい、情報機器、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ねらいと概要
第 2 回	教育方法と教師の専門性	・教師の専門性について考える
第 3 回	教育方法の基礎的理論	・児童生徒の学びと学習理論について考える。
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	・新学習指導要領と資質・能力の育成について論じる
第 5 回	教育の内容と学習活動	・単元の学習活動の構想 ・教育の内容と学習活動
第 6 回	学習活動と学習環境	・学習活動と学習環境について論じる ・学習環境としての学校について考える。
第 7 回	教育目標の明確化	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	・評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	・主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	・個に応じた指導について考える
第 11 回	情報機器及び教材の活用	・情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書などの指導技術	発問や番所などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	教育評価	・評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	・ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に内容をまとめる等、復習を通じて理解を深めるようにすること。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、参考文献などは適宜授業内において指示する予定である。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

松尾　知明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力を育てる授業デザインや教育方法について検討するとともに、その知見をもとに単元指導計画を効果的にデザインすることについて考察する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論	学びと学習理論
4	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
5	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
6	新学習指導要領と教育方法	資質・能力の育成に向けて
7	教育の内容と学習活動	単元と指導計画
8	学習活動と学習環境	学習活動の構想
9	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
10	学力と評価の観点	評価規準の設定
11	情報機器及び教材の活用	学びのツール
12	発問や板書などの指導技術	授業をつくる
13	教育評価	評価の考え方・進め方
14	授業のまとめ、テスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークを入れる。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

黄　郁倫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

川津　貴司

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法と教師の専門性	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	教育の内容と学習活動	活動的な学びの組織化
第 6 回	学習活動と学習環境	環境づくりの視点
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	情報機器及び教材の活用	情報機器の効果的な使用法
第 12 回	発問や板書などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	教育評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズも考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

黄　郁倫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育相談

田澤　実

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とリアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】
渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】
授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して扱うテーマや内容に一部変更を加えた。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

今井　文男

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・教育相談とは、生徒指導の重要な領域であることを理解し、教育活動のあらゆる場面のあらゆる機会を通して行われていることを理解する。
・本授業を通して、一人一人の児童生徒に焦点を当てた、好ましい人間関係、生活適応、自己理解等、教育相談を行う上での基礎的な知識及び具体的な進め方を学ぶ。

【到達目標】
・教育相談について、その組織的な体制や進め方等の基礎的な知識が理解できるようになる。
・日常の教育現場における、児童生徒や保護者等への教育相談の具体的な進め方が理解できるようになる。
・教育の今日的な課題である、いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談の基礎的な知識が理解できるようになる。
・事例演習を通して、教育相談ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義と事例演習（学生同士のディスカッション及びグループワーク）を行います。
・毎回の授業において、リアクションペーパー（授業シート、演習シート）の提出を求めます。
・ゲストスピーカーによる授業が有る場合は、授業の順番が入れ替わることがありますので、ご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、方法、評価方法と基準等についてのガイダンスをおこないます。
第 2 回	教育相談の意義	・教育相談についての全体像を把握する。 ・学校における教育相談の特質について。 ・事例演習。
第 3 回	教育相談体制	・教育相談の体制づくりについて。 ・組織的な教育相談について。 ・事例演習。
第 4 回	教育相談の進め方	・学級担任が行う具体的な教育相談について。 ・専門機関と連携した相談活動について。 ・事例演習。
第 5 回	学習相談の進め方	・学習相談の目的や機能について。 ・学習への取り組み法や学習障害児童生徒の理解。 ・事例演習。
第 6 回	進路相談の進め方	・キャリア教育の基礎的な理解について。 ・キャリアカウンセリングの進め方について。 ・事例演習。
第 7 回	生活相談の進め方	・学校生活における法的な制度について。 ・懲戒、体罰、出席停止等と教育相談の関係について。 ・事例演習。
第 8 回	問題行動に関する相談	・問題行動の対応の進め方等について。 ・問題行動を起こす児童生徒の対応と相談について。 ・事例演習。
第 9 回	いじめに関する相談（1）	・いじめに関する基礎知識。 ・いじめの早期発見と相談活動について。 ・事例演習。
第 10 回	いじめに関する相談（2）	・いじめ問題のプロセスについて。 ・いじめ防止対応と適切な相談活動について。 ・事例演習。
第 11 回	不登校に関する相談（1）	・不登校に関する基礎知識。 ・不登校の早期発見と相談活動について。 ・事例演習。

第 12 回	不登校に関する相談（2）	・不登校を克服するための対応について。 ・不登校児童生徒と保護者のカウンセリングについて。 ・事例演習。
第 13 回	特別な支援を要する児童生徒に関する相談	・支援を要する児童生徒の基礎的な理解について。 ・発達障害に関する支援の在り方と相談活動について。 ・事例演習。
第 14 回	振り返り、まとめ 試験	・教育相談について、基礎的な知識と進め方などについての振り返りを行い、授業の内容をまとめる。 ・授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育相談に関する新聞記事等の閲覧やマスコミ等における児童生徒についての社会問題をとらえ多面的に思考する。授業に関する基礎的な知識などを事前に学習する。教育に関する時事問題への関心を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。
適宜、必要な図書を紹介。資料等を配布する。

【参考書】
文部科学省「生徒指導提要」 2010.
文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」2011.
文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」[最新版）

【成績評価の方法と基準】
・授業毎のリアクションペーパー（4 割）
・学習活動（2 割）
・試験 (4 割)

【学生の意見等からの気づき】
授業時間を守る。
学生同士のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。（利用する場合は、事前にお知らせいたします）

【その他の重要事項】
・時間を守ること。・他人の話は黙って聞くこと。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

輕部　雄輝

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ，教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で以下の３つのトピックを扱う。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回～第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
講義では，教員はパワーポイントを用いて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
大芦治　2016　『教育相談・学校精神保健の基礎知識』〔第 3 版〕　ナカニシヤ出版
庄司一子（監修）杉本希映・五十嵐哲也（編著）　2015　『事例から学ぶ児童・生徒　への指導と援助』〔第 2 版〕　ナカニシヤ出版
森岡正芳（編著）　2012　『カウンセリングと教育相談―具体事例を通して理解する』　あいり出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度から継続し，授業内でのグループディスカッション等を取り入れ，受講生間の意見交換や実践現場における疑似演習を体験いただく機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して，本授業では事例的トピックも取り上げ，可能な限り具体的な対応についても検討する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

山上　真貴子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行う。また、適宜視聴覚教材を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	半期を通じた授業の流れについて説明する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？―困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 6 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 7 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 8 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 10 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 14 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、レポート（30 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業中にフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムに授業資料をアップします。事前に印刷が必要な場合、教員から指示します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

輕部　雄輝

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ，教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で以下の３つのトピックを扱う。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回～第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
講義では，教員はパワーポイントを用いて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
大芦治　2016　『教育相談・学校精神保健の基礎知識』〔第 3 版〕　ナカニシヤ出版
庄司一子（監修）杉本希映・五十嵐哲也（編著）　2015　『事例から学ぶ児童・生徒　への指導と援助』〔第 2 版〕　ナカニシヤ出版
森岡正芳（編著）　2012　『カウンセリングと教育相談―具体事例を通して理解する』　あいり出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度から継続し，授業内でのグループディスカッション等を取り入れ，受講生間の意見交換や実践現場における疑似演習を体験いただく機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して，本授業では事例的トピックも取り上げ，可能な限り具体的な対応についても検討する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

今井　文男

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・教育相談とは、生徒指導の重要な領域であることを理解し、教育活動のあらゆる場面のあらゆる機会を通して行われていることを理解する。
・本授業を通して、一人一人の児童生徒に焦点を当てた、好ましい人間関係、生活適応、自己理解等、教育相談を行う上での基礎的な知識及び具体的な進め方を学ぶ。

【到達目標】
・教育相談について、その組織的な体制や進め方等の基礎的な知識が理解できるようになる。
・日常の教育現場における、児童生徒や保護者等への教育相談の具体的な進め方が理解できるようになる。
・教育の今日的な課題である、いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談の基礎的な知識が理解できるようになる。
・事例演習を通して、教育相談ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義と事例演習（学生同士のディスカッション及びグループワーク）を行います。
・毎回の授業において、リアクションペーパー（授業シート、演習シート）の提出を求めます。
・ゲストスピーカーによる授業が有る場合は、授業の順番が入れ替わることがありますので、ご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、方法、評価方法と基準等についてのガイダンスをおこないます。
第 2 回	教育相談の意義	・教育相談についての全体像を把握する。 ・学校における教育相談の特質について。 ・事例演習。
第 3 回	教育相談体制	・教育相談の体制づくりについて。 ・組織的な教育相談について。 ・事例演習。
第 4 回	教育相談の進め方	・学級担任が行う具体的な教育相談について。 ・専門機関と連携した相談活動について。 ・事例演習。
第 5 回	学習相談の進め方	・学習相談の目的や機能について。 ・学習への取り組み法や学習障害児童生徒の理解。 ・事例演習。
第 6 回	進路相談の進め方	・キャリア教育の基礎的な理解について。 ・キャリアカウンセリングの進め方について。 ・事例演習。
第 7 回	生活相談の進め方	・学校生活における法的な制度について。 ・懲戒、体罰、出席停止等と教育相談の関係について。 ・事例演習。
第 8 回	問題行動に関する相談	・問題行動の対応の進め方等について。 ・問題行動を起こす児童生徒の対応と相談について。 ・事例演習。
第 9 回	いじめに関する相談（1）	・いじめに関する基礎知識。 ・いじめの早期発見と相談活動について。 ・事例演習。
第 10 回	いじめに関する相談（2）	・いじめ問題のプロセスについて。 ・いじめ防止対応と適切な相談活動について。 ・事例演習。
第 11 回	不登校に関する相談（1）	・不登校に関する基礎知識。 ・不登校の早期発見と相談活動について。 ・事例演習。

第 12 回	不登校に関する相談（2）	・不登校を克服するための対応について。 ・不登校児童生徒と保護者のカウンセリングについて。 ・事例演習。
第 13 回	特別な支援を要する児童生徒に関する相談	・支援を要する児童生徒の基礎的な理解について。 ・発達障害に関する支援の在り方と相談活動について。 ・事例演習。
第 14 回	振り返り、まとめ 試験	・教育相談について、基礎的な知識と進め方などについての振り返りを行い、授業の内容をまとめる。 ・授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育相談に関する新聞記事等の閲覧やマスコミ等における児童生徒についての社会問題をとらえ多面的に思考する。授業に関する基礎的な知識などを事前に学習する。教育に関する時事問題への関心を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。
適宜、必要な図書を紹介。資料等を配布する。

【参考書】
文部科学省「生徒指導提要」 2010.
文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」2011.
文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」[最新版）

【成績評価の方法と基準】
・授業毎のリアクションペーパー（4 割）
・学習活動（2 割）
・試験 (4 割)

【学生の意見等からの気づき】
授業時間を守る。
学生同士のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。（利用する場合は、事前にお知らせいたします）

【その他の重要事項】
・時間を守ること。・他人の話は黙って聞くこと。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

道徳教育指導論

井藤　元

単位：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・Power Point を用い、授業をおこなう。
・適宜 DVD などの視聴覚メディアを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳教育を学ぶ意義について理解する。
第２回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	①「道徳の教科化」について ②教科化により何が変わったか ③評価の問題
第３回	道徳教育の歴史	①教育勅語のもとでの道徳教育 ②「修身教育」について ③国民学校における道徳教育
第４回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	①心の教育は可能か ②複数化される自己 ③「キャラ」について
第５回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	①いのちの教育は可能か ②デスエデュケーションについて ③様々ないのちの教育の実践
第６回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	①「青い目茶色い目」の実践 ②社会現実と教育現実 ③人権教育に関するさまざまな実践
第７回	道徳性の発達理論	①ピアジェによる道徳性の発達理論 ②コールバーグによる道徳性の発達理論 ③ギリガンによる道徳性の発達理論 ④ケアリング論について
第８回	悪の体験と子どもの発達	①子どもと悪 ②悪の体験と教育の限界点 ③悪の体験と自己の変容
第９回	情報モラル	①情報モラルとは何か ②情報手段の活用 ③情報モラルに関する具体的実践
第１０回	シティズンシップ教育について	①市民教育としての道徳教育 ②市民教育と規範教育 ③シティズンシップ教育に関する実践例
第１１回	モラルジレンマ型の道徳教育	①モラルジレンマ型道徳教育の意義 ②モラルジレンマ型道徳教育の注意点 ③モラルジレンマ資料を用いた実践
第１２回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	①「道徳」の指導案の書き方 ②発問の種類 ③発問の重要性について
第１３回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	①学校全体で行う道徳教育 ②教科教育と道徳教育

第１４回　到達度確認テスト　　到達度確認テストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：当該回のテーマについて事前にインターネットや文献で調べる。
復習：参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と１４回目に行う到達度確認テスト（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケートの意見を踏まえて、授業改善を行う。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

廣瀬　仁郎

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は道徳教育に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、今後の道徳教育の課題と展望を拓くことを基盤に、「実践知教育」により学芸と実践性の両面を融合していくことを目指すものである。
　道徳教育の動向をめぐっては、道徳の時間が、教育課程上の位置づけが変わり、「特別の教科　道徳」として新たな枠組みで実施されることとなった。これまでの成果と課題を見直し、主体的で対話的で深い学びが伴う「考え、議論する道徳」への質的転換が強く求められるようになってきた。
　こうした転換期にあって、道徳教育の原点に立ち返り、道徳教育の歴史や諸外国の理論に学びながら、今後の道徳教育の在り方を考察していく。更に、映像による教育現場での実際の授業の視聴や模擬授業の実施を通して、道徳科の指導の在り方や効果について議論を深め、実践的な知識及び技能の修得を目指す。

【到達目標】
◇道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
◇学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画
や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　基本的には、プレゼンと配付資料を用いての講義形態が中心となる。また、理論と実践の融合をめざし、教材研究の演習や教育現場での道徳授業の映像を視聴しての協議や学習指導案の作成、模擬授業の実施に際してはグループワークを取り入れ、実効性のある技能の習得を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	道徳の本質と道徳教育の役割	①１４回の授業の概要についてのガイダンス ②道徳の本質と道徳教育の意義、人格形成に果たす役割 ③教育課程と学校における道徳教育 ④生きる力と道徳教育の関係
第２回	道徳教育の歴史と変遷	（１）戦前の道徳教育の歴史 ①「学制」の制定と修身科 ②「学校令」と道徳教育 ③「教育勅語」と道徳教育 ④国民学校における道徳教育 （２）戦後の道徳教育の歴史 ①全面主義道徳教育の時代 ②道徳の時間の特設 ②学習指導要領の変遷と道徳教育改訂の歩み ③「心のノート」と「私たちの道徳」 ④教育再生実行会議と「特別の教科　道徳」
第３回	道徳性の発達	①学習指導要領が求める道徳性 ②道徳性の発達理論の理解 フロイトの理論　ピアジェの理論　コールバーグの理論　ブルの理論

第４回	海外と日本における道徳教育の授業理論	①アメリカの道徳教育 インカルケーションと価値の明確化 モラルジレンマ型の道徳教育とシティズンシップ教育 ②その他　韓国の道徳教育等の概要 ③日本の道徳教育 ・総合単元的な道徳学習　統合的道徳教育 ・教育現場に影響を及ぼした道徳授業の考察
第５回	現代社会における心の課題と学校における道徳教育の全体構想	①現代社会における道徳教育上の課題 ②道徳教育と道徳科の目標 ③各教科等における道徳教育 ④組織体としての道徳教育の推進 ⑤道徳教育の全体計画及び別葉の作成 ⑥道徳科の年間指導計画の作成
第６回	道徳科の内容と教材	①内容構成の考え方 ②内容項目の指導の観点 ③道徳科の教材に求められる内容の観点 ④検定教科書の使用について
第７回	道徳科の授業理論と学習指導過程	①道徳の時間の成果と課題に関する考察 ②「考え議論する道徳」への転換と道徳科への期待 ③道徳科の特質を生かした学習指導 ④道徳科の学習指導過程 ⑤実効性のある道徳授業の志向 自己内対話の促進と交流分析の考えを生かした授業理論 確認とまとめ　第１回～第７回対象
第８回	教育現場における道徳授業の実際	①小学校における道徳授業の実際　映像による視聴と研究協議 ②中学校における道徳授業の実際　映像による視聴とワークショップ ③中学校の道徳教育研究会や研究指定校の取組の紹介
第９回	道徳科における質の高い多様な学習指導の展開	①道徳科における質の高い多様な指導方法の考察 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 ・問題解決的な学習 ・道徳的行為に対する体験的な学習 ②発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導 ③いのち、いじめ問題等現代的な課題に対応する道徳科の指導
第１０回	道徳科における評価の在り方	①道徳科の評価の在り方に関する専門家会議での検討 ②文科省による道徳における評価の基本的な考え方 ③道徳科における評価の実際と指導要録
第１１回	教材分析と道徳科学習指導案の作成	①教材の構造と活用の視点　発問の構想 ②道徳科における学習指導案の在り方と作成手順 ③指定教材を用いた教材分析と学習指導案作成に関する演習 ④作成した指導案のプレゼン発表と協議
第１２回	作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施	①各グループによる模擬授業 ②模擬授業を巡っての授業効果の検証に関する協議 導入　展開　終末の工夫　発問の在り方　板書の工夫　評価の在り方 ③模擬授業のまとめと学習指導案の修正
第１３回	道徳的実践の指導と家庭や地域社会との連携	①学級経営と潜在的カリキュラムにおける道徳教育 ②道徳的実践の指導と豊かな体験 ③家庭・地域社会との連携　小中の接続 ④高等学校における道徳教育の取組
第１４回	今後の道徳教育の展望と課題	①道徳科の実施に伴う教育現場の受け止めと問題意識 ②教職員の多忙化とローテーション授業の取組 ②自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く能動的な学びの育成 ③予測困難な時代における未来の創り手を育てる道徳教育の役割　④ＡＩの加速度的進化に伴う心の教育の在り方等の考察 ⑤今後の道徳教育の展望を巡っての考察とまとめ ―試験とまとめ―

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第１回
　準備学習：中学校における教育課程の概要と道徳教育の位置づけについて把握しておく。
　復習：　参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。
第２回
　準備学習：戦前の道徳教育と戦後の道徳教育の変遷や違いについての概要を文献やインターネットで調べる。
　復習：　配付資料に関連してよりくわしく知りたいことを文献やインターネットで確認する。
第３回
　準備学習：文科省解説書　道徳科編における道徳性の定義について目を通しておく。
　復習：　参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。
第４回
　準備学習：文献やインターネットで諸外国の道徳教育の実施の現状についてその概要を把握しておく。
　復習：　参考文献一覧に示した著作を読み、海外と対比した日本の道徳教育の特徴についてまとめておく。
第５回
　準備学習：中学校学習指導要領解説総則編　第６節　道徳教育推進上の配慮事項及び「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章　指導計画の作成と内容の取扱　第１節　指導計画作成上の配慮事項　について目を通しておく。
　復習：　インターネット等で実際の中学校の道徳教育全体計画と年間指導計画の作成例について調べてみる。
第６回
　準備学習：道徳の教材にどのようなものがあるかインターネット等で調べておく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第３章　道徳科の内容について読み返しておく。
第７回
　準備学習：道徳の時間と道徳科の違いについて調べておく。
　復習：　参考文献一覧に示した文献を読み、理解を深める。
第８回
　準備学習：小中学校時の道徳授業の体験を基に、道徳授業の課題と理想的な授業についてイメージし、まとめておく。
　復習：　文科省 HP の道徳教育アーカイブにある道徳授業の映像を視聴する
第９回
　準備学習：文科省 HP から、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による「道徳科における質の高い多様な指導方法について」読んでおく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章第３節　指導の配慮事項
を読み返しておく。
第１０回
　準備学習　現行の「道徳の時間」の評価について調べておく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第５章　道徳科の評価について読み返しておく。
第１１回
　準備学習：「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章第２節　道徳科の指導
について目を通しておく。
　復習：　インターネット等により実際の道徳科学習指導案について調べ、参考となる事項についてまとめておく。
第１２回
　準備学習：前時に作成した指導案での授業構想について具体的に練っておく。
　復習：　実施した授業の振り返りと今後の課題の整理
第１３回
　準備学習：特色ある道徳教育を推進している教育現場での取組についてインターネット等で調べておく。
　復習：　茨城県の取組等高等学校における道徳教育の推進や教材の作成について調べてみる。
第１４回
　準備学習：インターネット等により、教育再生実行会議（第十次提言）の概要に目を通しておく。
　復習：　１４回の授業について要点をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説総則編　　平成２９年７月　文部科学省　東山書房
中学校学習指導要領解説　道徳科編　平成２９年７月　文部科学省　教育出版

【参考書】

四訂　道徳教育を学ぶ人のために　小寺正一　藤永芳純　編　世界思想社　２０１６年
中学校学習指導要領解説　道徳編　平成２０年９月　文部科学省 発行者 日本文教出版

※この他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
確認テスト（第７回時）、定期試験（第１４回時）　５０％
　道徳教育及び道徳科の意義や目標、その指導内容や方法、評価について理解できている。
振り返りシート　学習指導案　３０％
　各回の授業内容について概要を博しそれに対する自分なりの気づきや感想、批判的な考察等を述べている。ねらいと展開が明確な学習指導案の作成
学修状況・ワークショップ、模擬授業等　２０％
　道徳教育に関する基本的事項に関心を持ち、学習指導案に基づく模擬授業、テーマに即した議論等で積極的に参加している。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
埼玉県において管理職（校長）、県教育委員会役付、道徳教育研究会長の実務経験
専門分野での実績
　文部科学省「心のノート」「私たちの道徳」作成協力者
　小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者（平成１０年度　２０年度）
　小学校及び中学校道徳科教科書（学研版）編集委員
＊実務経験を生かし、道徳科の最新の動向と情報提供の充実に努め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を重視する。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

渡邉　優子

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義について検討する。
第２回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置付け、道徳の教科化、その評価などについて検討する。
第３回	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育について検討する。
第４回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。
第５回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	学指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。
第６回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。
第７回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第８回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第９回	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第１０回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第１１回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第１２回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の仕方など、指導案作成のポイントについて検討する。
第１３回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
第１４回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じて授業中に資料を配布、参考文献を紹介する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？』（日本図書センター、2011 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する道徳の学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやディスカッションを実施する際には、履修者が活動しやすいように授業の展開において工夫する。授業中に実施するワークのねらい等を示すことで、履修者自身による能動的な学びをサポートする。

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

道徳教育指導論

廣瀬　仁郎

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳教育に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、今後の道徳教育の課題と展望を拓くことを基盤に、「実践知教育」により学芸と実践性の両面を融合していくことを目指すものである。
道徳教育の動向をめぐっては、道徳の時間が、教育課程上の位置づけが変わり、「特別の教科　道徳」として新たな枠組みで実施されることとなった。これまでの成果と課題を見直し、主体的で対話的で深い学びが伴う「考え、議論する道徳」への質的転換が強く求められるようになってきた。
こうした転換期にあって、道徳教育の原点に立ち返り、道徳教育の歴史や諸外国の理論に学びながら、今後の道徳教育の在り方を考察していく。更に、映像による教育現場での実際の授業の視聴や模擬授業の実施を通して、道徳科の指導の在り方や効果について議論を深め、実践的な知識及び技能の修得を目指す。

【到達目標】
◇道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
◇学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には、プレゼンと配付資料を用いての講義形態が中心となる。また、理論と実践の融合をめざし、教材研究の演習や教育現場での道徳授業の映像を視聴しての協議や学習指導案の作成、模擬授業の実施に際してはグループワークを取り入れ、実効性のある技能の習得を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	道徳の本質と道徳教育の役割	①１４回の授業の概要についてのガイダンス ②道徳の本質と道徳教育の意義、人格形成に果たす役割 ③教育課程と学校における道徳教育 ④生きる力と道徳教育の関係
第２回	道徳教育の歴史と変遷	（１）戦前の道徳教育の歴史 ①「学制」の制定と修身科 ②「学校令」と道徳教育 ③「教育勅語」と道徳教育 ④国民学校における道徳教育 （２）戦後の道徳教育の歴史 ①全面主義道徳教育の時代 ②道徳の時間の特設 ②学習指導要領の変遷と道徳教育改訂の歩み ③「心のノート」と「私たちの道徳」 ④教育再生実行会議と「特別の教科　道徳」
第３回	道徳性の発達理論	①学習指導要領が求める道徳性 ②道徳性の発達理論の理解 フロイトの理論 ピアジェの理論 コールバーグの理論 ブルの理論
第４回	海外と日本における道徳教育の授業理論	①アメリカの道徳教育　　インカルケーションと価値の明確化 　モラルジレンマ型の道徳教育とシティズンシップ教育 ②その他　韓国の道徳教育等の概要 ③日本の道徳教育 　総合単元的な道徳学習　統合的道徳教育 　教育現場に影響を及ぼした道徳授業論の対比

第５回	現代社会における心の課題と学校における道徳教育の全体構想	①現代社会における道徳教育上の課題 ②道徳教育と道徳科の目標 ③各教科等における道徳教育 ④組織体としての道徳教育の推進 ⑤道徳教育の全体計画及び別葉の作成 ⑥道徳科の年間指導計画の作成
第６回	道徳科の内容と教材	①内容構成の考え方 ②内容項目の指導の観点 ③道徳科の教材に求められる内容の観点 ④検定教科書の使用について
第７回	道徳科の授業理論と学習指導過程	①道徳の時間の成果と課題に関する考察 ②「考え議論する道徳」への転換と道徳科への期待 ③道徳科の特質を生かした学習指導 ④道徳科の学習指導過程⑤実効性のある道徳授業の志向 自己内対話の促進と交流分析の考えを生かした授業理論 確認ミニテスト　第１回～第７回対象
第８回	教育現場における道徳授業の実際	①小学校における道徳授業の実際　映像による視聴と研究協議 ②中学校における道徳授業の実際　映像による視聴とワークショップ ③教育研究会や研究指定校の取組の紹介
第９回	道徳科における質の高い多様な学習指導の展開	①道徳科における質の高い多様な指導方法の考察 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 ・問題解決的な学習 ・道徳的行為に対する体験的な学習 ②発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導 ③いのち、いじめ問題等現代的な課題に対応する道徳科の指導
第１０回	道徳科における評価の在り方	①道徳科の評価の在り方に関する専門家会議での検討 ②文科省による道徳における評価の基本的な考え方 ③道徳科における評価の実際と指導要録
第１１回	教材分析と道徳科学習指導案の作成	①教材の構造と活用の視点　発問の構想 ②道徳科における学習指導案の在り方と作成手順 ③指定教材を用いた教材分析と学習指導案作成に関する演習 ④作成した指導案のプレゼン発表と協議
第１２回	作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施	①各グループによる模擬授業 ②模擬授業を巡っての授業効果の検証に関する議論 導入　展開　終末の工夫　発問の在り方　板書の工夫　評価の在り方 ③模擬授業のまとめと学習指導案の修正
第１３回	道徳的実践の指導と家庭や地域社会との連携	①学級経営と潜在的カリキュラムにおける道徳教育 ②道徳的実践の指導と豊かな体験 ③家庭・地域社会との連携　小中の接続 ④高等学校における道徳教育の取組
第１４回	今後の道徳教育の展望と課題	①道徳科の実施に伴う教育現場の受け止めと問題意識 ②教職員の多忙化とローテーション授業の取組 ③自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く能動的な学びの育成 ④予測困難な時代における未来の創り手を育てる道徳教育の役割 ⑤ＡＩの加速度的進化に伴う心の教育の在り方等の考察 ⑤今後の道徳教育の展望を巡っての考察とまとめ ―試験とまとめ―

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第１回
　準備学習：中学校における教育課程の概要と道徳教育の位置づけについて把握しておく。
　復習：　　参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。
第２回
　準備学習：戦前の道徳教育と戦後の道徳教育の変遷や違いについての概要を文献やインターネットで調べる。
　復習：　　配付資料に関連してよりくわしく知りたいことを文献やインターネットで確認する。
第３回
　準備学習：文科省解説書　道徳科編における道徳性の定義について目を通しておく。
　復習：　　参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。
第４回
　準備学習：文献やインターネットで諸外国の道徳教育の実施の現状についてその概要を把握しておく。
　復習：　　参考文献一覧に示した著作を読み、海外と対比した日本の道徳教育の特徴についてまとめておく。
第５回
　準備学習：中学校学習指導要領解説総則編　第６節　道徳教育推進上の配慮事項及び「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章　指導計画の作成と内容の取扱　第１節　指導計画作成上の配慮事項　について目を通しておく。
　復習：　インターネット等で実際の中学校の道徳教育全体計画と年間指導計画の作成例について調べてみる。
第６回
　準備学習：道徳の教材にどのようなものがあるかインターネット等で調べておく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第３章　道徳科の内容について読み返しておく。
第７回
　準備学習：道徳の時間と道徳科の違いについて調べておく。
　復習：　　参考文献一覧に示した文献を読み、理解を深める。
第８回
　準備学習：小中学校時の道徳授業の体験を基に、道徳授業の課題と理想的な授業についてイメージし、まとめておく。
　復習：　文科省 HP の道徳教育アーカイブにある道徳授業の映像を視聴する
第９回
　準備学習：文科省 HP から、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による「道徳科における質の高い多様な指導方法について」読んでおく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章第３節　指導の配慮事項
を読み返しておく。
第１０回
　準備学習　現行の「道徳の時間」の評価について調べておく。
　復習：　「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第５章　道徳科の評価について読み返しておく。
第１１回
　準備学習：「中学校学習指導要領解説　道徳科編」第４章第２節　道徳科の指導
について目を通しておく。
　復習：　　インターネット等により実際の道徳科学習指導案について調べ、参考となる事項についてまとめておく。
第１２回
　準備学習：前時に作成した指導案での授業構想について具体的に練っておく。
　復習：　　実施した授業の振り返りと今後の課題の整理
第１３回
　準備学習：特色ある道徳教育を推進している教育現場での取組についてインターネット等で調べておく。
　復習：　　茨城県の取組等高等学校における道徳教育の推進や教材の作成について調べてみる。
第１４回
　準備学習：インターネット等により、教育再生実行会議（第十次提言）の概要に目を通しておく。
　復習：　１４回の授業について要点をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説総則編　　平成２９年７月　文部科学省　東山書房
中学校学習指導要領解説　道徳科編　平成２９年７月　文部科学省　教育出版

【参考書】

四訂　道徳教育を学ぶ人のために　小寺正一　藤永芳純　編　世界思想社　２０１６年
中学校学習指導要領解説　道徳編　平成２０年９月　文部科学省 発行者 日本文教出版
※この他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（第７回時）、定期試験（第１４回時）　５０％
　道徳教育及び道徳科の意義や目標、その指導内容や方法、評価について理解できている。
振り返りシート　学習指導案　３０％
　各回の授業内容について概要を博しそれに対する自分なりの気づきや感想、批判的な考察等を述べている。ねらいと展開が明確な学習指導案の作成
学修状況・ワークショップ、模擬授業等　２０％
　道徳教育に関する基本的事項に関心を持ち、学習指導案に基づく模擬授業、テーマに即した議論等で積極的に参加している。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

埼玉県において管理職（校長）、県教育委員会役付、道徳教育研究会長の実務経験
専門分野での実績
　文部科学省「心のノート」「私たちの道徳」作成協力者
　小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者（平成１０年度　２０年度）

小学校及び中学校道徳科教科書（学研版）編集委員
＊実務経験を生かし、道徳科の最新の動向と情報提供の充実に努め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を重視する。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

特別活動論

中村　岳夫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第２回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第３回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第４回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第５回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第６回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第７回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第８回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第９回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第１０回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第１１回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第１２回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第１３回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第１４回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村　岳夫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第２回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第３回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第４回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第５回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第６回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第７回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第８回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第９回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第１０回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第１１回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第１２回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第１３回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第１４回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

児玉　洋介

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中学高校の学校現場がつくり上げてきた豊富な特別活動実践の具体例を学ぶことを織り交ぜながら、学生自身が自ら過ごしてきた学校での特別活動体験と重ね合わせる作業を通じて、多様な特別活動のねらいや指導の観点、指導計画の作成や指導技術等を学んでいく。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、授業への主体的な関わりや意見の交流を大切にすすめたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第２回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第３回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。学級、学校行事、儀式等の成立と役割。
第４回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第５回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第６回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第７回	話合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第８回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第９回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第１０回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第１１回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位置。部活動の今日的課題と将来展望。
第１２回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第１３回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第１４回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通した「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特別に時間をかける授業準備等の必要はないが、3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】
『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版　文部科学省）
※　PDF でダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（リアクションペーパーを活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回予定）などから総合的に評価する。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc.　This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

中村　岳夫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第２回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第３回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第４回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第５回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第６回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第７回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第８回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第９回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第１０回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第１１回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第１２回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第１３回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第１４回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

森本　扶

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、教員として学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野（学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事）において見通しをもって取り組めるための必要な知識や視点、指導法、企画力を討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動の教育課程における意義や目標を歴史的にも考察しつつ、その理念と役割を具体的な学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事の実践事例を通し、児童・生徒が主体的に取り組んでいく指導や支援の視点、指導法を学ぶ。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点や家庭、地域住民、関係機関等との連携の在り方も深めつつ、必要な知識・素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に前半は講義形式ですすめる。テキストは特に使用しない。毎回配布するプリントをもとに授業を進める。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらう（次回講義冒頭でフィードバックする）。その後、後半には、グループワークで自らが選んだテーマを深め、工夫して表現し、発表する、という授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
2	教育課程の中の特別活動	学校生活の中の特別活動
3	特別活動の歴史的変遷と児童観・生徒観①	「学級」「儀式」
4	特別活動の歴史的変遷と児童観・生徒観②	「自由研究」、参加・自治
5	戦後の学級・ホームルーム活動の実践	「やまびこ学校」「学級集団づくり」
6	学級・ホームルーム活動の理念と実践上の視点	ケアリング、応答と自治
7	特別活動の模擬授業と合評①	目標、展開、評価
8	特別活動の模擬授業と合評②	目標、展開、評価、まとめ
9	特別活動と「いじめ」指導	アイデンティティ、聴く力、ゼロトレランス
10	児童会・生徒会活動の意義と実践	参加・参画・自治、シティズンシップ
11	学校行事の意義と実践	共同的創造、自己肯定感
12	クラブ活動・部活動の意義と実践	指導と体罰、民主的運営
13	特別活動と「総合的な学習の時間」	キャリア教育、平和教育、人権教育
14	特別活動のまとめ	特別活動の課題と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、グループワークに備え、最終的に期末レポートに反映させる。グループワークの際は、メンバーと共同して授業外でも適宜作業を進める。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
関川悦雄（2010）『最新特別活動の研究』啓明出版
日本特別活動学会監修（2010）『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社
伊東毅（2011）『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局
犬塚文雄編著（2013）『特別活動論』一藝社
山田浩之編（2014）『特別活動論』協同出版
山崎英則・南本長穂編著（2017）『新しい特別活動の指導原理』ミネルヴァ書房
『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への感想文）（15 %）　グループ発表（40 %）　期末レポート（45 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加型授業の必要性

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

生徒・進路指導論

岩本　俊一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（(それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第２回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第３回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第４回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第５回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第６回	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第７回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第８回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第９回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第１０回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第１１回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第１２回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第１３回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第１４回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

渡部　忠治

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。
次にその話題について感想・意見の交換。
最後にリアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の概要とガイダンス	講義計画とその概要説明、講義アンケート
第２回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第３回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第４回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第５回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第６回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第７回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第８回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第９回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第１０回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第１１回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常的生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第１２回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第１３回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第１４回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の際、適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢，リアクションペーパーの内容等）40 %，試験 60 % で，総合的に判断し，成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
例年、学生のリアクションペーパーでは、意見交換を望む声が多い。
意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児玉　洋介

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。
多人数の授業であっても、学生同士の学びあいが充実するよう、授業内容へのコメント・意見を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第２回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりと教育課程上の位置づけ。
第３回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第４回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第５回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第６回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対処）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トレランス」
第７回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第８回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第９回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第１０回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第１１回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第１２回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとっての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第１３回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。
第１４回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用　進路指導論のまとめもふくめて	学校での「学び」と「ポートフォリオ」、進路先への接続。学校と社会の接続をめぐる歴史的転換点に立って。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特別に時間をかけた授業準備の必要はないが、3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献を指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）
『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回予定）などから総合的に評価する。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多い場合は講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

児美川　孝一郎

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回の授業は，「講義＋ディスカッション，グループワーク，発表」によって構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の概要とガイダンス	授業の内容や進め方についてのガイダンスを行う
第２回	生徒指導の意義と役割	生徒指導の歴史について紹介しつつ，生徒指導の意義と役割について解説する
第３回	生徒指導の方法	生徒指導の方法について，具体的な事例を踏まえて解説する
第４回	生徒指導における集団指導	生徒指導における集団指導について，具体的な事例を踏まえて解説する
第５回	集団指導の組織的な推進体制	集団指導の組織的な推進体制について，具体的な事例を踏まえて解説する
第６回	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）について，具体的な事例を踏まえて解説する
第７回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）について，具体的な事例を踏まえて解説する
第８回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）について，具体的な事例を踏まえて解説する
第９回	進路指導の意義と役割	進路指導の意義と役割について解説する
第１０回	進路指導の歴史と方法	生徒指導の歴史について解説し，方法について，具体的事例を踏まえて解説する
第１１回	キャリア教育の意義と役割	キャリア教育の意義と役割について，その登場と展開の過程を紹介しつつ，解説する
第１２回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法について，具体的事例を踏まえて解説する
第１３回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法について，具体的事例を踏まえて解説する
第１４回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について，具体的事例を踏まえて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢，リアクションペーパーの内容等）40 %，試験 60 % で，総合的に判断し，成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考にして，授業内容や方法を工夫したい。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

綿貫　公平

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方、方針や方法を理解できるようにする。また、進路指導（それを包括するキャリア教育）の意義と原理を実践的に理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や、方針や方法を学校現場での実践をもとに理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（それを包括するキャリア教育）の理論と実践方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本は資料に基づく「講義」「解説」となるが、テーマによって、グループワークや発表の機会を設ける。冒頭に、前回提出されたリアクションペーパーを元に、振り返りの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	授業の概要とガイダンス	自分が受けてきた生徒・進路指導を振り返る。講師の自己紹介、問題提起を含む。
第２回	生徒指導の意義と役割（１）	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第３回	生徒指導の意義と役割（２）	生徒指導の方法
第４回	生徒指導における集団指導（１）	さまざまな指導場面
第５回	生徒指導における集団指導（２）	組織的な推進体制
第６回	生徒指導における個別指導（１）	いじめ問題にどう対応するか
第７回	生徒指導における個別指導（２）	不登校にどう対応するか
第８回	生徒指導における個別指導（３）	今日的な生徒指導の課題への対応
第９回	進路指導の意義と役割（１）	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第１０回	進路指導の意義と役割（２）	進路指導の方法と実践
第１１回	キャリア教育の意義と役割	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第１２回	進路指導・キャリア教育における集団指導	ガイダンスの役割と方法
第１３回	進路指導・キャリア教育における個別指導	「働くこと」「働くルール」を学ぶ
第１４回	まとめ及び定期試験	まとめ、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次回のテーマに沿った簡単なアンケートを実施し、講義への導入を図る。必要に応じて、予習や復習の資料や、紹介された文献に目を通しておく。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業次に適宜、参考資料を示し、参考文献等を指示する。

【参考書】
学習指導要領、生徒指導提要（最新版　文部科学省）、吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』（図書文化社／２００９）、全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／２００６）、竹内常一・佐藤洋作編『教育と福祉の出会うところ』（山吹書店／２０１３）、小池由美子編『新しい高校教育をつくる』（新日本出版社／２０１４）等。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）７０％、中間レポート及び期末試験３０％で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講師は、３５年間の公立中学校教員を定年退職後、若者の就労支援を行う NPO 団体の理事兼非常勤スタッフとして、生きづらさを抱えた若者たちと日々関わっている。講義も、そうした「若者の社会につながる課題」や、中学校で実践してきたことを柱に展開する。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別な教育的ニーズの理解と支援

遠藤　野ゆり

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に着けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
映像学習を含む講義形式を原則としつつ、適宜ディスカッションやロールプレイングを実施する。動きやすい服装が求められる時は事前に指示をする。
なお講義の内容については受講生のニーズに即してそのつど相談する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本授業の目的と進め方について説明。特に文部科学省が新規科目を設定した目的と、本学の教職課程との関連とを説明。
第２回	特別な支援を必要とする子どもたち	本講義でとりあげる子どもたちは幅広い。具体的に講義の対象となる子どもの状況を理解する。
第３回	認知特性とはなにか	発達障害の子どもは認知特性に偏りがあるといわれる。そもそも認知特性とは何を指すのかを実践的に理解する。
第４回	学習障害とその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症 (自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD, ADD)」の 3 つがある。そのうちの 1 つ、学習障害とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第５回	AD/HD, ADD とその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD, ADD)」の 3 つがある。そのうちの 1 つ、注意欠陥多動症とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第６回	自閉症スペクトラム障害とその支援	発達障害は主に「学習障害」「自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害)」「注意欠陥多動症（AD/HD, ADD)」の 3 つがある。そのうちの 1 つ、自閉スペクトラム症とはどのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第７回	軽度知的障害とその支援	通常学級、もしくは一般校の特別支援学級に在籍する、軽度の知的障害のある子どもについて、どのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第８回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由・病弱な状態で、一般校に在籍、もしくは特別支援学校に在籍の子どもについて、どのような状態なのか、何が困るのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。

第９回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	家庭教育はどのような機能をもっているのか、養育基盤の弱い家庭で育つことはどのような問題を生むのか、どのような支援が必要なのかを具体的に理解する。
第１０回	多様性とインクルーシブ教育	本講義で取り上げるような多様な子どもたちを包括的（インクルーシブ）に教育していくことの理念と具体的課題とを理解する。
第１１回	個別の指導計画、教育支援計画	各特性をもつ子どもたちについて、指導と教育支援の計画をどのように立てるのか、留意点を理解し、具体的に計画を立ててみる。
第１２回	多様な関係・連携と支援	多様な子どもたちの支援には各種関連機関との連携が不可欠である。関係機関を知りどのように連携体制をつくっていくのかを理解する。
第１３回	介護等体験の意義と留意点	教職課程における介護等体験の意義と目的、留意点とを理解する。
第１４回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育と広く共生社会との関係を理解し本講義の総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて適宜指示します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で指示します。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮崎 英憲（監修）2017『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡南 2010『天才と発達障害』講談社参考書・参考資料等

【成績評価の方法と基準】
平常点（ディスカッションやグループワークへの貢献度）30 %＋期末試験 70 %
なお評価の方法については講義内で再検討します。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につき該当せず

【Outline and objectives】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

特別な教育的ニーズの理解と支援

太田　研

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に着けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式にて実施するが、教員からの一方向的な講義のみではなく、学生間のディスカッションをもとに、特別支援教育を推進めるための課題解決について検討したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第 2 回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズついて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第 3 回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第 4 回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICT の活用を中心に紹介する。
第 5 回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HD の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第 6 回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第 7 回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第 8 回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language（JSL）カリキュラムを中心に紹介する。

第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において、「準備学習・復習ワークシート」を配布する。ワークシート上に記された課題について、授業時間外に取り組み、次週の授業回において提出を求める。各回の準備学習や復習には、それぞれ約 100 分間の学習を必要とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各授業回において、資料を配布する。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
・宮崎 英憲（監修）（2017）『『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』明治図書出版
・岡 南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】
平常点（ディスカッションやグループワークへの貢献度）30 %＋期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】
特別支援学校社会人特別非常勤講師、臨床発達心理士の教員が、中学校、高等学校、特別支援学校（高等部）における実務経験をいかし、紹介可能な事例を取り上げる。

【Outline and objectives】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disabilities, mild intellectual disabilities, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

社会・地歴科教育法

石出　法太

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計 (1) ：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。

26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート提出（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第２回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第３回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
第４回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第５回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第６回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第７回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
第８回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
第９回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第１０回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第１１回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第１２回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第１３回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
第１４回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
毎時間の授業への取り組み (40 %)、　レポートと確認テスト (60 %)。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テーマにそった模擬授業（歴史の授業を軸とする）を材料に検討をおこなう。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等で授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
第２回	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第３回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第４回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
第５回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第６回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
第７回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第８回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
第９回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第１０回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
第１１回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第１２回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
第１３回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第１４回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
模擬授業を含め毎時間授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

本山　明

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態（講義、演習、）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第２回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第３回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第４回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科 教育改革と社会科の成立
第５回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第６回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第７回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第８回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第９回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG ｓの授業について
第１０回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG ｓの授業について
第１１回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第１２回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第１３回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第１４回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第１５回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第１６回	授業の設計 (1) ：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第１７回	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第１８回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第１９回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２０回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２１回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２２回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第２３回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２４回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２５回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２６回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG ｓについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第２７回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第２８回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習してくること。②夏季休業中における課題の作成。※必須③宿題※必須
※必須の提出ができないときは単位修得困難

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　　50 %
宿題・レポート　　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後に受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

本山　明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態（講義、演習）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	前期の授業計画と小・中・高の授業体験
第２回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第３回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第４回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科 教育改革と社会科の成立
第５回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第６回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第７回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第８回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第９回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG ｓの授業について
第１０回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG ｓの授業について
第１１回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第１２回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第１３回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第１４回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　50 %
宿題・レポート　　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業についての建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用するときは事前に連絡をする.

【その他の重要事項】
質問、相談は授業の後に受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の教員としての経験がある。現場の感覚に近い授業方法が修得できる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

本山　明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態（講義、演習、）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と小・中・高の授業体験
第２回	授業の設計 (1) ：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第３回	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第４回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第５回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第６回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第７回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第８回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第９回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第１０回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第１１回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第１２回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第１３回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第１４回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない

【テキスト（教科書）】
特にテキストは使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　　50 %
宿題・レポート　　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業に対する建設的な要望は取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用する場合は事前に連絡する。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業後に受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】
This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・地歴科教育法

石出　法太

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計 (1) ：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。

26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

社会・地歴科教育法（1）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、課題と発表、質疑からなり、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
第２回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
第３回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
第４回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
第５回	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
第６回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
第７回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的な授業方法を考える。
第８回	社会・地歴科の評価	授業実践の中で具体的に学ぶ。
第９回	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
第１０回	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
第１１回	教育実践研究（中学歴史）	中学校社会科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第１２回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校地歴科の中でテーマをあげて教材・授業研究。
第１３回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校の現実的な課題をとりあげる
第１４回	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
毎時間の授業への取り組み (40 %)、レポートと確認テスト (60 %)。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な課題につながる実際に役立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans and reviews them for the better.

社会・地歴科教育法（2）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テーマにそった模擬授業（歴史が中心となる）を材料に授業の検討をする。学生の模擬授業案の提出と検討、模擬授業発表と質疑、報告のまとめ等をおこない、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画と模擬授業案の検討。
第２回	授業の設計 (1) ：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
第３回	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
第４回	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
第５回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
第６回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	現代の大きな課題についてとりあげる。
第７回	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
第８回	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
第９回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
第１０回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	問題意識をもって戦争学習をとりあげる。
第１１回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	今日につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
第１２回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる様々な問題から現代史を検討する。
第１３回	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
第１４回	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業実践研究等の授業への取り組み（40 %）、レポートと確認テスト（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な課題を意識した役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.

社会・公民科教育法

八木橋　正之

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業で配布するプリントをもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第２回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第３回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第４回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第５回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第６回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第７回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第８回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第９回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第１０回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第１１回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第１２回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第１３回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第１４回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて
第１５回	実践研究及び授業評価の視点	学習のねらいと目標及び指導方法について
第１６回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第１７回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について
第１８回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第１９回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第２０回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第２１回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと政治・経済	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第２２回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー世界平和と人類の福祉、より良い社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第２３回	模擬授業（高校「公共」）	人間の尊厳と平等、個人の尊厳、法の支配などを中心に
第２４回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理についてー生命倫理・環境倫理を中心に
第２５回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に

第２６回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第２７回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第２８回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（40 %）、レポート（20 %）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

八木橋　正之

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業で配布するプリントをもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第２回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第３回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第４回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第５回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第６回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第７回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第８回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第９回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第１０回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第１１回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第１２回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第１３回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第１４回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（40 %）、レポート（20 %）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

八木橋　正之

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業で配布するプリントをもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通じて、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	実践研究及び授業評価の視点	学習のねらいと目標及び指導方法について
第２回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第３回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について
第４回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第５回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第６回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第７回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第８回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第９回	模擬授業（高校「公共」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第１０回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理についてー生命倫理、環境倫理を中心に
第１１回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第１２回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第１３回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第１４回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのかを意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（40 %）、レポート（20 %）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】
This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

松尾　知明

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。また、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	発表と質疑
17	実践研究（高校「公共」）	発表と質疑
18	実践研究（高校「倫理」）	発表と質疑
19	実践研究（高校「政治・経済」）	発表と質疑
20	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	授業の実施と検討
21	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	授業の実施と検討
22	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	授業の実施と検討
23	模擬授業（高校「公共」）	授業の実施と検討
24	模擬授業（高校「倫理」）	授業の実施と検討
25	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業の実施と検討
26	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	公民教育のめざすもの
27	高校社会・公民科の授業実践の課題	公民教育のめざすもの
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。また、文献や資料などを読み、課題に応えてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。

【テキスト（教科書）】
三谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』学文社。その他、授業において指示する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

松尾　知明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・公民科教育法(1)では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。

【テキスト（教科書）】
三谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』学文社。その他、授業において指示をする。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

松尾　知明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・公民科教育法⑵では、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究（中学社会科公民的分野）	発表と質疑
3	実践研究（高校「公共」）	発表と質疑
4	実践研究（高校「倫理」）	発表と質疑
5	実践研究（高校「政治・経済」）	発表と質疑
6	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	授業の実施と検討
7	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	授業の実施と検討
8	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	授業の実施と検討
9	模擬授業（高校「公共」）	授業の実施と検討
10	模擬授業（高校「倫理」）	授業の実施と検討
11	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業の実施と検討
12	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	公民教育のめざすもの
13	高校社会・公民科の授業実践の課題	公民教育のめざすもの
14	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応えてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。

【テキスト（教科書）】
三谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』学文社。その他、授業においてを指示する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30 %）、課題、学習指導案、模擬授業（50 %）、レポートと発表（20 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

社会・公民科教育法

石出　法太

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。毎時間提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
3	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中での公民科について学ぶ。
4	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
5	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
7	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
8	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
9	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
10	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
11	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
13	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
14	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポートの作成。
15	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
17	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
18	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
19	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
20	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
21	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
22	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
23	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
24	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題に考える。
25	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
26	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。

27	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
28	授業のまとめ	授業をふりかえりレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】
中学校公民教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍

【参考書】
授業時に適宜紹介する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、授業時の感想・レポートの提出（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）をもとに総合的に勘案してして評価する。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（1）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。講義や視覚教材による学習、授業内の発表、討議などが中心となり、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
第２回	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
第３回	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中での公民科について学ぶ。
第４回	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
第５回	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
第６回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
第７回	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題をとりあげた授業で検討する。
第８回	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
第９回	教材の研究と開発	中・高の授業をとりあげて教材研究論を考える。
第１０回	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
第１１回	学習評価の工夫と実際	実際の授業をとりあげて評価の問題を考える。
第１２回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第１３回	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
第１４回	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポートの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】
中学校公民教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、課題（30 %）、テスト（60 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点に立った実際に役にたつ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

社会・公民科教育法（2）

石出　法太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には学生の主体的な学習への取り組みによって授業をすすめる。授業においては模擬授業、発表、討議などが中心となる。さらに講義などの補足もおこなわれ、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
第２回	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
第３回	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
第４回	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
第５回	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題をとりあげる。
第６回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題をとりあげたものをテーマとする。
第７回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
第８回	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
第９回	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
第１０回	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題に考える。
第１１回	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
第１２回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
第１３回	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
第１４回	授業のまとめ	授業をふりかえりレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】
中学校公民教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍

【参考書】
教員が適宜紹介する。
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
課題（20 %）、模擬授業（20 %）、試験（60 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to implement case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals using the basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

商業科教育法

木村　良成

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春・秋学期の授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに，当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。
まず最初に，商業教育とは，特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか，そしてそれにはどのような効用なり，役割が期待されているのかを考えてみる。
春学期の授業では，当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが，その前段階として，まず，一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画，学習形態と学習指導法などについて学習する。その後，高等学校の商業教科の組織上の科目群，すなわち，流通ビジネス（商業経済），国際経済，簿記会計，経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで，それぞれの科目の性格・目標，内容などとの関連において，これらに適した学習指導法について考え，演習を試みてみる。秋学期は，そのような商業教育は，わが国の場合，何時ごろ，どのような社会的経済的背景の下に起こり，どのような変遷を経て今日に至ったのか，特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。
その後，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学綬の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】
教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくようにな教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義一辺倒にならぬように，例えば，アクティブラーニング的な課題学習や模擬授業のようなものを取り入れたり，現職教員を招いての講演会を行うなど，多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	（1） 基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	（2） 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
5	教科商業の科目について	（3） 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	（4） 発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育
19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育
20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育

21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長育期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的変化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	（１）教材研究の方法にあたって
27	授業を行うにあたっての留意点	（２）板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	（３）５０分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』＜最新版＞
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』＜最新版＞
　他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　この授業の成績評価は，春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート），授業中の学習態度，出席率などを総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】
１２桁電卓

【その他の重要事項】
簿記・会計が理解できていること。

【Outline and objectives】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it.　Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored.　And then, historical development of commercial education after the World War Ⅱ, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

商業科教育法Ⅰ

木村　良成

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず最初に授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに，当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。
　次に，商業教育とは，特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか，そしてそれにはどのような効用なり，役割が期待されているのかを考えてみる。
　春学期の授業では，当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが，その前段階として，まず，一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画，学習形態と学習指導法などについて学習する。その後，高等学校の商業教科の組織上の科目群，すなわち，流通ビジネス（商業経済），国際経済，簿記会計，経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで，それぞれの科目の性格・目標，内容などとの関連において，これらに適した学習指導法について考え，演習を試みてみる。
　その後，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学綻の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】
　教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくようにな教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　講義一辺倒にならぬように，例えば，アクティブラーニング的な課題学習や模擬授業のようなものを取り入れたり，現職教員を招いての講演会を行うなど，多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
第 2 回	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
第 3 回	教科商業の科目について	（1） 基礎科目（実際の科目についての説明）
第 4 回	教科商業の科目について	（2） 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
第 5 回	教科商業の科目について	（3） 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
第 6 回	教科商業の科目について	（4） 発展科目（実際の科目についての説明）
第 7 回	商業教育の特質	普通高校との相違
第 8 回	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
第 9 回	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
第 10 回	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
第 11 回	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
第 12 回	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
第 13 回	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
第 14 回	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』＜最新版＞
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』＜最新版＞
　他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　この授業の成績評価は，定期試験（またはレポート）＜４０％＞，授業中の学習態度＜３０％＞や履修状況など＜３０％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
－

【学生が準備すべき機器他】
１２桁計算機

【その他の重要事項】
簿記・会計が理解できていること。
必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修すること。（その後，「商業科教育法Ⅱ」を履修することとする。）

【Outline and objectives】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.

商業科教育法Ⅱ

木村　良成

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになることを主眼とし、商業科の一教員として最大限身につけておくように学習活動を行う。講義一辺倒にならぬように，学生主体の授業を行う。

【到達目標】
商業科教育法Ⅰの授業を通して，商業教育，特に高等学校の商業科教育の科目の違いについて学習した。今回は当該科目の教育方法についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。
秋学期においては，今まで学習していた商業教育は，わが国の場合，何時ごろ，どのような社会的経済的背景の下に起こり，どのような変遷を経て今日に至ったのか，特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。
ここでも，最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学絞の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから，ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
アクティブラーニング的な課題学習や模擬授業，現職教員を招いての講演会を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	現代商業教育の実状と問題点及び課題と解決	課題と解決方法について探る
第２回	今後の商業教育の動向について、将来の商業科教育を模索	将来の商業科教育を模索し、考える
第３回	近代商業教育制度の創設－室町時代から江戸時代	室町時代から江戸時代における教育体系
第４回	明治時代の商業教育－明治時代初期における学制を中心とした教育	明治時代初期における学制を中心とした教育（森有礼の存在）
第５回	学制の発布とその創成期－教育令や商業学校通則に従った商業教育	教育令や商業学校通則に従った商業教育（その他実業学校との比較）
第６回	明治時代中期以降の商業教育－実業学校令における商業教育	実業学校令における商業教育での進展
第７回	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育－大正期における商業教育の絶頂期	大正期における商業教育の栄光の絶頂期
第８回	第二次世界大戦中の－商業教育の危機	商業教育の危機とその現状
第９回	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化―高度経済成長育期までの商業教育の成長	高度経済成長期までの商業教育の成長
第１０回	商業教育の体系的変化―高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）	高度経済成長以降の低成長及びバブル経済下における商業教育の質的変化
第１１回	実際に行われている商業教育の現場から　（担当：商業科高等学校教員を招聘）	高等学校商業科に勤務している教員を招聘しての講演
第１２回	授業を行うにあたっての留意点　（１）教材研究の方法と情報機器の活用方法	教材研究の方法にあたって
第１３回	授業を行うにあたっての留意点　（２）板書例と黒板の書き方	板書例と黒板やホワイトボード、電子黒板の使用方法
第１４回	授業を行うにあたっての留意点　（３）５０分授業の展開方法とヤマ場の創出方法	５０分授業と９０（１００）分授業の質的相違

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
－

【テキスト（教科書）】
木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』最新版
他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
この授業の成績評価は，定期試験（またはレポート）＜４０％＞，授業中の学習態度＜３０％＞や履修状況など＜３０％＞を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
－

【学生が準備すべき機器他】
１２桁計算機

【その他の重要事項】
必ず最初に「商業科教育法Ⅰ」を履修してから、この「商業科教育法Ⅱ」履修のこと。

【Outline and objectives】
Based on the knowledge and skills of Commercial Education Ⅰ, this class aims to gain basic teaching skills for commercial education. Historical development of commercial education after the World War Ⅱ, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

英語科教育法Ⅰ

石原　紀子

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**春学期集中**/Intensive(Spring)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各回授業の前半は、主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。各回授業の後半は、理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回授業の前半では主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。後半は理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第 2 回	英語学習経験、英語教員の資質	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第 3 回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第 4 回	発音・文字指導	効果的な発音・文字指導、模擬授業
第 5 回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第 6 回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第 7 回	授業準備	授業計画と授業準備
第 8 回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表指導、模擬授業
第 9 回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム
第 10 回	リーディング指導	効果的なリーディング指導、模擬授業
第 11 回	学習者論	自律的学習と学習方略
第 12 回	ライティング指導	効果的なライティング指導、・領域統合型の指導、模擬授業
第 13 回	ことばと文化	多文化・異文化理解、語用論的指導
第 14 回	語彙指導	効果的な語彙、模擬授業
第 15 回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第 16 回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第 17 回	指導案	指導案の構成・内容
第 18 回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第 19 回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第 20 回	中学校での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 21 回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第 22 回	高等学校での指導	高等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 23 回	早期外国語教育	早期教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第 24 回	小学校での英語教育	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第 25 回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第 26 回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第 27 回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・ティーム・ティーチング
第 28 回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。

【テキスト（教科書）】
行動志向の英語科教育の基礎と実践 (2017, JACET 教育問題研究会編・三修社)

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
授業参加/貢献度 (30%)
省察レポート (2) (30%)
模擬授業　(20 %) とその省察 （10 %）
その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ英語でも指導ができるようにするためこの授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の学生でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業では必要に応じて、オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。授業外では授業支援システムを利用し、追加文献をダウンロードして読むこと。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎する。

【Outline and objectives】
The first half of each course meeting provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans. The second half of each course meeting focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics are directly linked to classroom instruction, including: the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法（1）

石原　紀子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に英語教育の理論的側面の基礎を概観し、英語教育や教授法の歴史、学習者論、第二言語習得、国際語としての英語教育、国際文化理解教育、学習指導要領、指導案などを扱う。なお、英語科教育法（２）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に理論的側面を扱うので、教科書の内容を補う講義やグループでの議論、ディベートなどを通して理論的知識を身につけ、それに対する批判的思考を涵養する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	コース概要、英語力と英語教育、英語教育の略歴
第２回	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容、英語運用能力の概念と指導
第３回	英語教授法	英語教授法の歴史と特徴
第４回	授業準備	授業準備と授業計画
第５回	言語習得	第一・第二言語習得のメカニズム・英語運用能力とインタラクション
第６回	学習者論	学習スタイルと学習方略
第７回	ことばと文化	ことばと文化、異文化理解・語用論的指導
第８回	国際文化理解教育	国際理解と英語教育
第９回	指導案	指導案の構成・内容
第１０回	教材研究	教材の特徴と評価、ICT の活用
第１１回	教室の使用言語	教室英語の導入と指導法
第１２回	早期外国語教育	早期外国語教育・イマージョン教育の仕組みと効果
第１３回	評価活動	観点別評価・パフォーマンス評価の理念と方法
第１４回	教育実習と授業の形態	教育実習の意義と内容・効果的なティーム・ティーチング・まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。

【テキスト（教科書）】
行動志向の英語科教育の基礎と実践 (2017, JACET 教育問題研究会編・三修社)

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
授業参加貢献度 (30%)
省察レポート (2) (60%)
その他の課題 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業では必要に応じて、オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。授業外では授業支援システムを利用し、追加文献をダウンロードして読むこと。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎する。

【Outline and objectives】
This course provides an overview of theoretical aspects of English language teaching (ELT). The topics to be dealt with include the history of ELT in Japan and of teaching methodologies, learner-centered theories, second language acquisition, teaching English as an international language, intercultural understanding, the Course of Study, and lesson plans.

英語科教育法（2）

石原　紀子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【到達目標】
英語科教育法や第二言語習得に関する基本的な知識や技能、また中学校・高等学校などの英語教員に必要とされる資質について学ぶと同時に、近い将来英語教員として効果的な指導をするために必要な英語運用能力を培う。英語教育の現場や個々の学習者を観察し、現状把握や問題解決に向けて自発的に考え行動できる能力の養成も目標とする。この授業では主に実践面を中心に、コミュニカティブな英語科教育のための 4 領域や文法・語彙などの指導、中・高における英語指導、早期英語教育と小学校での英語活動、テストなどの評価活動など教室指導と直接関連するテーマを取り上げる。なお、英語科教育法（1）とセットで履修する必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
理論の実践面への応用を目指し、受講生による模擬授業やディスカッションなどにより、指導現場の疑似体験や学習指導関連の問題について意見交換をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	英語学習経験の考察、省察力、英語教員の資質と役割
第２回	学習指導要領、発音・文字指導	学習指導要領の変遷と内容、効果的な発音・文字指導、模擬授業
第３回	リスニング指導	効果的なリスニング指導、模擬授業
第４回	スピーキング指導	効果的なインタラクション・発表の指導、模擬授業
第５回	リーディング指導	効果的な文字・リーディング指導、模擬授業
第６回	ライティング指導	効果的なライティング指導・領域統合型の指導、模擬授業
第７回	語彙指導	効果的な語彙指導、模擬授業
第８回	文法指導	効果的な文法指導、模擬授業
第９回	表現指導	辞書やコーパスの使用・指導、模擬授業
第１０回	中学での指導	中等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第１１回	高等学校での指導	高等学校での英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第１２回	小学校での指導	初等英語教育の特徴と指導法、模擬授業
第１３回	評価と言語学習意欲	評価活動の運用と学習意欲、模擬授業
第１４回	まとめと考察	専門性向上と省察、今後の成長に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始前に、必ずその週のリーディング課題を終え、その内容を発展させた講義内容に備えること。授業内や授業支援システムなどで、多くの資料が提供されるので、その管理を徹底し、丁寧な予習・復習を心がけること。

【テキスト（教科書）】
行動志向の英語科教育の基礎と実践 (2017, JACET 教育問題研究会編・三修社)

【参考書】
中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
第二言語習得と英語科教育法（JACET 教育問題研究会編著・開拓社）英語教育指導法事典（米山朝二著・研究社出版）

【成績評価の方法と基準】
授業参加貢献度 (20%)
省察レポート (2) (40%)
レッスン・プラン、模擬授業　(30 %) とその省察 （10 %）

【学生の意見等からの気づき】
英語教員として効果的な指導をするためには英語運用能力を十分に伸ばしておく必要があるが、ほとんどの受講生は授業以外で英語でのコミュニケーションをする場が非常に少ないようである。少しでも生の英語に触れ、英語でも指導ができるようにするため、この授業では適所に英語を用いる。課題のリーディングや毎週の復習を丁寧にこなし、テーマについて自分なりの見解を持って授業に臨むようにすれば英語が苦手の方でも乗り切れる。英語でのコミュニケーションや間違いを恐れずに積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業では必要に応じて、オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。授業外では授業支援システムを利用し、追加文献をダウンロードして読むこと。

【その他の重要事項】
この授業は中学校・高等学校などの英語教員をめざす学生を主な対象とし、授業への出席はもちろんのこと、授業前の準備、個人やグループでの作業や模擬授業、ディスカッションなどへの積極的な貢献が求められる。参加型の授業のため、自らの英語学習の経験談や分析、新しいアイディア、疑問、意見交換などを歓迎する。

【Outline and objectives】
This course focuses on practice aspects of English language teaching (ELT). The topics include the teaching of four skills for communicative ELT, grammar and vocabulary instruction, ELT in elementary, junior high, and senior high schools, early childhood ELT, and assessment.

英語科教育法Ⅱ

飯野　厚

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的指導力を養う。

【到達目標】
1) 英語と英語教育の現状に精通しているなれる
2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語指導法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語指導法 2	オーラルメソッド、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語指導法 3	ナチュラルアプローチ、コミュニカティブアプローチ
第 8 回	外国語指導法 4	TBLT、CBLT、CLIL
第 9 回	外国語指導法 5	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	需要語彙・発表語彙、機能後語・内容語
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 方式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	応用言語学用語理解テスト
第 15 回	後半オリエンテーション	模擬授業割り振りと準備方法
第 16 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 17 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 18 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、e ラーニング
第 19 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング、ディクテーションなど
第 20 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A による理解、音読、速読、多読、訳読、スキミング、スキャニング
第 21 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 22 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 23 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、四技能、メソッド・指導技術の折衷
第 24 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 25 回	学習者要因	年齢、動機づけ、個人差、認知スタイル
第 26 回	学習方法の指導	主体的な学習者を育成するため具体例
第 27 回	テスト作成と評価	定期テスト、形成評価の実際、英語標準テストと CEFR
第 28 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
(2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
(3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】
『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』(2011) 成美堂
『My Way I』高校英語コミュニケーションⅠ教科書　(2013) 三省堂

【参考書】
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』(大修館)
『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館)
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）

【成績評価の方法と基準】
春・秋学期テスト 50%、授業参加度 50%（発表 20 %; 模擬授業発表 20 %：研究会等参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネットなどを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任)。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員となるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】
In this course, the students will acquire the qualification to become an English teacher. They will learn the basic knowledge on Applied Linguistics and Second Language Acquisition, which can be applied to practical instructional skills.

英語科教育法（3）

飯野　厚

単位：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的指導力を養う。

【到達目標】
1) 英語と英語教育の現状に精通しているなれる
2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	英語教師に求められる資質とは：英語力、授業力、成長力
第 2 回	世界の中の英語	世界の言語事情から World Englishes まで
第 3 回	第二言語習得論概説	母語習得と第二言語習得の差異。コミュニケーション能力とは
第 4 回	学習指導要領	小学校、中学校、高等学校の英語教科書の分析
第 5 回	外国語指導法 1	文法訳読法、直接教授法、
第 6 回	外国語指導法 2	オーラルメソッド、オーディオリンガルメソッド
第 7 回	外国語指導法 3	ナチュラルアプローチ、コミュニカティブアプローチ
第 8 回	外国語指導法 4	TBLT、CBLT、CLIL
第 9 回	外国語指導法 5	サイレントウェイ、サジェストペディア、TPR
第 10 回	音声指導	音素、音変化、プロソディ
第 11 回	語彙指導	需要語彙・発表語彙、機能後語・内容語
第 12 回	文法指導 1	演繹的指導法、PPP 方式、明示的フィードバック
第 13 回	文法指導 2	帰納的指導法、Focus on Form、暗示的フィードバック、気づき
第 14 回	まとめ	応用言語学用語理解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
(1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
(2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
(3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書)】
『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』(2011) 成美堂
『My Way I』高校英語コミュニケーション I 教科書　(2013) 三省堂

【参考書】
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』(大修館)
『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館)
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）

【成績評価の方法と基準】
春学期テスト 50%、授業参加度 50%（発表 20 %; 模擬授業発表 20 %；研究会等参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネット、Google Drive、Google Classroom などを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任)。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員となるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】
In this course, the students will acquire the qualification to become an English teacher. They will learn the basic knowledge on Applied Linguistics and Second Language Acquisition, which can be applied to practical instructional skills.

英語科教育法（4）

飯野　厚

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語教師になるための基本的な資質を養う。応用言語学、第二言語習得論とその周辺領域の知識を身に着け、教室指導に応用できる実践的指導力を養う。

【到達目標】
1) 英語と英語教育の現状に精通しているなれる
2) 多様な語学指導法の存在を知り体験することができる
3) 基本的な指導技術を組み合わせた授業づくりとその実践ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当教師によるワークショップと講義、学生によるプレゼンテーション・模擬授業を組み合わせた授業運営を行い、学生に主体的な学びの機会を提供しながら教育実践力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	模擬授業担当の割り振りと準備方法
第 2 回	授業展開	言語材料と言語活動、指導手順
第 3 回	指導案作成演習	教材研究と授業構成
第 4 回	教材・教具	英語教科書の現状、教育工学、e ラーニング
第 5 回	四技能の指導：リスニング	オーラル・イントロダクション、シャドーイング ディクテーションなど
第 6 回	四技能の指導：リーディング	フレーズ読み、パラグラフ読み、Q&A、音読、スキミング、スキャニング、速読、多読、訳読
第 7 回	四技能の指導：スピーキング	パターン練習、再生、シャドーイング、スピーチ、ショー&テル、インフォギャップ、タスク
第 8 回	四技能の指導：ライティング	自由作文、制限作文、パラグラフ作文、要約、再現、和文英訳
第 9 回	四技能のバランスと統合	授業における言語要素、4 技能、メソッド・指導技術の折衷
第 10 回	小学校英語	音声指導と文字指導、言語活動の実際
第 11 回	学習者要因	動機づけ、個人差、認知スタイル
第 12 回	学習方法の指導	主体的な学習者を育成するため具体例
第 13 回	テスト作成と評価	定期テスト、形成評価の実際、標準テストと CEFR
第 14 回	まとめ	指導案作成、諸課題に関する論述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 担当箇所のプレゼンテーションは Google Slide で作成・共有し、発表準備を行う
(2) 高校教科書の担当課の指導案を作成し、模擬授業演習の準備を行う
(3) 英語教育関連の研究会・学会に学期に 1 回参加し、参加レポートを書く

【テキスト（教科書）】
『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』(2011) 成美堂
『My Way I』高校英語コミュニケーション I 教科書　(2013) 三省堂

【参考書】
『英語教育用語辞典』(大修館)
『現代英語教授法総覧』(大修館)
『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館)
『New Crown English Series』中学校英語教科書（三省堂）

【成績評価の方法と基準】
春学期テスト 50%、授業参加度 50%（発表 20 %; 模擬授業発表 20 %：研究会等参加レポート 10 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の専門性（英文学科、国際文化学科、大学院など）の違いにより、英語教育学を支える関連諸科学の知識のバラつきが大きいことを踏まえて指導する。

【学生が準備すべき機器他】
オーディオ、ビデオ機器、パワーポイント、インターネット、Google Drive、Google Classroom などを常時使用する。また、レポートや連絡などに授業支援システムを頻繁に利用する（アクセス確保は自己責任）。

【その他の重要事項】
生徒の指導者たる教員となるための資格を付与するため科目である。当然のことながら、履修する学生には模範的かつ積極的な学習態度を求める。

【Outline and objectives】
In this course, the students will acquire the qualification to become an English teacher. They will learn the basic knowledge on Applied Linguistics and Second Language Acquisition, which can be applied to practical instructional skills.

中国語科教育法Ⅰ

渡辺　昭太

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**春学期集中**/Intensive(Spring)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場にいかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
（2）中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第２回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第３回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第４回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第５回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第６回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第７回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第８回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第９回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現役教員の実践などを概観し、理解を深める。
第１０回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現役教員の実践を紹介しつつ、e ラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第１１回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国の言語事情―	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第１２回	中国語学の教育への応用と模擬指導―現代中国語（普通話）―	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語（普通話）」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。

第１３回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音とピンイン―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。
第１４回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音指導の留意点―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）の指導時に留意すべき点を考える。
第１５回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国語の類型論的特徴―	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第１６回	中国語学の教育への応用と模擬指導―基本的文法構造―	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１７回	中国語学の教育への応用と模擬指導―動詞述語文―	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１８回	中国語学の教育への応用と模擬指導―名詞述語文―	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１９回	中国語学の教育への応用と模擬指導―形容詞述語文―	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２０回	中国語学の教育への応用と模擬指導―主述述語文―	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２１回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連体修飾表現―	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２２回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連用修飾表現―	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２３回	中国語学の教育への応用と模擬指導―補語―	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２４回	中国語学の教育への応用と模擬指導―助動詞―	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２５回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな構文―	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２６回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな複文―	・中国語のさまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第２７回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。
第２８回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・本科目は集中授業のため、2 時限連続して受講する必要があるので、履修の際には注意すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法（1）

渡辺　昭太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場にいかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
(2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第２回	日本における中国語教育	・各種資料を精読しつつ、日本における中国語教育の歴史と現状、動向（最新の取り組みなど）を理解する。
第３回	高等学校学習指導要領（外国語科）	・高等学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を高等学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第４回	中国語教育のガイドライン『外国語学習のめやす』	・中国語教育のガイドラインである『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム編）を精読・検討し、理解を深める。
第５回	中国語教育に影響を与えた外国語教授法	・中国語教育に影響を与えた外国語教授法や教具、現役教員の実践などを概観し、理解を深める。
第６回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国の言語事情―	・中国の複雑な言語状況への理解を深め、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第７回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音とピンイン―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）への理解を深め、指導時に留意すべき点を考える。
第８回	中国語学の教育への応用と模擬指導―中国語の類型論的特徴―	・中国語の類型論的特徴を考察し、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第９回	中国語学の教育への応用と模擬指導―動詞述語文―	・中国語の基本文型「動詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１０回	中国語学の教育への応用と模擬指導―形容詞述語文―	・中国語の基本文型「形容詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１１回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連体修飾表現―	・中国語の連体修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１２回	中国語学の教育への応用と模擬指導―補語―	・中国語の補語について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１３回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな構文―	・中国語のさまざまな構文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１４回	中国語の総合的コミュニケーション能力の育成に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力育成のための教育方法を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・中国語科教育法 (1) と (2) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法（2）

渡辺　昭太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校・高等学校の『学習指導要領』（外国語科）や『外国語教育のめやす』、及び現役中国語教員の手記や最新の教育方法に関する文献など精読しつつ、日本の中学校・高等学校における中国語教育の目標及び現状、必要な心構えなどを理解する。また、中国語教育を行う際に必要となる中国語の体系的な知識を身に付けるため、中国語学および中国語教育、外国語教育に関する専門書や資料を講読し、その知識を教育の場にいかに応用するかを考える。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校における中国語教育の現状を知り、今後の中国語教育の在り方を考えるとともに、中国語教育を行う際に必要な専門知識を身に付けること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 外国語科の『学習指導要領』や『外国語教育のめやす』等、中国語教育・外国語教育に関する資料や文献の精読・検討を行い、中学校・高等学校における中国語教育の目標や在り方、現状を適切に理解する。
(2) 中国語のテキストで扱う諸項目を、中国語学の観点を交えつつ分析し、指導時にどのような工夫が必要かを考え、受講生に中国語の総合的なコミュニケーション能力を身に付けさせるための適切な指導ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（テーマ別模擬指導、関連書籍・資料の輪読発表など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	これまでの中国語学習の振り返り	・受講生のこれまでの中国語学習に関して振り返り、疑問点などを共有する。
第２回	中国語教育の意義	・各種資料を精読しつつ、公教育における中国語教育の意義について考える。
第３回	中学校学習指導要領（外国語科）	・中学校学習指導要領（外国語科）を精読・検討し、各科目の目標や内容を中学校の中国語科にどのように応用すべきか考える。
第４回	『外国語学習のめやす』の応用	・『外国語学習のめやす』が提案する学習内容や学習方法を中学校及び高等学校の中国語科にどのように応用すべきか検討する。
第５回	ICT（各種情報機器）の有効活用	・現役教員の実践を紹介しつつ、eラーニングやブレンド型学習の役割や在り方について考察する。
第６回	中国語学の教育への応用と模擬指導―現代中国語（普通話）―	・中学校および高等学校の中国語教育で扱う「現代中国語（普通話）」の概説を行い、学習者に正しい認識を促すための工夫や指導法を考える。
第７回	中国語学の教育への応用と模擬指導―発音指導の留意点―	・発音及びピンイン（アルファベットを用いた中国語音声表記法）の指導時に留意すべき点を考える。
第８回	中国語学の教育への応用と模擬指導―基本的文法構造―	・中国語の基本的な文法構造を学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第９回	中国語学の教育への応用と模擬指導―名詞述語文―	・中国語の基本文型「名詞述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１０回	中国語学の教育への応用と模擬指導―主述述語文―	・中国語の基本文型「主述述語文」に関して学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１１回	中国語学の教育への応用と模擬指導―連用修飾表現―	・中国語の連用修飾表現について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１２回	中国語学の教育への応用と模擬指導―助動詞―	・中国語の助動詞について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１３回	中国語学の教育への応用と模擬指導―さまざまな複文―	・中国語のさまざまな複文について学習し、指導時に留意すべき点を考える。
第１４回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
・発表（輪読発表、質疑応答など）を 30 %、期末レポートを 70 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・中国語科教育法 (1) と (2) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will try to grasp the present conditions of Chinese education in high school and junior high school through reading relevant materials including the Courses of Study. Moreover, to acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar, we will also read various materials on Chinese linguistics, Chinese teaching and foreign language teaching, and consider how to apply the knowledge to education.

中国語科教育法Ⅱ

渡辺　昭太

単位：4 単位　｜　開講セメスター：秋学期集中/Intensive(Fall)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
(2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
(3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第２回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第３回	教材研究―大学生向け教科書―	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第４回	教材研究―中高生向け教科書―	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第５回	教材研究―初級者向け文法書―	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第６回	教材研究―中級者向け文法書―	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第７回	教材研究―電子辞書・オンライン辞典等の活用―	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC 等）や ICT 教具の効果的な活用を考える。
第８回	教材研究―各種データベース／電子コーパスの活用―	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT 教材や情報機器の活用方法を検討する。
第９回	教材分析の準備―教科書選定―	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第１０回	教材分析の準備―単元選定―	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第１１回	教材分析の実践―教科書の全体的分析―	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第１２回	教材分析の実践―各単元の分析―	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第１３回	教材分析の発表―教科書の全体的特徴―	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。
第１４回	教材分析の発表―各単元の特徴―	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第１５回	授業研究―授業の組み立て方―	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第１６回	授業研究―各技能の指導法―	・学習指導要領を踏まえ、中国語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第１７回	授業研究―学習指導案の確認―	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第１８回	授業研究―学習指導案作成上の留意事項―	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第１９回	授業研究―テストと評価―	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第２０回	授業研究―継続的学習を促す方法―	・学習者が中国語学習を継続的に行える仕組みや工夫、評価について検討する。
第２１回	模擬授業の準備―教科書の選定―	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第２２回	模擬授業の準備―単元の選定―	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第２３回	学習指導案の作成―作成前の確認―	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第２４回	学習指導案の作成―作成―	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第２５回	模擬授業と講評―実践―	・受講生による模擬授業を行う。
第２６回	模擬授業と講評―講評―	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第２７回	中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。
第２８回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・本科目は集中授業のため、2 時限連続して受講する必要があるので、履修の際には注意すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法（3）

渡辺　昭太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
(2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
(3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	・シラバスを確認し、授業の概要を把握する。e ポートフォリオの利用方法の説明を行う。
第２回	教材研究―大学生向け教科書―	・大学生向けの教科書を取り上げ、それを中学校及び高校で利用する際に留意すべき点を考える。
第３回	教材研究―初級者向け文法書―	・初級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第４回	教材研究―電子辞書・オンライン辞典等の活用―	・各種辞書を取り上げながら、情報機器（PC 等）や ICT 教具の効果的な活用を考える。
第５回	教材分析の準備―教科書選定―	・各受講生が分析を行う教科書の選定を行う。
第６回	教材分析の実践―教科書の全体的分析―	・選択した教科書の特徴（コンセプトや構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第７回	教材分析の発表―教科書の全体的特徴―	・選択した教科書の分析結果を発表し、その特徴や利用時の留意点について議論する。
第８回	授業研究―授業の組み立て方―	・中国語の授業の組み立て方（導入・展開・まとめ、練習方法等）について学習する。
第９回	授業研究―学習指導案の確認―	・学習指導案の様々な実例を確認し、学習指導要領との関連、形式や一般的な記述事項を確認する。
第１０回	授業研究―テストと評価―	・テストと評価に関して学習し、効果的なテストの作成方法と適切な評価方法について検討する。
第１１回	模擬授業の準備―教科書の選定―	・模擬授業で利用する教科書の選定を行う。
第１２回	学習指導案の作成―作成前の確認―	・学習指導要領を踏まえ、どのような学習者に対して、どのような授業を行うのかを想定しつつ、記入すべき必要事項の確認などを行う。
第１３回	模擬授業と講評―実践―	・受講生による模擬授業を行う。
第１４回	中国語の総合的コミュニケーション能力を育成する授業の構築に向けて	・この授業で学んだ内容を有機的に連携させつつ、中国語の総合的コミュニケーション能力を育成するための授業方法（基礎的内容から発展的内容まで）を全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013 年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

中国語科教育法（4）

渡辺　昭太

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領では、外国語科の目標として「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」ということが明示されている。この目的を達成するためには、教師は中国語や中国文化に対する深い理解に加えて、適切な指導方法を身に付ける必要がある。本授業では、中国語教材の分析や模擬授業の実践を通じて、中国語教育を行う際に必要な知識や技術を身につけられるようにする。授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【到達目標】
日本の中学校・高等学校において中国語教育を行う際に必要となる実践的能力を育成し、学習者に応じた適切な授業づくりを主体的にできる人材を育成すること、これが本授業のテーマである。
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 教材分析を通じて各教材の特徴を理解・把握し、各項目を適切に指導できるようになる。
(2) テストや評価方法に関する学習を通じて、自分の行った教育の効果・達成度を適切に測ることができるようになる。
(3) 模擬授業の準備・実践を通じて、授業計画の立て方や学習指導案の作り方を学び、自分で主体的に「授業づくり」ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行い、担当教員による説明・解説の他、受講生が発表（教材分析の結果報告、模擬授業など）を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	これまでの中国語授業の振り返り	・受講生がこれまでに受けた中国語の授業を振り返り、疑問点や気づいた点を共有する。
第２回	教材研究―中高生向け教科書―	・中高生向けの教科書を取り上げ、その特徴を分析し、指導の際に留意すべき点を考える。
第３回	教材研究―中級者向け文法書―	・中級者向けの文法書を取り上げ、各文法書の特徴に関して考察する。
第４回	教材研究―各種データベース／電子コーパスの活用―	・各種データベース／電子コーパスを取り上げ、ICT 教材や情報機器の活用方法を検討する。
第５回	教材分析の準備―単元選定―	・各受講生が分析を行う単元の選定を行う。
第６回	教材分析の実践―各単元の分析―	・選択した各単元の特徴（説明方法や構成など）を考察し、自分なりにまとめる。
第７回	教材分析の発表―各単元の特徴―	・選択した単元の分析結果を発表し、その特徴や指導時に注意すべきことなどについて議論する。
第８回	授業研究―各技能の指導法―	・学習指導要領を踏まえ、中国語の 4 技能（読む、書く、聞く、話す）の指導法について学習する。
第９回	授業研究―学習指導案作成上の留意事項―	・学習指導要領を踏まえ、学習指導案作成の際に留意すべきことを検討する。
第１０回	授業研究―継続的学習を促す方法―	・学習者が中国語学習を継続的に行える仕組みや工夫、評価について検討する。
第１１回	模擬授業の準備―単元の選定―	・模擬授業で扱う単元の選定を行う。
第１２回	学習指導案の作成―作成―	・模擬授業の実施に向けて、学習指導要領を踏まえ、学習指導案を作成する。
第１３回	模擬授業と講評―講評―	・各受講生の模擬授業に対する講評を全員で行う。
第１４回	全体のまとめと振り返り	・この授業で学習した項目を振り返りつつ、疑問点などを議論し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料を熟読すると共に、各自で学習のまとめのノートを作成し、学習内容の定着をはかること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
・『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）
・『高等学校学習指導要領・解説　外国語編・英語編』（最新版　文部科学省）
・『中学校学習指導要領・解説　外国語編』（最新版　文部科学省）
・『外国語教育のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（2013年，公益財団法人国際文化フォーラム）
・胡玉華（2009）.『中国語教育とコミュニケーション能力の育成――「わかる」中国語から「できる」中国語へ』，東方書店.
・三宅登之（2012）.『中級中国語　読み解く文法』，白水社.
・木村英樹（2017）.『中国語はじめの一歩［新版］』（ちくま学芸文庫），筑摩書房.
・稲垣忠、鈴木克明（2015）.『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』，北大路書房.
・劉月華・潘文娯・故韡（2001）.《実用現代漢語語法（増訂本）》，北京：商務印書館.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加度、適切な質疑応答など）を 30 %、教材分析（分析結果をまとめたレポート及び発表）を 30%、模擬授業（含・学習指導案作成）を 40 %として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・定期試験は実施せず、上記の各課題によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。必要な場合は教員側で準備する。

【その他の重要事項】
・本科目は国際文化学部の自由科目としても受講可能なので、教員免許を取得予定ではない学生も、中国語教育や中国語学に興味のある人は積極的に受講してほしい。
・中国語科教育法 (3) と (4) は同一セメスターでセット履修すること。

【Outline and objectives】
In this course, we will acquire knowledge which is required in Chinese education for high school and junior high school students through analyzing teaching materials, and also improve students' Chinese teaching skills to achieve goals which is shown in the Courses of Study by practical trial lessons.

情報科教育法Ⅰ

御園生　純

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し，情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】
・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
　また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、担当者が実施している東南アジアへのスタディツアー等の紹介を含めて、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的理解
4	普通教科情報の３つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報Ａ」「情報 B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報 A・B との相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報 A」「情報Ｃ」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報 C との相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実際とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報受発信に必要なリテラシーについて
14	Web とユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNS の光と影	SNS などの活用と実際の問題状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】
学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　15 %　年間計画・授業指導案の作成 45 %、模擬授業の完成度 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません

【その他の重要事項】
ありません

【Outline and objectives】
The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho)is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生　純

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の講義内容を踏まえ、高等学校において実際に授業ができるような実践的な知識を学ぶ。
年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として、受講者による発表や模擬授業を実施する。
プリント類や副教材の作成や、各種情報機器やプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を習得する。
また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきたい。

【到達目標】
各単元における授業内容の自主編成が可能な教材作成能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実際に高校での授業運営を見据え、より実践的な知識の能力の習得を目指す。模擬授業・授業指導案の作成などといった課題に対して講義及び討議を通じて理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 2 回	あたらしい労職業専門性と労働のスタイル、電子商取引（E コマース）について	消費者教育としての情報教育
第 3 回	情報教育の理論	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 4 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 5 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 6 回	情報の収集と評価	授業評価のための情報収集
第 7 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 8 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 9 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 10 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 11 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 12 回	課題研究の目標と内容について	問題解決の手法について
第 13 回	学習計画の作成Ⅰ	年間指導計画の作成
第 14 回	学習指導計画の作成Ⅱ	授業指導案の作成理論と実際①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領/情報編

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）と提出課題（指導案・授業計画）の総合評価

【学生の意見等からの気づき】
ありません。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ・プレゼンソフトなど

【Outline and objectives】
The objectives of Teaching Method II (Joho-ka Kyoiku-ho II) are, on the basis of Teaching Method I, for students to master how to plan, do and check the lessons through making up annual and unit lesson plans and trying to practice them for themselves.

教育実習（事前指導）

米蒸　健一

単位：単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年時に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。

【到達目標】
到達目標は、英語科免許取得希望の学生が①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案 (授業指導案) の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討 (授業批評)　を中心にして学び、翌年度の教育実習に十分な準備することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、グループ単位で討論し、学習指導案を作り、模擬授業をして、さらにクラス全体でその模擬授業を検討し、お互いの授業から学びあうことを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の方法や目当て、講義の進め方についてのガイダンス
第２回	実習に向けての準備のあり方	学習指導案作りの方法、グループ分け
第３回	模擬授業に向けての指導案作り	各グループで選んだ文法項目について授業を組み立てる
第４回	模擬授業に向けての指導案作り (２回目)	各グループで選んだ文法項目について授業を組み立てる (２回目)
第５回	模擬授業に向けての指導案作り (３回目)	各グループで選んだ文法項目について授業を組み立てる (３回目)
第６回	模擬授業①	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第７回	模擬授業②	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第８回	模擬授業③	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第９回	模擬授業④	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第１０回	模擬授業⑤	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第１１回	模擬授業⑥	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第１２回	模擬授業⑦	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第１３回	模擬授業⑧	模擬授業での「学習指導案」をもとに成果・問題点を検討する
第１４回	講義の総括とまとめ	授業を通しての成果、問題点、教育実習に向けての残された課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案作成に必要なグループ作業がある場合は、授業外で、時間を取って進める

【テキスト（教科書）】
講義で配るプリント資料を中心とする

【参考書】
必要に応じて講義の中で指示する

【成績評価の方法と基準】
模擬授業、提出物 (指導案など) などの平常点

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生数にもよるが、できるだけ少人数のグループでの模擬授業を考えたい

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
教育実習の受講を希望する学生は、この講座を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講座で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。

【Outline and objectives】
A student who is to be a student teacher next year is going to prepare in this class by learning about basic skills of teaching, etc.

教育実習（事前指導）

池田　真澄

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備について理解した上で、学習指導案や授業にかかわる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルを身につける。

【到達目標】
４年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部に注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、英語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した 4 年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。
（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなる）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション教育実習にむけて	授業の目標、授業の進め方などについてのガイダンス
第 2 回	英語科授業の理論と実践　指導案作りの方法（1）	英語科授業の基本的理念や授業の進め方、指導案作りを学ぶ
第 3 回	英語科授業の理論と実践　指導案作りの方法（2）	英語科授業の基本的理念や授業の進め方、指導案作りを学ぶ グループ分け
第 4 回	模擬授業（教材 A）に向けての指導案作り	教材 A についての指導案をグループで検討
第 5 回	指導案作りと授業準備	個人個人の研究を踏まえグループ授業指導計画作り
第 6 回	模擬授業（1）	グループの模擬授業 反省と分析
第 7 回	模擬授業（2）	グループの模擬授業 反省と分析
第 8 回	合同授業研究会	教育実習を終えた４年生との経験交流を通じて、具体的な教育実習について学ぶ
第 9 回	模擬授業（教材 B）に向けての指導案作り	教材 B についての指導案をグループで検討
第 10 回	指導案作りと授業準備	各自の課題を持ち寄りさらに指導案作り
第 11 回	模擬授業（1）	個人授業 反省と分析
第 12 回	模擬授業（2）	個人授業 反省と分析
第 13 回	模擬授業（3）	個人授業 反省と分析
第 14 回	講義のまとめ	講義全体を振り返り、自らの課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案は、教材 A をグループで、教材 B を個人で作り模擬授業を行う。模擬授業の反省に基づき、最終レポートとして個人での指導案をまとめる。指導案と教材作成にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
教員が用意するハンドアウト。
「教育実習の手引き」（法政大学教職課程委員会）

【参考書】
講義の中で指示する文献・参考書
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（指導案・教材づくりなど）、模擬授業の成果、レポートなどを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導案作りと模擬授業を通して、協同での学びの大切さを実感したようだ。他の学生からの模擬授業についての感想から多くのものを学んでいる。また、ほかの学生の模擬授業を受けてみて、その成果と課題の両方から学び取るものは大きい。（過去の振り返り・アンケートより）

【その他の重要事項】
受講人数によって、模擬授業の行い方など、授業計画は調整する。

【Outline and objectives】
The theme of this lesson is "organizing classes"; after surveying the flow of teaching practice and preparation for it, we'll take up the fundamental theory and knowledge related to the teaching　plan and the class itself, and indispensable skills.

教育実習（事前指導）

福田　淑子

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルと心構えなどを取り上げる。4 年生の教育実習体験を聴くことによって、現場での教育実習のスキルを学ぶ。

【到達目標】
４年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部に注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、国語科免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した 4 年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4 年次教育実習終了時の指定される時期（毎年 11 月の初旬から 12 月中旬頃）に、前年参加した教育実習事前指導講義のクラスに相当する授業に参加し、3 年生に実習体験や授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4 年次秋に掲示にて連絡するので注意すること）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の方法や目当て、講義の進め方等についてのガイダンス
第 2 回	実習に向けての準備のあり方	教壇において起こりうる様々なケースや陥りやすい思い込みなどを実践例を用いて確認する
第 3 回	４年生の教育実習体験を聴く① 授業の進め方とは	授業指導案作成についての特徴や基本的な考え方
第 4 回	４年生の教育実習体験を聴く② 各自の授業テーマの設定と指導案の構想	Ｂ４一枚程度の報告提出、作業日程の確認
第 5 回	４年生の教育実習体験を聴く③指導案の書き方	例を示しての指導案の書き方とその構成要素の説明
第 6 回	４年生の教育実習体験を聴く④ 授業の実際と授業指導案の展開①	模擬授業①「説明文」
第 7 回	４年生の教育実習体験を聴く⑤ 授業の実際と授業指導案の展開②	模擬授業②「小説」
第 8 回	４年生の教育実習体験を聴⑥ 授業の実際と授業指導案の展開③	模擬授業③「古典」
第 9 回	４年生の教育実習体験を聴く⑦ 各自の指導案の報告と検討	各グループに分かれて行う
第 10 回	４年生の教育実習体験を聴く⑧ 教員による模範授業の実施	学生の選んだテーマの多い領域での模範授業
第 11 回	実習体験を経験化することとは	実習を終えた４年生の参加によるディスカッション
第 12 回	模擬授業（中学国語散文分野を中心に）	模擬授業（２人）とそれをめぐる討論・批評
第 13 回	模擬授業（高校国語評論分野を中心に）	模擬授業（２人）とそれをめぐる討論・批評
第 14 回	模擬授業（高校国語小説分野を中心に）	模擬授業（２人）とそれをめぐる討論・批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案作成、それについて教員からコメント、修正要求を提示するので、その内容、実際の模擬授業での実践、他者の模擬授業を見ての反省などを踏まえて、最終レポートとしての授業案は、第 15 回時に提出すること。詳細は授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。また、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を教育実習ガイダンス時に配布するので、参考にすること。

【参考書】
『学習指導要領』（文部科学省）
『学力と新自由主義』佐貫浩（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世識書房）
『実践国語科教育法』（学文社）など

【成績評価の方法と基準】
平常点を重視するが、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、討論への参加状況、模擬授業の様子、レポート課題（授業指導案など）を総合して評価する。なお、評価基準の詳細は、最初の講義時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
指導案を作成することで具体的なイメージがわき、さらに模擬授業をやることで、より実践的なスキルを習得することができたようである。グループワークを積極的に取り入れ、参加型授業として質を高めていきたい。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “how to create class-teaching.” This course includes how to write teaching guide, the basic theory and knowledge on class management, and the essential skills necessary for class-teaching. Also, you can learn the skills for practical class-teaching listening to the experience by the senior students who had already taken such a class exercise.

教育実習（事前指導）

松尾　知明

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠なスキルと心構えなどを取り上げる。

【到達目標】
・教育実習に参加するために、教職、教科指導、生徒指導に関する基礎的な知識やスキルを習得することができる。
・教育実習で求められる社会的・対人的スキルを獲得することができる。
・学習指導案を書き、授業を行うことができる。
なお、教育実習の受講を希望する学生は、教育実習事前指導を必ず受講し、実習前年度までにこの講義に合格する必要がある。本講義はクラス指定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討、⑤すでに教育実習を実施した 4 年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価される。事後指導の評価は、実習日誌、教育実習体験レポートによる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力とは
2	実習に向けて	教育実習の目的、流れ、準備
3	学習指導と生徒指導	教育実習で知っておくべき基礎的な知識・スキル
4	授業デザイン(1)	教材研究の進め方、学習指導案の書き方
5	授業デザイン(2)	学習指導案の書き方
6	授業デザイン(3)	発問、板書、ICT 活用、指導・支援のあり方
7	4 年生との共同授業	4 年生によるプレゼンと交流
8	模擬授業(1)	グループによる授業の実施と検討
9	模擬授業(2)	グループによる授業の実施と検討
10	学習指導案検討	個人の学習指導案の報告と検討
11	模擬授業(3)	個人による授業の実施と検討
12	模擬授業(4)	個人による授業の実施と検討
13	模擬授業(5)	個人による授業の実施と検討
14	授業のまとめ	授業づくりのポイント、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応えてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】
筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習』有斐閣、2017 年。文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30 %）、課題、学習指導案、模擬授業（50 %）、レポートと発表（20 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業の仕方を工夫する。

【Outline and objectives】
This class aim to acquire basic knowledge and skills necessary for implementing teaching intern. Some of the targets are (1) gaining basic knowledge and skills of teaching profession, instruction and student guidance, (2) developing social and interpersonal skills, and (3) practicing teaching by developing lesson plans.

教育実習（事前指導）

寺崎　里水

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケーション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。
なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
講義内容は、３つの単元から構成されます。
①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
また、教育実習をリアルに知るために、4 年生との合同授業も設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第 2 回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第 3 回	プロ教師の授業から学ぶ（1）	授業の型と展開の基本
第 4 回	プロ教師の授業から学ぶ（2）	発問と授業コミュニケーション
第 5 回	プロ教師の授業から学ぶ（3）	モノ・教材の使い方
第 6 回	プロ教師の授業から学ぶ（4）	構成・シナリオとハプニング
第 7 回	プロ教師の授業から学ぶ（5）	板書のタイプと技法
第 8 回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第 9 回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第 10 回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第 11 回	模擬授業して合評する（高校現代社会・政経分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 12 回	模擬授業して合評する（高校歴史分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 13 回	模擬授業して合評する（中学公民分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 14 回	模擬授業して合評する（中学地歴分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1 週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1 時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程の HP から閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40 %）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60 %）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含みます。

【学生の意見等からの気づき】
身近なモデルとしての 4 年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】
The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

高野　良一

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケ―ション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。
なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
講義内容は、３つの単元から構成されます。
①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
また、教育実習をリアルに知るために、4 年生との合同授業も設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第 2 回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第 3 回	プロ教師の授業から学ぶ（1）	授業の型と展開の基本
第 4 回	プロ教師の授業から学ぶ（2）	発問と授業コミュニケーション
第 5 回	プロ教師の授業から学ぶ（3）	モノ・教材の使い方
第 6 回	プロ教師の授業から学ぶ（4）	構成・シナリオとハプニング
第 7 回	プロ教師の授業から学ぶ（5）	板書のタイプと技法
第 8 回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第 9 回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第 10 回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第 11 回	模擬授業して合評する（高校現代社会・政経分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 12 回	模擬授業して合評する（高校歴史分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 13 回	模擬授業して合評する（中学公民分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 14 回	模擬授業して合評する（中学地歴分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1 週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1 時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程の HP から閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40 %）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60 %）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含みます。

【学生の意見等からの気づき】
身近なモデルとしての 4 年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【Outline and objectives】
The aim and goal of this class is to learn and obtain teaching knowledges and skills for the practical training in secondary schools during next school year.

教育実習（事前指導）

遠藤　野ゆり

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年次に実施される教育実習に必要とされる知識とスキルの習得が目的です。教育実習の全体像の理解、教科指導（授業）のための基礎的知識の習得、授業で活用できる実践的スキルの習熟が、柱となる３つの授業目的となります。

【到達目標】
授業の実践的指導力の土台作りが目標となります。そのために、プロ教師の授業分析を通じて、授業を成立させる諸要素を理解すること、授業に必要な知的・コミュニケ―ション・スキルを知ること、その上で、模擬授業づくりのグループワークを通じて、知り理解したものを血肉化することが求められます。
なお、教育実習の履修単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、事後指導を総合して評定されます。教育実習を希望する学生は、この講義を必ず受講し、合格することが求められます。本講義の履修が合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできません。なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、中学校・社会科、高校地歴・公民の免許を取得する学生を対象としています。また、クラス指定が行われ、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。
講義内容は、３つの単元から構成されます。
①教育実習とはなにか、準備すべきこととはなにか
②プロ教師の授業を分析し、授業スキルを学ぶ
③グループで学習指導案や教材を作成し、模擬授業をおこなう
また、教育実習をリアルに知るために、4 年生との合同授業も設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の概要説明とグループ分け
第 2 回	教育実習とは何か	実習の流れと準備
第 3 回	プロ教師の授業から学ぶ（1）	授業の型と展開の基本
第 4 回	プロ教師の授業から学ぶ（2）	発問と授業コミュニケーション
第 5 回	プロ教師の授業から学ぶ（3）	モノ・教材の使い方
第 6 回	プロ教師の授業から学ぶ（4）	構成・シナリオとハプニング
第 7 回	プロ教師の授業から学ぶ（5）	板書のタイプと技法
第 8 回	教育実習生の実習体験から学ぶ	教育実習全体に関する身近なモデルからの学び
第 9 回	教育実習生の授業体験から学ぶ	授業実践に焦点化した身近なモデルからの学び
第 10 回	模擬授業を準備する	グループごとの打合せ
第 11 回	模擬授業して合評する（高校現代社会・政経分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 12 回	模擬授業して合評する（高校歴史分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 13 回	模擬授業して合評する（中学公民分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会
第 14 回	模擬授業して合評する（中学地歴分野）	模擬授業のグループ発表とその検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習集団としてグループを形成します。講義をうけた話し合い・討論をはじめとして、模擬授業づくり発表準備や事後の振り返りをこの基本集団でおこないます。模擬授業にあたっては、1 週間前に素案を共同制作し、担当教員の指導助言を受けることも含まれます。加えて、各個人が終了レポートとして、1 時限の授業に必要な学習指導案や生徒用プリント、補助教材の作成も求められます。

【テキスト（教科書）】
学習指導要領や実践記録など、講義の中で適宜指示します。なお、法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』を毎年、受講生に配布していますので、参考にしてください。

【参考書】
高野良一「『教育実習（事前指導）』の授業デザイン」『法政大学教職課程年報』Vol.14（教職課程の HP から閲覧可能）
その他、講義の中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーや模擬授業の実施などの平常点（40 %）、各自の学習指導案と教材からなる終了レポート（60 %）を主たる評価対象として、総合的に合否を判定します。なお、平常点には、グループワークや授業内の討論への参加なども含みます。

【学生の意見等からの気づき】
身近なモデルとしての 4 年生から学ぶことは多いので、合同授業は大切にしたい。模擬授業では、授業を受けた学生からの「授業評価アンケート票」を活用して、双方向の振り返りを充実させたい。

【その他の重要事項】
履修予定の学生は必ず初回の授業に参加してください。初回の授業に参加していない場合は履修を認めません。なお、実習日と重なる、インフルエンザ等「やむを得ない事情」で欠席をせざるをえない場合、事前に以下に連絡をしてください。当日の急きょの欠席の場合は、可及的速やかに連絡をしてください。
noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】
The preparation for the practical training. To gain the whole image of practical training, basic knowledge for subject teaching, make teaching plans.

教育実習（事前指導）

筒井　美紀

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業を如何に作り込むか。如何に力強い授業を展開するか。それがこのクラスのテーマである。教育実習の流れやその準備にふれた上で、学習指導案・授業の基礎理論と基礎知識、授業実践に不可欠なスキルを習得する。

【到達目標】
4 年次の教育実習を立派にやり抜くために、教職および教科指導に関する実践的基礎理論・基礎知識の取得、社会的・対人スキルの形成・向上をゴールとする。教育実習参加希望の学生は、必ずこの授業を受講し、実習前年度までに合格しておかねばならない。なお、この講義はクラス指定があるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部に注意して登録すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、＜社会・地歴・公民・商業科＞免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けて如何なる準備とスキルが必要かの理解、②学習指導案（授業指導案）の作り方、③授業を行う基礎スキルの習得、④相互扶助的な授業検討（批評）の方法、⑤既に教育実習を実施した 4 年生との議論を通した学び、を中心とする（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習等を総合して評価される。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／こんなとき実習先でどうするか？	授業の目標や流れの説明、班分け／教育実習を、対人関係や社会的場、専門職の振舞い方という観点から理解する。
第 2 回	実習生はどう評価されるか？	法大生の「教育実習成績報告表」の統計分析による論文（筒井 2011）に基づき議論して、何が事前準備に必要か理解を深める。
第 3 回	学習指導案作成の基礎	学習指導案の構造を理解する。筒井論文（2013,2015）から「よくある勘違い」を自覚する。
第 4 回	指導案例の検討	「イマイチ」な指導案批判的に検討し、改善案を実演する。
第 5 回	各自指導案の作成①	各自指導案を作成。ミニ・パフォーマンスも行う。
第 6 回	各自指導案の作成②	引き続き各自指導案作成。適宜相談。
第 7 回	指導案の提出、模擬授業代表指導案決定	授業開始時、指導案を教員に提出後、各班で代表指導案を決める。
第 8 回	模擬授業（商業）	および討論。問題集解きに終始しない指導。
第 9 回	模擬授業（世界史①）	模擬授業と討論。暗記に終始させない画像の活用。
第 10 回	模擬授業（世界史②）	および討論。歴史の因果を考えさせるＩＣＴの活用。
第 11 回	模擬授業（地理①）	および討論。地図と画像と数値を駆使したグループワーク。
第 12 回	模擬授業（地理②）	および討論。生活・文化との関連を実感させる実物教示法。
第 13 回	模擬授業（公民①）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。
第 14 回	模擬授業（公民②）	および討論。ロールプレイによる思考の刺激。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に臨むにあたって、予習と復習（preparation and review）は膨大である。それをこなせなければ、教育実習を立派にやり抜くことはできない。

【テキスト（教科書）】
・筒井美紀（2011）「実習生はどう見られたか？ －『教育実習成績報告書』の初歩的統計分析から－」『法政大学教職課程年報』Vol.8（筒井より現物あるいは PDF にて配布）
・筒井美紀（2013）「学習指導案作成・７つの勘違い―『教育実習事前指導』受講生への添削指導から―」『法政大学教職課程年報』Vol.10（PDF 配布）
・筒井美紀（2014）「あとわずか…教育実習までどう学ぶ？ ―『量より質』の準備はこんなふうに―」―」『法政大学教職課程年報』Vol.11（PDF 配布）
・筒井美紀（2015）「学習指導案作成・さらなる５つの勘違い―『つまらない』社会科の授業をしないために―」『法政大学教職課程年報』Vol.12（PDF 配布）

【参考書】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局
・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
課題レポート 20 %、中間学習指導案 20 %、期末学習指導案 40 %、模擬授業と検討など授業への知的貢献 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業は DVR で撮影しデータを渡します。映像を見てしっかり振り返りをすること。

【その他の重要事項】
第 1 回に、班や作業割り当てが決められ、第 2 回から、毎回毎回、ワークをこなしていく。「初回くらい、どうってことない」などと甘い考えで欠席しないこと。そんな輩は、教育実習に行く資格はない。

【Outline and objectives】
In this class the students learn how to prepare for teaching, to construct a powful and relevant class of social studies etc., that is, to understand the flow of teaching practice and to master the basic skills of teaching.

教育実習（事前指導）

御園生　純

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また 7 月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第 2 回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第 3 回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第 4 回	実習ガイダンス　生活指導について	生活指導のあり方について
第 5 回	実習ガイダンス 2　教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第 6 回	実習ガイダンス 3　校務分掌	教職員の服務　生徒指導
第 7 回	実習ガイダンス 4　学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第 8 回	教科指導　授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第 9 回	教科指導　学習指導案の作成	副教材の作成方法
第 10 回	教科指導　学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第 11 回	教科指導　模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第 12 回	担任指導	生活・進路指導
第 13 回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第 14 回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
なし

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領　情報編

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。
模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4 月に実施される 3 年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7 月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

宮坂　健介

単位：**単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年次に教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と教科指導にかかわる基礎知識・力量の形成、教育実習に対処できる一定のスキルの獲得を目標とする。教育実習の受講を希望する学生は、この講義を必ず受講し、実習前年度までに合格しておかなければならない。この講義で合格と認められない場合は、教育実習に参加することはできない。なおこの講義はクラス指定であるので、自分の取得予定の免許の教科と所属学部に注意して登録すること。

【到達目標】
中国語の教育実習を行う際に、「きちんと」授業ができることを目指す。「きちんと」という中には、教材研究・授業計画の作り方・生徒対応など授業を成り立たせる基本を身に付け、それを実際に生かすことができるという意味が含まれる。どのような中国語の知識が必要なのか、そしてそれをどのように使うのかを中心に講義し、実践も行ってゆきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容は、外国語科 (中国語) 免許取得の学生を対象に、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備とスキルが必要か、②学習指導案（授業指導案）の作成、③授業を行う一定のスキルの獲得、④授業検討（授業批評）、⑤すでに教育実習を実施した 4 年生からの体験を学ぶ、を中心的な内容として構成する。
（なお、教育実習の単位は、教育実習事前指導、現場での教育実習、教育実習事後指導を総合して評価されることとなるが、事後指導の一環として、4 年次教育実習終了時の指定される時期（毎年 11 月の初旬から中旬頃）に、前年参加した教育実習事前指導講義のクラスに相当する授業に参加し、3 年生に実習体験や授業を模範授業として再現するなどの「報告会」を実施する。全員の参加を義務とする。具体的な時期等は、4 年次秋に掲示にて連絡するので注意すること。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	講義全体の概要を説明する。
第 2 回	教育実習における基本姿勢 (1)	教育実習とはどのようなものか。「教師」としての基本姿勢を学ぶ。
第 3 回	教育実習における基本姿勢 (2)	実習前の準備と言語教育の基本を学ぶ。
第 4 回	教育実習における基本姿勢 (3)	言語教育の基本について学ぶ。
第 5 回	教育実習における基本姿勢 (4)	言語教育の基本について学ぶ。
第 6 回	教育実習における基本姿勢 (5)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第 7 回	教育実習における基本姿勢 (6)	中国語を教える際の基本について学ぶ。
第 8 回	教科書検討会	中国語教科書について実際に比較検討を発表する
第 9 回	指導案の書き方	外国語を教える際の注意点と指導法の確認を中心に、どのように授業を組み立ててゆくか考える。
第 10 回	模擬授業	これまでの授業をもとに模擬授業を行う。
第 11 回	実習を終えた 4 年生参加による教育実習報告会	実習の実際について報告を聞く。
第 12 回	教育実習における注意点 (1)	教材研究などについて学ぶ。
第 13 回	教育実習における注意点 (2)	授業以外の教育実習についての注意点を確認する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第二言語習得についての文献を幅広く読んでおくこと。現在の中国語教科書について調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
適宜レジュメを配布します。

【参考書】
法政大学教職課程委員会編『教育実習の手引き』
『高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす (試行版)』
『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40 %) を重視するが、討論への参加状況、レポート課題 (指導案作成 30 %)、模擬授業 (30 %) などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
意見を言ったり質問をしやすい授業にしたいと思っています。

【Outline and objectives】
As a prerequisite for participating in teaching practice in the fourth year, we aim to establish basic knowledge on teacher training and basic knowledge / competence related to subject guidance, and acquire certain skills that can cope with educational practice. Students who wish to take an educational training must attend this lecture without fail and must pass the examination by the previous fiscal year. In cases where it is not accepted as passing in this lecture, you can not participate in teaching practice. Since this lecture is class designation, register it with attention to the subject of the license to be acquired by yourself and the faculty affiliated.

教職実践演習

米蒸　健一

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職を担うにふさわしい知識、技能、ならびに教職を目指す姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
学生が目指す到達目標を以下の５点とする。
①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
④積極的なミュニケーションと発表・プリゼンテーションのスキル

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、演習形式の授業を基本とするが、グループ学習、教職履修の 3 年生 (対応する教科の教育実習事前指導クラスの学生) との共同討論を通しての経験報告やアドバイス、最終報告 (プリゼンテーションや報告冊子) の発表会などによって構成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の方法や目当て、講義の進め方についてのガイダンス 「教育実習」の体験報告を文章化
第２回	グループ作りと実習体験の共有	グループ内で自己紹介、教育実習の体験の話し合い
第３回	実習体験の共有 (２回目)	教育実習の体験の話し合い (２回目)
第４回	文学的文章の教材の授業①	民話の教材の研究
第５回	文学的文章の教材の授業②	民話の教材の研究 (２回目)
第６回	文学的文章の教材の授業③	短編小説の教材の研究
第７回	文学的文章の教材の授業④	短編小説の教材の研究 (２回目)
第８回	文学的文章の教材の授業⑤	歌詞の教材の研究
第９回	説明的文章の教材の授業①	パラグラフリーディングの研究
第１０回	説明的文章の教材の授業②	中学の教科書の研究
第１１回	説明的文章の教材の授業③	高校の教科書の研究
第１２回	説明的文章の教材の授業④	基礎的な小論文指導の研究
第１３回	説明的文章の教材の授業⑤	基礎的な小論文指導の研究 (２回目)
第１４回	講義のまとめ	レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は教材の背景などを調べてくる

【テキスト（教科書）】
教員が用意するプリント資料を中心とする

【参考書】
講義の中で指示する

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み、レポート課題を総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】
授業教材をいかに分析するか、を具体的に研究することを大切にする

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【Outline and objectives】
A student who has experienced the teaching practice is going to learn more about how and what to teach, which finally enables them to get a teacher's diploma.

教職実践演習

池田　真澄

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職を担うに相応しい知識、技能、ならびに教職をめざす姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
①学校現場における授業をすすめる実践的スキルの獲得
②専門教科領域における教育内容についての研究と教材力作成力の獲得
③子ども理解および学級・学校の実際の理解
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションと発表・プレゼンテーションのスキルの獲得
なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と演習形式の授業を基本とするが、グループ学習、教職履修の３年生との共同討論を通しての経験報告やアドバイス、最終報告の発表などによって構成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本講義のテーマと目標、具体的な授業展開についてのガイダンス
第２回	講義と討論	「授業論・目的論」の講義と討論
第３回	講義と討論	「教材論」の講義と討論
第４回	講義と討論	「教材論」の講義と討論
第５回	講義と討論	「協同学習」の講義と討論
第６回	講義と討論	「自己表現」の講義と討論
第７回	３限合同授業研究会 ４限グループワーク	教育実習に向けて準備している３年生と、自らの教育実習の経験交流。またグループワーク。
第８回	講義と演習	「発音指導の実際」講義と演習
第９回	グループ研究の課題	グループを組んで、グループ研究の課題を設定する。
第１０回	講義とグループワーク	「英語教育の諸課題（１）」講義と討論。グループ研究準備。
第１１回	講義とグループワーク	「英語教育の諸課題（２）」講義と討論。グループ研究準備。
第１２回	グループによる課題の報告（１）	グループによる研究課題についてプレゼンテーション
第１３回	グループによる課題の報告（２）	グループによる研究課題についてプレゼンテーション
第１４回	講義のまとめ	講義全体のまとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から、教育書、新聞、インターネットなどで今日の教育、とりわけ外国語教育の状況や問題点を十分に把握する。また日本や世界の抱える課題に目を向け、視野を広げ、認識を深める努力をする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】
「文部科学白書最新版」「教科指導・生活指導・学校づくりなどの実践記録」（授業で指示）「学習指導要領」「教育六法」など

【成績評価の方法と基準】
①グループ研究のまとめとプレゼンテーションの評価　②演習への参加と討論への参加状況　③最終レポート、を総合的に勘案し評価する。（出席は、単位認定の前提条件である）

【学生の意見等からの気づき】
教育実習・模擬授業の実践的体験を通して、これを様々に評価されたことは学生たちにとって貴重な体験だったようである。これを生かし、グループワークなどを通じて多角的で深みのある参加型学習と研究をさせたい。

【その他の重要事項】
受講人数によって、グループ研究発表など日程は再調整される。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to achieve the goal as university education required for teacher license acquisition, with regard to acquiring knowledge, skills and attitude towards teaching, which is appropriate for teaching jobs, based on the achievements such as the unit acquisition status in 4 years and the results of related subjects.

教職実践演習

福田　淑子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職に相応しい知識と技能、教職をめざす姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う。
①授業を進める上での実践的スキルの獲得と生徒理解
②専門とする教科領域における教育内容についての研究と教材作成力の獲得（授業指導案の作成を含む）
③今日の子ども理解及び学級・学校の実際の理解と実践力、指導力量の育成
④教職に向けての明確な意志の確立と各自の実践上の目標を設定
⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループを組んで共同研究と発表を行う。テーマは各自の専門とする領域から立てる。具体的には①教科の内容に関するブックレット等の作成（教科内容研究）、②教職等の仕事の現状についての調査報告書の作成（職業研究）、③子どもの困難、青年の自立の困難等について調査報告書の作成（子ども・青年研究）から選択。発表も行う。「教育実習事前指導」の受講生を対象に、模擬授業や教育実習体験の報告なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本講義の目標と性格について説明。本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。履修カルテの確認
第 2 回	教育実習の総括	①各自の教育実習の振り返り、教職に就くためにどのような力量やスキルが求められるのか、学生の報告と討論を行い，教員が総括する。その結果を踏まえて、3 年生へのメッセージの作成する。②この「演習」における各自の課題設定およびグループ分け
第 3 回	グループでの実習体験報告①教職の現代的性格の検討	講義＜今日の教職に求められる専門性とスキルとは何か＞に基づき、教職のあり方についての討論を行う。今日の労働がおかれている実態や法的仕組みなどを踏まえつつ、どうその専門性を高めていくかを考える。一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 4 回	グループでの実習体験報告②後輩へのメッセージのプリゼンテーション要領	3 年生に対して教育実習への準備のあり方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する年生との質疑応答を行う。
第 5 回	グループでの実習体験報告③グループ作業①	グループ作業。一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 6 回	グループでの実習体験報告④	グループ作業。一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。
第 7 回	グループでの実習体験報告⑤	グループ演習。一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する。
第 8 回	ググループでの実習体験報告⑥	現場実習体験を報告するということ一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する

第 9 回	グループでの実習体験報告⑦	現場の体験を共有するといこと 一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 10 回	グループでの実習体験報告⑧	発表とそれにもとづく議論 一部の学生については、あわせて 3 年の「教育実習事前指導」に参加、模擬授業を実演する
第 11 回	学ぶということ・教えるということ①	発表とそれにもとづく議論
第 12 回	学ぶということ・教えるということ②	発表とそれにもとづく議論
第 13 回	学ぶということ・教えるということ③	発表とそれにもとづく議論
第 14 回	発表総括・後輩への提言	グループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共同作業を通じて討論やプレゼンテーションスキルを高める。共同作業に責任を持って参加する。教育の現在における役割を考える。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回必要文献や資料など指定、あるいは配布する。

【参考書】
『学習指導要領』（文部科学省）
『学力と新自由主義』佐貫浩』（大月書店）
『新・生活指導の理論』竹内常一（高文研）
『読むことの教育』竹内常一（山吹書店）
『カリキュラムの批評』佐藤学（世識書房）
『実践国語科教育法』（学文社）など

【成績評価の方法と基準】
①個別課題とプレゼンテーション等の評価、②グループ作業への積極的な参加とそのなかでの役割の遂行や討論への参加状況などの評価、③授業への積極的貢献度、を総合的に勘案して評価する。なお、最終評価にかかわって個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
学生アンケートの回答より研究する。

【Outline and objectives】
The target of this class is to accomplish all necessary works during the educational system in university to obtain the teaching license. It refers every student ' s grade average on all the related 4 year class works, and his/her attitude to be a teacher with desired skill and knowledge.

教職実践演習

松尾　知明

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職を担うに相応しい知識、技能、ならびに教職をめざす姿勢の獲得について、4 年間の単位習得状況、関連科目の成績などの到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う。具体的には、①学校現場での授業を行う実践的スキル（学習指導案の作成を含む）の獲得、②専門とする教科領域での教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得、③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、④教職に向けての明確な意思と各自の目標の設定、⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得、の 5 点を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、個別指導と演習形式の授業を組み合わせる形で構成する。
１）個別指導については、「教職のための力量形成についての自己評価と課題」をレポートとして提出する。また、「履修カルテ」に基づき個別課題を設定し、最後の授業で振り返りを行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
２）①教職についての実態、基本的な考え方や姿勢、教師の職務の全体像の把握、②模擬授業を中心とする授業研究による授業実践スキルと授業分析・研究の方法的スキルの獲得、③生徒指導の個別事例ケース研究、④それら全体をとおして、表現力や対人関係力のスキルの獲得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教師に求められる資質・能力
2	教育実習の振り返り	履修カルテ、教育実習の振り返り
3	教職のあり方(1)	学習指導のポイント
4	教職のあり方(2)	学習指導：教材研究の進め方
5	教職のあり方(3)	生徒指導：学級づくり、学級経営案
6	教職のあり方(4)	生徒指導：いじめや不登校、家庭や外部との連携
7	３年生との共同授業	４年生によるプレゼンと交流
8	テーマ研究の中間報告	テーマ研究の発表に向けて
9	授業実践の分析	授業の見方・考え方・分析の方法
10	模擬授業	授業の実施と検討
11	教師の力量形成	教師の専門性と実践の課題
12	テーマ研究発表(1)	プレゼンと討議
13	テーマ研究発表(2)	プレゼンと討議
14	授業のまとめ	教職課程のまとめ、教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課題に応えてレポートを作成する。また、個人やグループで学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回必要文献，資料など指定，あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
教育実践記録
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30 %）、個別課題や発表、学習指導案、模擬授業（50 %）、教場レポート（20 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
話し合いを充実させる。

【Outline and objectives】
This class aim to reflect and review if knowledge, skills and attitudes as a teacher are acquired through the teacher training course of Hosei University.　The intended outcomes are to acquire ①　teaching skills including how to develop lesson plans. ② subject matter knowledge, ③ child development and class and school management knowledge, ④ aspiration and disposition for a teacher, and ⑤ communication and presentation skills.

教職実践演習

寺崎　里水

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実際の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は，グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせて構成する。
個別的指導については，開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の 4 つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。
なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。

【テキスト（教科書）】
特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ
数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①個別課題レポートについての評価（50 %），②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30 %），③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20 %）を目安として、総合的に評価する。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する 場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ 2 年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていきたい。

【Outline and objectives】
This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themself and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

高野　良一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年間の教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力の形成が目的となる。

【到達目標】
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実際の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は，グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせて構成する。
個別的指導については，開始当初に学生に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出させ、個別課題を設定させる。必要に応じて中間報告を提出させ、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の 4 つから構成される。①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の記録の共同研究、③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。
なお、学生のクラス分けは教科ごととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
2	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教育実習を振り返る。
3	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性の理解を含む，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
4	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。
5	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
6	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）	単元、目標と評価、生徒理解を重点に授業研究をする。
7	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）	教材と教具、内容と構成を重点に授業研究をする。
8	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）	指導方法とコミュニケーションを重点に授業研究をする。
9	生徒指導の事例研究（1）	不登校やいじめ、対人関係トラブルの事例を扱う
10	生徒指導の事例研究（2）	家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携の事例を扱う
11	学生研究成果発表とその集団検討（1）	学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表とその議論。研究対象は中学校
12	学生研究成果発表とその集団検討（2）	研究対象は高校
13	学生研究成果発表とその集団検討（3）	「特別な配慮を要する生徒」等の特定テーマ
14	講義のまとめ	学生の教職履修総括の発表と講義者のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」の作成、共同研究や研究成果発表の準備が必須となる。

【テキスト（教科書）】
特にして指定しない。毎回、必要文献、資料などを指定、あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（文部科学省ホームページを利用）等のデータ
数冊の教育実践記録（講義の最初に教科ごとに適切なものを選択して指示する）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①個別課題レポートについての評価（50 %），②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30 %），③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20 %）を目安として、総合的に評価する。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する 場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ 2 年間にわたり、学生の主体性や能動性を重視しながらも、こちらから問いや課題を出して授業を進めてきた。本年度も、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化させつつ、基礎的な知識やスキルの習得を確認しながら教職課程履修の総まとめをおこなっていきたい。

【Outline and objectives】
This class is final one that students are demanded for obtaining the teaching certificates in Japan. Its aim and goal is to reflect themself and develop the abilities and dispositions for teaching professionals.

教職実践演習

遠藤　野ゆり

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
教職に就くための基礎力量の仕上げを行う。具体的には、以下の５点を到達目標とする。
①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職課程における学びや教育実習経験等に照らして、現在の学校が直面する実践的・臨床的課題の整理を行う。そこで共有化された項目について、グループに分かれ、ロールプレイングや模擬授業を取り入れながら、教員としての自己目標の設定と課題の明確化を行う。その成果を共同研究として論文にまとめる。
　なお、受講者は、この授業時限の直前にある「教育実習事前指導」に必要に応じて数回出席し、実習経験を踏まえた助言・相談を通して、後進の育成に貢献すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や課題、評価方法の説明。教職課程における本科目の位置づけの理解。
第 2 回	教職課程における学修の振り返り	履修カルテの確認、４年間の学修の振り返りと課題の導出。それらについて全体で討論。
第 3 回	教育実習の振り返り①	教育実習の体験を踏まえ、自らの学習課題を明らかにすると同時に、現在の学校が直面する実践的・臨床的課題を整理する。
第 4 回	教育実習の振り返り②	教育実習の体験を踏まえ、大学での学修を振り返る。また、後輩に伝える教育実習の心構え、準備等についてまとめる。
第 5 回	模擬授業①	３年生の前で模範となる模擬授業を行う。また教育実習に向けての心構え、準備等も伝える。
第 6 回	教材研究	４年間の学修および教育実習を踏まえ、教材研究の重要性、方法について振り返る。
第 7 回	授業方法	４年間の学修および教育実習を踏まえ、授業方法の重要性、方法について振り返る。
第 8 回	生徒指導	４年間の学修および教育実習を踏まえ、ロールプレイングを行いながら、生徒指導の重要性、方法について振り返る。
第 9 回	教員のキャリア	４年間の学修および教育実習を踏まえ、教員のキャリアの現状、今後の課題等について振り返る。
第 10 回	新しい課題	４年間の学修および教育実習を踏まえ、社会のなかで学校が直面する問題、地域との連携、今後の課題等について振り返る。
第 11 回	模擬授業②	３年生の指導案づくりや模擬授業の練習に立ち合い、アドバイスをしたり、実際にやって見せたりする。
第 12 回	協同研究①	教職課程の総合的な振り返りとして、教材研究、授業方法、生徒指導、教員のキャリア、新しい課題、後輩の指導といった課題を設定し、共同レポートを執筆する。そのためのグループを決定する。
第 13 回	協同研究②	中間発表を行い、議論を進める。
第 14 回	共同研究レポートの提出と全体のまとめ	４年間の学びの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業開始までに各自の教職履修カルテを整理し、教員としての自己の資質の確認を行っておくこと。授業時間に生産的な作業や議論が可能になるよう、与えられた課題を積極的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示。

【参考書】
授業中に適宜指示。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業中に課された課題の提出 60 %（教育実習事前指導での後輩への助言、演習における積極的な役割の遂行や討論への参加状況などを含む）、期末レポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
実習のふりかえりとして後輩指導が有効であるという意見が多いため、3 年生の実習への助言、支援を中心に行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室ではパワーポイント等の上映ができるので発表の際に使用者はパソコンを用意すること。

【その他の重要事項】
教職課程総仕上げの授業であることを自覚して臨むこと。初回の授業には必ず参加すること。参加できない場合は事前に連絡をすること。

【Outline and objectives】
Reflection of one's own experience of practical training. Brushing-up on the skill of teaching and reaching the attainment target of the teacher training course.

教職実践演習

筒井　美紀

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教職に相応しい知識と技能、教職を目指す姿勢の獲得について、４年間の単位取得状況、関連科目の成績等の到達点を踏まえ、教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標とする。

【到達目標】
上述のプロセスをとおして、専門職の土台をつくる。具体的には、
①学校現場における授業を進める実践的スキル（授業指導案の作成を含む）の獲得
②専門とする教科領域における教育内容についての一定の研究と教材作成力の獲得
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教職に向けての明確な意志と各自の目標の設定
⑤積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能獲得
の５点を、到達目標とする。
なお、クラス指定の授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　やることは２種類。（1）学校種・教科を基本に、グループを結成して授業について共同研究を行う（発表と期末論文執筆）。（2）ロールプレイイングと事例研究をとおして、生徒指導の実践的理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や課題、評価方法の説明。所属研究班の心積もり。次週までに、研究テーマをＡ４一枚に書いてくる
第 2 回	研究グループの結成／学術論文７つの構成要素	グループを結成。テーマと分担について話し合う／論文の書き方についてミニ・レクチャー
第 3 回	テーマと分担についての発表	各グループの代表者が発表、フロアから質問・助言をする。
第 4 回	教職のあり方：報告と議論	実習経験を元に、勤務・労働実態、教職の専門性と自由、教員評価と学校評価などについて議論する
第 5 回	生徒指導の実践的研究① 学級経営	多様な気質・背景の生徒たちから成る学級をどうまとめていくか、事例研究を通して学ぶ
第 6 回	生徒指導の実践的研究② 進路指導・キャリア教育	ロールプレイイングととおしてスキルを磨きつつ議論する
第 7 回	生徒指導の実践的研究③ 保護者や地域への対応	ロールプレイイングととおしてスキルを磨きつつ視野を広める
第 8 回	生徒指導の実践的研究④ 危機管理を中心に	事例研究を通して、災害や犯罪、対人トラブルへの対処方法について議論する
第 9 回	発表① 中学社会班	ＩＣＴを駆使し興味を思考に繋げる工夫
第 10 回	発表② 高校地理班	地図と画像と数値を総合的に活用し考えさせる工夫
第 11 回	発表③ 高校歴史班	現代から遡及的に探究させる工夫
第 12 回	発表④ 高校商業班	経済と生活の理解を深めさせる工夫
第 13 回	発表⑤ 高校公民班	社会の一員として主体的に生きることに誘うような授業の工夫
第 14 回	発表⑥ 三年生コーチン部班	学校職場と同僚性に引きつけて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に生産的・協働的な作業や議論が可能になるよう、担当箇所をきちんと準備身体を教室に運ぶこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示。

【参考書】
「高等学校学習指導要領（本文）」「高等学校学習指導要領解説（総則、地理歴史、公民、商業）」「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説（総則、社会）」

【成績評価の方法と基準】
ロールプレイイング・事例研究への参加・貢献２０％、グループ発表４０％、期末論文４０％

【学生の意見等からの気づき】
＜学術論文７つの構成要素＞はわかりやすいとこのことでしたので、引き続きレクチャーします。

【学生が準備すべき機器他】
教室ではパワーポイント等の上映ができるので使用者はＵＳＢを持参のこと。

【Outline and objectives】
In this class the students are to review their experience of teaching practice at school and master the basic skills for teaching.

教育実習（高）

高野　良一、児美川　孝一郎、筒井　美紀、遠藤　野ゆり、松尾　知明、寺崎　里水

単位：3 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して，教師の仕事の重要性・困難性，あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その役割や責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】
教師としての仕事を遂行するために必要な力量を獲得する。そのためにも、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の「事後指導」を通して，反省と総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの，反省点などをまとめ，②これから教育実習に臨む 3 年生にその経験を伝えたり，③実際に行った授業を３年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで適宜指示する。

【参考書】
文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』
法政大学『教育実習の手引き』
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の評価を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】
The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

教育実習（中・高）

高野　良一、児美川　孝一郎、筒井　美紀、遠藤　野ゆり、松尾　知明、寺崎　里水

単位：5 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の教育実践・実務等を体験することを通して，教師の仕事の重要性・困難性，あるいはその豊かさを体験し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その役割と責任を自覚することを目的とする。

【到達目標】
教師としての職務を遂行するために必要な力量形成の仕上げを行う。そのため、実習校の指導に従い教育実習を全力で全うする。そしてその実習を総括して、さらなる課題を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の「事後指導」を通して，反省と総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等を行う。
実習中②	教育実習（3 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	実習日誌を完成させ、①各自の実習体験やそこから得たもの，反省点などをまとめ，②これから教育実習に臨む 3 年生にその経験を伝えたり，③実際に行った授業を３年生に対する模範授業として行ったりする。今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。教職実践演習との有機的関連を持って実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育実習で担当する授業の授業案の作成など全力で取り組む。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
文部科学省『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』
その他、必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導の合格を前提にし、実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
実践的スキルの形成を指導過程で重視する。

【Outline and objectives】
The objectives for those who take this course are both to learn teaching knowledges and skills and to realize the roles and responsibilities for teaching and supervising pupils. The course begins at a third-year preparatory program and finishes in a fourth-year practical training.

人文地理学 I

片岡　義晴

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の農産物貿易の特色と仕組み、そこに見いだされる問題点を把握することを通して、現代世界の構造を理解できるようにしていきます。とりわけアグリビジネスの活動に主眼を置いて農産物貿易の仕組みを把握していきます。

【到達目標】
世界の農産物の貿易構造を大枠でとらえた上で、特徴的な農作物の貿易の特色と仕組みを把握していきます。そこに見いだされる問題点から、現代世界の政治・経済の仕組みの一端を理解できるようにしていきます。「誰」が貿易を支配しているのかに着目して、構造を把握していきます。特に「アグリビジネス」の実態を通して世界の農産物貿易の仕組みを把握できるようにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
経済のグローバル化の中で世界の貿易はその量・額ともに増大していますが、この授業では主に農産物貿易を対象としてとりあげ、その仕組み、貿易拡大に伴う問題などを具体的に検討してきます。さらにそうした問題の克服のための試みも紹介していきます。具体的には「アグリビジネス」の実態について、個別の作目、畜目（バナナや茶、コーヒー、ブロイラー等）を取り上げ、農産物貿易の仕組みを把握するようにしていきます。　また、アフリカの「砂漠化」を例に、「砂漠化」を「開発」という視点から考えていきます。
【授業の方法】
講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧需給	世界の食糧需給と食料自給率
第 2 回	世界の食糧とアグリビジネス (1)	世界の農産物貿易の構造
第 3 回	世界の食糧とアグリビジネス (2)	農産物貿易と多国籍企業
第 4 回	世界の食糧とアグリビジネス (3)	アグリビジネス企業の実態－カーギルの事例－
第 5 回	世界の食糧とアグリビジネス (4)	アグリビジネス企業の実態－モンサントによる遺伝子組み換え作物－
第 6 回	世界の食糧とアグリビジネス（5）	食品安全基準の国際的「統合」
第 7 回	果汁産業の展開と多国籍企業	ブラジルの事例
第 8 回	バナナの生産構造と多国籍企業	フィリピンの事例
第 9 回	紅茶生産と多国籍企業	ケニアにおける政治変化と紅茶生産の拡大
第 10 回	コーヒー危機	コーヒー危機とベトナムのコーヒー生産拡大
第 11 回	飼料、畜産のグローバル化	飼料支配と多国籍企業
第 12 回	フェアトレード	フェアトレード (公正貿易) の展開と問題点
第 13 回	アフリカの旱魃と気候	「砂漠化」と「開発」
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ここ数年「日本食は世界一」「注目される日本食」などという意味不明な情報が跋扈していますが、日頃食べているものはどこから来ているか、それを考えるだけで現代日本の食が、いかに海外に食材を依存しているかを知ることができます。今や「日本食」は海外原料なくしては成立し得ない「幻想の産物」に過ぎません。
さて、WTO ドーハラウンド交渉の挫折、TPP 妥結、2016 年アメリカ大統領選挙に伴う TPP 破綻、アメリカを除く 11 か国による 2017 年の新たな TPP の模索等、ここ 2〜3 年の間にこれら情報が錯綜しています。新 TPP、WTO ドーハラウンドという 2 つのキーワードが報道に登場する度にチェックしておいて下さい。「地理学」的把握も、現実の社会の動きに連動したものでなければなりません。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。プリントを配布します。

【参考書】
大塚・松原編著（2004）『現代の食とアグリビジネス』有斐閣を一応の参考書としておきますが、他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加程度（出席状況を含む）等平常点約 20 点、筆記試験約 80 点、合計約 100 点で成績評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
この授業が「問題」の「解決策」を示さず、「批判的」過ぎるとの意見もあるようです。しかしこの授業は、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。安易な「解決策」など提示しませんし、できません。そもそも授業で「解決策」を提示でき、そしてそれを実行できるならば、この世に「問題」など存在しません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
Agribusiness in the World.

人文地理学Ⅱ

片岡　義晴

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業（鉄鋼業と石炭産業）の変容と、その過程で生じた「地域問題」を取り上げ、「地域問題」の仕組みを学びます。

【到達目標】
かつては主力産業であったが今や一方は比重を下げ、もう一方はほぼ消滅した産業、すなわち鉄鋼業と石炭産業という 2 つの産業と地域との関連を通して、日本の「地域問題」の仕組みを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
一時期は一国の主力産業であっても、それは永遠ではありません。そうした産業の史的展開はそれらが立地している地域に大きな問題を生じさせます。「地域問題」を産業の変遷と関連づけて整理していきます。鉄鋼業と石炭産業は共に第二次世界大戦後、日本経済を牽引した産業ですが、かつての勢いは失われています。いや一方はほぼ消滅しました。それらの過程で、一体どのような地域問題が生じたのか、それを具体的に検討していきます。
【授業の方法】講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦後の経済発展と鉄鋼業・石炭産業 (1)	戦後復興と「傾斜生産方式」
第 2 回	第二次世界大戦後の経済政策と鉄鋼業・石炭産業 (2)	日本における鉄鋼業の変遷
第 3 回	鉄鋼業の変遷 (1)	鉄鋼企業の変遷
第 4 回	鉄鋼業の変遷 (2)	鉄鋼の生産工程
第 5 回	鉄鋼業と地域	新日鐵釜石と岩手県釜石市
第 6 回	日本のエネルギー政策と石炭	新エネルギーと石炭需要
第 7 回	石炭政策の展開と石炭産業 (1)	幕末の開港と石炭需要
第 8 回	石炭政策の展開と石炭産業 (2)	明治政府の石炭政策とその後の展開
第 9 回	石炭政策の展開と石炭産業 (3)	第二次大戦後の石炭政策
第 10 回	石炭産業の展開と地域（1）	九州と北海道
第 11 回	石炭産業の展開と地域（2）	産炭地崩壊の地域性
第 12 回	三池争議と三井三池炭塵爆発（1）	三池炭鉱の歴史と囚人労働
第 13 回	三池争議と三井三池炭塵爆発（2）	労働強化と炭塵爆発
第 14 回	まとめ、解説	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
鉄鋼生産にはコークスが必要ですが、コークスは石炭からつくられます。産業上、両者は関連し合っています。しかし「石炭」の国内生産は既に放棄され、鉄鉱石の生産も同様です。しかしアジア、たとえば中国では、近年炭鉱事故が多発しています。新聞などの海外ニュース、特に「鉱業」に関する記事に眼を向けて下さい。一方、鉄鋼業については、新聞では経済ニュース欄に、各企業の情報がしばしば登場します。ただし、鉄鉱石については輸入先の情報が時々登場する程度です。いずれの場合も、関連報道をチェックするようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
奈賀悟（1997）『閉山－三井三池炭坑 1889～1997』岩波書店（同時代ライブラリー）
その他、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）等の平常点約 20 点、筆記試験（記述式）約 80 点、合計約 100 点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業が「批判的」過ぎるとの意見もあります。しかしこの授業では、あくまでも現象を「客観的」に把握することをめざします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
日頃、大量に消費しているにもかかわらずそれに気づかない鉄鋼製品、石炭から見える日本の姿を知っていただければと思います。

【Outline and objectives】
Regional problems under the changing steel industries and coal mines in Japan.

自然地理学 I

狩野　真規

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学の基本を学びながら、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。例えば地図や分布図の読図に関わる技能や ICT 教材の利用のためのノウハウなどの獲得を狙いつつ、中学・高校の地理の授業に必要な知識や実践のためのヒントを講義や実習から学んでいく。

【到達目標】
実際に中学・高校での地理の授業を板書だけに頼らないレベルで実施できる知識や指導法の獲得と、自然地理学にまつわる話題の理解を目指す。また、文部科学省の学習指導要領の中学社会および、高校地歴の内容の理解も目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に図表などはプリントで配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した授業とする。また、各回の最後に次回への課題を提示し、次回冒頭にて小テストを実施ないしは実習課題等を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理の内容について確認する。
第 2 回	地理の教科書を見る	実際の中学・高校における地理の教科書にて自然地理に関わる内容を確認する。
第 3 回	地球の成り立ちと地球表面における活動	地表面の形成とプレートの運動について、わが国の自然環境と発生する災害などを確認する。
第 4 回	地図の活用	授業での地図の活用について、地形図や GIS などを利用するための方法を探る。
第 5 回	地形図の読図・その 1	実際の地形図を使って、地形図上の土地利用を考える。
第 6 回	地形図の読図・その 2	実際の地形図を使って、地形計測を行う。
第 7 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 8 回	ケッペンの気候区分について	ケッペンの気候区分とその設定基準について確認する。
第 9 回	小気候スケールの現象	生活圏の地理的課題と地域調査の観点から身近な地域で発生する現象やその仕組みを考える。
第 10 回	気候景観について	身近な生活空間で発現する現象からその場所の気候を考える。
第 11 回	地球上における水	地球的課題の観点から生活に不可欠な水とその分布状態について考える。
第 12 回	水資源とその利用	生活圏の地理的課題の観点から人間が利用できる水資源とその問題点について考える。
第 13 回	自然災害と防災について	我が国の自然環境の特色を踏まえた上で、災害を引き起こす自然現象に注目し、防災意識を高めるための教材作りについて考える。
第 14 回	ICT 教材やアクティブラーニングについて	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の冒頭にて小テストを実施するか、実習課題を課すので、その準備が必要となる（予習の代わり）。小テストないしは課題の内容は毎回の講義の最後にて指示する。

【テキスト（教科書）】
高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を用意すること。

【参考書】
高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2　自然地理学概論、朝倉書店
水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門　ベレ出版
などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
毎回、何かしら評価の対象となるものを設定するので、その合計で評価をする。具体的には小テストないしは実習課題 (70%)、および課題を基にした発表内容 (30%) の合計で評価する。特に発表に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
地理に対しての知識の無さを気にする学生が多いが、その対策の一つとして、近年は小テストを実施するようにしたが、その他にも工夫が必要と考えている。また、履修者との対話からさらなる改善を探そうと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用できる準備をしておくこと。また、課題で地図への彩色が必要となる関係で色鉛筆 (12 色セットのもの) を必ず用意すること。

【その他の重要事項】
近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。特に初回から出席しないものが増加している。教壇に立ち続けるには、自分を律することができなくて、生徒の指導ができるのか？ という視点が求められるので、初回からきちんと出席をすることを求める。また、実習などで欠席した際には証明書を速やかに提出すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble geography classes in the junior high school and high school. Especially, learn the basics of natural geography.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Acquisition of lesson method using map
2. An understanding of the basic of natural geography(Topography,Climatology and Hydrology).
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. To assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.

自然地理学Ⅱ

狩野　真規

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関するテーマを軸として、教壇で地理を教えるために必要な資質・能力の獲得を目指す。特に受講者による模擬授業を実践することで、教材研究や板書計画などの経験を積むとともに、中学・高校で地理を教えるスキルの獲得・向上を目指す。

【到達目標】
地理の授業に必須となる自然地理学の知識だけではなく、教えるために必要な技能などの獲得を目指す。具体的には文部科学省の学習指導要領の内容を意識した学習指導案の作成から授業の実践を経験し、現場での授業に対処できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には序盤はプリントを配付し、それらをもとに PC によるスライドを利用した授業とする。中盤以降は受講者による実践を中心にしたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学とは何か？	地理学とは如何なる学問であるかを確認しつつ、中学・高校の社会および地歴科の学習指導要領における地理について確認する。
第 2 回	自然環境と産業との関わり	農業と気候との対応などから地誌的内容への応用を探る。
第 3 回	造山帯と資源分布	造山運動と資源分布との対応から暗記主体授業からの脱却のための視点を考える。
第 4 回	地形図にみられる地形とその形成	身近な地域でみられる地形について、その形成や地形図上での表記に注目し、地形図の読図に関する知識の獲得とそれらを教材としての使い方を考える。
第 5 回	気候区分について	気候区分とその考え方から教材研究の方法を探る。
第 6 回	白地図の利用	実際の授業に備えた教材研究の一環として、白地図の利用法について課題の発表を通じて考える。
第 7 回	自然地理の授業の実践・その 1	大地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業実践に慣れることに主眼を置く。
第 8 回	自然地理の授業の実践・その 2	地形図に出てくるスケールの地形についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼を置く。
第 9 回	自然地理の授業の実践・その 3	ケッペンの気候区分についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、内容に対する指導上の留意点を確認していく。
第 10 回	自然地理の授業の実践・その 4	日本の気候についての授業を履修者が主体となって授業を行うことで、生徒の状況 (認識力・思考力・学力など) に応じた授業設計の必要性を確認していく。
第 11 回	自然地理を活かした授業の実践・その 1	アメリカ地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、発展的な学習内容を盛り込んだ授業実践を行うことで、それらの学習指導への位置づけを考える。
第 12 回	自然地理を活かした授業の実践・その 2	オーストラリア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計の検討をしていく。
第 13 回	自然地理を活かした授業の実践・その 3	アジア地誌について自然環境の説明から展開する内容とした履修者主体の授業の実践を行うことで、定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。
第 14 回	アクティブラーニングを使った授業	地理の授業で実践するために必要な事項を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
序盤では小テストないしは課題を課すので、それに対処できる準備をして欲しい。中盤以降は履修者が主体となるので、模擬授業の準備などが必要となる。特に意識してもらいたいこととして、他人の模擬授業を聞くときは、自分が扱うことを想定した準備をしてくることを挙げたい。

【テキスト（教科書）】
高等学校で使用する地図帳、例えば帝国書院の新詳高等地図などがよい。
また、文部科学省の中学校ならびに高等学校の学習指導要領（社会・地理歴史）を用意すること。

【参考書】
高橋日出男・小泉武栄（2008）地理学基礎シリーズ 2　自然地理学概論、朝倉書店
水野一晴（2015）自然の仕組みがわかる地理学入門　ベレ出版
などがあげられるが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
序盤までの授業で実施する小テストないしは実習課題（40%）、および模擬授業内容（60%）の合計で評価する。特に模擬授業に対する評価は教員だけではなく、受講者同士の相互評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業の順については学生からの声を参考とした。また、他者が模擬授業をしているときにも出席する意義づけを考え、履修者同士の評価も成績評価に取り入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使えるようにしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
近年、出席が常ではない履修者が増えてきている。免許法上必要な実習であれば届け出ればよいが、そうではない場合は評価を減点していくので注意してもらいたい。そもそも教壇に立っているものが自分を律することができなくて、生徒の指導ができるのか？ 実際に欠席が多い学生は単位取得ができないことが多い。また、同じ講義の履修者同士のつながりも大切にしてもらいたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble geography classes in the junior high school and high school.　Especially, learn the basics of natural geography.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Acquisition of lesson method using map
2. To　assemble geography classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

地誌Ⅰ

山口　隆子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得する。

【到達目標】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
小テストや地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させる。出席者にはその都度プリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本の自然
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの自然
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの自然
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの自然
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの自然
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の自然
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の自然
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニア・極域の自然
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	大学周辺でのフィールドワーク
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造（2007）：『地誌学概論』．朝倉書店，160p．
帝国書院編集部 (2019)：『図説地理資料　世界の諸地域 NOW2019』．帝国書院

【成績評価の方法と基準】
レポート： 50 %、小テスト・作業成果物・課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内での作業時間を増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】
高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】
Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌Ⅰ

伊藤　達也

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
名古屋大都市圏の成立から現状、抱える課題について経済面を中心に考えていきます。名古屋地域の形成論理や存立のメカニズムを学ぶことが目的となります。

【到達目標】
本講義の内容は日本地誌です。対象地域は名古屋大都市圏で、その特徴を形成する構成要素とその成立メカニズムを学びます。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。また、学生は授業外で特定地域を選び、当該地域の形成論理、存立メカニズムについてレポートをまとめ、授業の最後に発表します。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際化社会	国際化社会の中での社会変容について述べる
2	国民経済と国家	現代における国家の役割について述べる
3	地域経済の成立	地域経済の成立メカニズムについて述べる
4	地域経済の成長原理	地域経済の成長メカニズムについて述べる
5	地域経済の特徴（ＤＶＤ）	地域経済の特徴について、ＤＶＤで学習する
6	名古屋の成立	17 世紀初頭、城下町名古屋の成立について述べる
7	近代名古屋の出発	明治期の名古屋について述べる
8	名古屋の経済成長前期	明治後半の名古屋の産業（軽工業）発展について述べる
9	名古屋の経済成長後期	大正から昭和初期の名古屋の産業（重工業）発展について述べる
10	名古屋の歴史（ＤＶＤ）	名古屋の産業発展と都市発展について、ＤＶＤで学習する
11	名古屋大都市圏の成立	戦後の経済発展の中での名古屋大都市圏の成立について述べる
12	東京一極集中の中の名古屋	名古屋大都市圏の現状について述べる
13	名古屋の社会地域構造	名古屋大都市圏の社会地域構造について述べる
14	名古屋の課題	現在の名古屋大都市圏の特徴と課題について述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業と並行してレポート「○○地域の地誌」を作成します。

【テキスト（教科書）】
使用しません。関連資料は授業中に配布します。

【参考書】
名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版　図説名古屋圏』古今書院
佐藤正明（2005）『ザ・ハウス・オブ・トヨタ－自動車王豊田一族の百五十年－』文芸春秋
砂川幸雄（1998）『森村市左衛門の無欲の生涯』草思社
城山三郎（1994）『創意に生きる－中京財界史－』文春文庫
中田　実・谷口　茂編（1990）『名古屋－第二の世紀への出発－』東進堂
樮西光速（1962）『豊田佐吉』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験（70 %）とレポート（30 %）で行い、両者の合計が 100 %です。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline and objectives】
I think about formation, the current state and a problem in Nagoya metropolitan area in this lecture.

地誌Ⅱ

山口　隆子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な地理（地誌学）の基本的な知識を習得する。

【到達目標】
地理の授業を担当する社会科の教員として必要な基礎知識と授業の展開方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
小テストや地図作業、学生による模擬授業などを適宜交えて講義を進行させる。出席者にはその都度プリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と地誌学	地理学や地誌学は、どのような学問か。
第 2 回	学習指導要領とは	新学習指導要領の変更点を中心に読み解く。
第 3 回	地理学習の基礎	地理情報と地図の活用
第 4 回	日本の諸地域	日本
第 5 回	世界の諸地域①	アジアの国々
第 6 回	世界の諸地域②	西アジア・アフリカの国々
第 7 回	世界の諸地域③	ヨーロッパの国々
第 8 回	世界の諸地域④	旧ソビエトの国々
第 9 回	世界の諸地域⑤	北米の国々
第 10 回	世界の諸地域⑥	中南米の国々
第 11 回	世界の諸地域⑦	オセアニアの国々・極域
第 12 回	世界の諸地域⑧	学生による模擬授業等
第 13 回	フィールドワークとは	大学周辺でのフィールドワーク
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造（2007）：『地誌学概論』．朝倉書店，160p．
帝国書院編集部 (2019)：『図説地理資料　世界の諸地域 NOW2019』．帝国書院

【成績評価の方法と基準】
レポート： 50 %、小テスト・作業成果物・課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内での作業時間を増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】
高校で使用していた教科書準拠の地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など）を毎回持参すること。作業に必要な文具（色鉛筆・定規・はさみ・のり等）は、その都度指示する。

【Outline and objectives】
Learn the basic knowledge of the geography necessary as a teacher of the social department in charge of geography classes.

地誌Ⅱ

伊藤　達也

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を目ざします。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。また、テーマに関連した DVD,
PPT 等視聴覚教材を使用することにより、テーマの理解を深めます。

【到達目標】
韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD,PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国（1）	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国（2）	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係 (1)	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係 (2)	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義 (1)	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義 (2)	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥 (1)	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥 (2)	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱えている環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
古田博司（2018）『「統一朝鮮」は日本の災難』飛鳥新社
浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社
百本和弘（2015）『韓国経済の基礎知識』日本貿易振興機構
裵 海善（2014）『韓国経済がわかる 20 講』明石書店
大西　裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
古田博司（2014）『醜いが、目をそらすな、隣国・韓国！』WAC
辺　真一（2014）『大統領を殺す国　韓国』角川書店
浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国』NHK 出版新書
内山清行（2013）『韓国　葛藤の先進国』日経プレミアシリーズ
朴　正雄著／本田務・青木謙介訳（2004）『韓国経済を創った男鄭周永伝』日経ＢＰ
洪夏祥著／宮本尚寛訳（2003）『サムスン経営を築いた男李健熙伝』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
定期試験で 100 %評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】
テンポの良い授業を目指します。

【Outline and objectives】
The main aim is to recognize the economical feature and the problem of the Asian countries. I focus on inside and social and financial change of Korea where has a strong relationship with Japan.I deepen understanding of a theme by using audiovisual materials, ex PPT.

職業指導（仕事の場と学び）

高橋　浩

単位：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】
職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。
職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。そのために本授業では、一方的な講義に終始するのではなく、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバーグの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理－社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバーグやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサビカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホールの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。
14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。

16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	３つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致／自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各理論・技法については、授業前にテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめておき、授業当日のディスカッションに備えておくこと。

習得した支援技法については、それを日常生活の中で自他に応用するように努めること。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング―キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）
『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）
『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）
『小学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論のその方法の理解について：春学期末のレポート課題（５０％）、授業への参加姿勢（５０％）
・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（５０％）、授業への参加姿勢（５０％）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】

In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【C6700】生涯学習入門Ⅰ［笹川　孝一］春学期授業/Spring 1
【C6701】生涯学習入門Ⅰ［朝岡　幸彦］春学期授業/Spring 2
【C6702】生涯学習入門Ⅰ［文　孝淑］春学期授業/Spring 3
【C6703】生涯学習入門Ⅱ［笹川　孝一］秋学期授業/Fall 4
【C6704】生涯学習入門Ⅱ［朝岡　幸彦］秋学期授業/Fall 5
【C6705】生涯学習入門Ⅱ［文　孝淑］秋学期授業/Fall 6
【C6706】図書館情報学概論Ⅰ［原田　隆史］春学期授業/Spring 7
【C6707】図書館情報学概論Ⅰ［村上　郷子］春学期授業/Spring 8
【C6708】図書館情報学概論Ⅱ［原田　隆史］秋学期授業/Fall 9
【C6709】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］秋学期授業/Fall 10
【C6710】図書館情報学概論Ⅱ［菅原　真悟］秋学期授業/Fall 11
【C6711】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］春学期授業/Spring 12
【C6712】図書館サービス概論［丹　一信］春学期授業/Spring 13
【C6713】情報サービス演習［田中　順子］年間授業/Yearly 14
【C6714】情報サービス演習［奥泉　和久］年間授業/Yearly 15
【C6715】情報サービス演習［菅原　真悟］年間授業/Yearly 16
【C6716】図書館情報資源概論［小黒　浩司］春学期授業/Spring 17
【C6717】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期授業/Spring 18
【C6718】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期授業/Spring 19
【C6719】図書館情報資源特論［小黒　浩司］秋学期授業/Fall 20
【C6720】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期授業/Fall 20
【C6721】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期授業/Fall 21
【C6722】図書館演習［坂本　旬］年間授業/Yearly 22
【C6723】図書館演習［村上　郷子］年間授業/Yearly 23
【C6724】図書館演習［丹　一信］年間授業/Yearly 24
【C6725】図書館演習［田村　貴紀］年間授業/Yearly 25
【C6726】読書と豊かな人間性［高橋　恵美子］秋学期授業/Fall 26
【C6727】情報メディアの活用［村上　郷子］秋学期授業/Fall 27
【C6728】情報メディアの活用［坂本　旬］秋学期授業/Fall 28
【C6730】社会教育演習［笹川　孝一］年間授業/Yearly 29
【C6731】現代社会と社会教育Ⅰ［笹川　孝一］春学期授業/Spring 30
【C6732】現代社会と社会教育Ⅰ［文　孝淑］春学期授業/Spring 31
【C6733】現代社会と社会教育Ⅱ［笹川　孝一］秋学期授業/Fall 32
【C6734】現代社会と社会教育Ⅱ［文　孝淑］秋学期授業/Fall 33
【C6736】現代生活・文化と社会教育Ⅱ［佐々木　美貴］秋学期授業/Fall 34
【C6737】博物館概論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 36
【C6738】博物館経営論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 36
【C6739】博物館経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 37
【C6740】博物館資料論［田中　裕二］秋学期授業/Fall 38
【C6741】博物館教育論［荒川　裕子］春学期授業/Spring 39
【C6742】博物館教育論［山下　治子］秋学期授業/Fall 40
【C6743】図書館制度・経営論［森　智彦］秋学期授業/Fall 41
【C6744】児童サービス論［田中　順子］秋学期授業/Fall 42
【C6745】情報サービス論［田中　順子］春学期授業/Spring 43
【C6746】情報資源組織論［丹　一信］春学期授業/Spring 43
【C6747】情報資源組織演習［丹　一信］年間授業/Yearly 44
【C6748】情報資源組織演習［村上　郷子］年間授業/Yearly 45
【C6749】情報資源組織演習［鈴木　祐滋］年間授業/Yearly 46
【C6750】情報資源組織演習［菅原　真悟］年間授業/Yearly 47
【C6751】学校図書館メディアの構成［高橋　恵美子］春学期授業/Spring 48
【C6752】学校経営と学校図書館［高橋　恵美子］春学期授業/Spring 49
【C6753】学習指導と学校図書館［高橋　恵美子］秋学期授業/Fall 50
【C6754】社会教育計画［御園生　純］年間授業/Yearly 51

【C6755】社会教育計画［御園生　純］年間授業/Yearly 52
【C6756】社会教育活動Ⅰ［桔川　純子］春学期授業/Spring 53
【C6757】社会教育活動Ⅱ［佛木　完］秋学期授業/Fall 54
【C6759】博物館資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 55
【C6760】博物館資料保存論［清水　久夫］秋学期授業/Fall 56
【C6761】博物館展示論［渡邉　尚樹］秋学期授業/Fall 57
【C6762】博物館展示論［渡邉　尚樹］春学期授業/Spring 58
【C6763】博物館情報・メディア論［柏女　弘道］春学期授業/Spring 58
【C6764】博物館情報・メディア論［石川　貴敏］秋学期授業/Fall 59
【C6765】博物館実習Ⅰ［藤田　直人］年間授業/Yearly 60
【C6766】博物館実習Ⅰ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 61
【C6767】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間授業/Yearly 62
【C6768】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間授業/Yearly 63
【C6769】博物館実習Ⅲ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 64
【C6770】ミュージアム資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 65
【C6771】ミュージアム資料保存論［清水　久夫］秋学期授業/Fall 66
【C6772】ミュージアム展示論［渡邉　尚樹］秋学期授業/Fall 67
【C6773】ミュージアム展示論［渡邉　尚樹］春学期授業/Spring 68
【C6774】ミュージアム情報・メディア論［柏女　弘道］春学期授業/Spring 68
【C6775】ミュージアム情報・メディア論［石川　貴敏］秋学期授業/Fall 69

生涯学習入門Ⅰ

笹川　孝一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習の本質と歴史～生涯学習の時代とキャリアデザインの時代との関係性に焦点をあてて～
☆なお、発達・教育キャリア入門C・D（生涯学習入門はⅠ・Ⅱ）は、内容が一続きのものなので、連続して履修することが望ましい。

【到達目標】
1）人間の生涯学習とキャリア・キャリアデザインとの関係について、ヒト以外の動物と比較しながら、「仕事」「遊び」「表現」「共同体」「学習と教育」「生涯学習」「社会教育」に焦点を当てて考える。
2）近代化、現代化と「生涯学習の時代」「キャリアデザインの時代」の意味と矛盾について考える。
3）日本の歴史に即しながら「生涯学習」「キャリア」「キャリアデザイン」の用語と概念の変遷を追い、そこでの課題と方向性、自分自身で定義することの大切さを考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1）授業の概要：
授業の到達目標及びテーマを参照のこと。
2）授業の方法：
①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
②学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する。	授業の狙いと概要、進め方、授業のルール、評価方法等について説明し、合意形成を図る。
2	自然史過程としてのヒトの歴史と人の一生～生涯学習・社会教育およびキャリアデザインの①	動物の一生が自然史過程であるのと同様に、人間の一生も自然史の一過程であり、個人にも種にも、太陽系と地球にも誕生と死があることを理解する。
3	人の生涯と「仕事」「遊び」「意味づけ」～同上②	人間が「仕事」という時間的経過の中でのみ成就する意識的活動を始め、それによって生まれた自由な活動時間における「遊び」を行うことで、人生に「意味付け」を行うようになったこと、及び、「仕事」「遊び」の構成要素を理解する。
4	ヒトの表現と次世代育成～同上③	仕事と遊びをするために、人は様々な表現手段を発達させ、それらを習得し、発展させ、次世代に伝えてきたことを理解する。
5	自立・自律のための共同体経営と伝統型生涯学習社会～同上④	互いに依存しあいながら自立・自律して生きるために、人々は組織や社会を作り出して生きてきたこと、および伝統型生涯学習社会の構造を理解する。
6	近代化と生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ～生涯学習の歴史的意義①	産業革命、市民革命を基礎に生まれた近代的個人とその矛盾がキャリアデザインを切り開いてきたことを理解する
7	近代社会における生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝと社会参加～同上②	近代的個人は自律・自立のみを一方的に推進したのではなく、それを可能にする新しい社会も生み出してきたことを理解する
8	近代社会における契約社会と非契約社会～同上③	キャリアデザインにとって、非契約関係と、それを基礎とする契約関係との両方が大事なことを理解する。
9	グローバリゼーションと生涯学習～同上④	いわゆる「グローバリゼーション」のもとで広がる国際的ネットワークと格差や商業主義との鬩ぎ合い、struggleの中で、個人のキャリアも家族、事業所、地域、国家、地球のキャリアも連携しあいながら鍛えられていることを、理解する。
10	女性の時代におけるキャリア形成と生涯学習～現代における人の生き方・働き方と生涯学習①	人が自らの生き方に自覚的になる上で欠かせないキャリア形成と生涯学習の歴史について、「キャリア組」という男性エリートの世界から「キャリアウーマン」という職業をもつ女性へと「キャリア」「キャリアデザイン』が展開する中で、多面的なキャリアが追求されてきたことを理解する。
11	生涯学習・キャリア形成と男性たちのワークライフ学習ﾊﾞﾗﾝｽ～同上②	1990 年代を通じて雇用不安にさらされてきた男性たちも「ワークライフバランス」を求め始めてきたことを理解する。
12	21 世紀における生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝの国際的展開～同上③	21 世紀に至って、日本の中での努力、国際的な影響、地球環境の危機などのよって、バランスのとれた人と組織と地球のキャリア形成がさまざまな人々によって担われ始め、「生涯学習」や「コンピテンシー」「グローカルな知識や技術、ネットワーク」が展開し始めたことを理解する。
13	「生涯学習」「生涯教育」「キャリア」「キャリアデザイン」は自分で定義する～同上④	「キャリア」と「キャリアデザイン」は論争的なので、一人ひとりが自分の定義をもつことが大事であることを理解する。そのうえで、担当教員自身の定義を紹介する。
14	まとめと補足	学生の質問をもとに補足説明と討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習復習
授業で紹介する参考文献を読むこと

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
授業に使う PP ファイルを「資格課程の web サイト」で配布する。
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】
ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会
笹川孝一編『生涯学習社会とキャリアデザイン』法政大学出版会

【成績評価の方法と基準】
・授業への出席
・授業への積極的参加
・随時出されるレポートの提出とその内容
・定期試験の結果
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・映像や新聞記事の活用
・学生からの質問、感想への積極的な対応
・テキストの内容の要約とコメントの課題は力がつくという評価が多いので、積極的に実施する
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
ワード
パワーポイント
ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
・なお、発達・教育キャリア入門は C・D（生涯学習入門Ⅰ・Ⅱ）続けて履修することが望ましい。内容も一連のものとなっている。

【Outline and objectives】
Essentials and History of Lifelong Learning

生涯学習入門 I

朝岡　幸彦

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門 I) では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について理解するとともに、国際文書や条約の動向や特徴を学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育から生涯学習へと展開してきた理念・思想を理解するとともに、それを支える国際的な文書や民衆的基盤について学ぶ。
第 4 回	社会教育・生涯学習の国際的動向	国際会議・国際ネットワークの活動に関わる基本的な文書を通して、ヨーロッパ・北米とアジアに注目して国際的動向を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の政策と制度	社会教育・生涯学習政策の動向を理解するとともに、社会教育法改正の意味や地方分権・規制緩和・行政改革・自治体合併などについて考える。
第 6 回	社会教育・生涯学習の計画づくり	住民参加による社会教育・生涯学習の計画づくりの取り組みを中心に、自治体計画づくりや教育振興基本計画づくりにおける住民参加の可能性と課題について考える。
第 7 回	施設と職員 (1) 公民館	公民館の原点、法規、国の答申、理念、公民館計画、組織・運営、職員に関する基本的な事項を理解し、その現代的課題について考える。
第 8 回	施設と職員 (2) 図書館・博物館	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 9 回	施設と職員 (3) コミュニティセンター	生涯学習センターや生涯学習・コミュニティ施設のネットワーク化の現状を理解するとともに、施設の運営や職員をめぐる状況について学ぶ。
第 10 回	施設と職員 (4) スポーツ・文化施設	スポーツ施設に関わる法と政策を踏まえてスポーツ施設の現状と多様化について理解するとともに、文化施設の現状と課題を指定管理者制度との関連を中心に学ぶ。
第 11 回	職業能力開発・職業訓練	職業能力開発・職業訓練関連の国際規定及び法令について理解するとともに、その現状と課題を規制緩和政策との関連で考える。
第 12 回	施設の管理運営と住民参加	社会教育・生涯学習施設の管理運営と住民参加の可能性について、指定管理者制度、自治体における施設再編、事業評価などの視点から考える。
第 13 回	学びの場と方法	生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育の関連について、子育てネットワーク運動、学校支援・学社連携の事例から考える。
第 14 回	グローバリゼーションと市民教育	グローバリゼーションのもとで新たな役割を期待されている社会教育・生涯学習のあり方を市民教育の視点から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所　2017 年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】
Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

生涯学習入門Ⅰ

文　孝淑

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講する学生が、ダイバーシティ社会における「発達・教育キャリア」とは何かを、これまでの社会教育・生涯学習の歴史や実践活動から考察する。そのうえ、「異文化・異民族間＜共同交流学習＞」の視点で「異なる」者同士によって行われている学習・実践の場で生じうる様々な問題を克服するため、コミュニティ（『世間』）における人間関係からおとなの「発達」や「教育キャリア」を見つけ出す。

【到達目標】
・　学生が授業の中で、人々のライフステージをマネジメントするための「教育キャリア」をどのように考え、アップさせていく方法を探しだす。
・　専門職員として、実践現場での事業の企画や実施に当たり、「基本的人権」「学習権」意識を持ち続けることの重要性を確認する。
そのうえ、高齢者、障害者、及び外国籍住民などが異文化間の「共同交流学習」を通じ、コンフリクトを乗り越え、一人ひとりが地域で自立して生きる「力」を身につけていける新たな学習・実践活動を示す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
生涯学習の基礎知識（歴史や法制度・政策の変遷、理論など）並びに、実践活動を時系列に整理し、共有する。それによって、地域で行われている生涯学習活動の現状を知り、「発達」や「教育キャリア」を妨げている課題の解決するために、各テーマに沿った講義の後、グループに分かれ、講義で行われたテーマから一つ選んで、議論し合い、まとめ、全体的に質疑討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講生の把握のためのｱﾝｹｰﾄ取りと授業のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	生涯学習に関する基礎的な設問と考え方、地域活動の経験、関心事などを把握する。
第 2 回	ダイバーシティ社会における「発達・教育キャリア」（生涯学習）について	1 回目のｱﾝｹｰﾄの回答、学習内容と実践活動の振り返り、そのあり方を考える。
第 3 回	制度変遷の歴史的考察	生涯学習の制度・施設のふり返り及び、実践現場で生じうる問題の克服について考える。
第 4 回	動向、現状について	生涯学習論の動向と現状について、資料や事例を取り上げ、批判的考察を行う。
第 5 回	地域づくりに関わる専門職員	専門職員として関わる学習・実践活動の事例を取り上げ、現場での役割を考える。
第 6 回	外国との比較	他国の社会教育の諸相との比較を行い、日本の生涯学習の独自性、課題などを考える。
第 7 回	現状把握と課題設定	各々が社会教育職員の視点から今の社会教育施設で行っている実践活動に関わるテーマを考え、決める。
第 8 回	グループ分け	メンバーが各自のテーマを出し合い、話し合っていくテーマを決める。
第 9 回	グループワークへの助言	各グループごとに決めたテーマについて話し合いを重ねていく。テーマに関わる内容について講義をも行う。
第 10 回	グループワーク① グループ分けとテーマ決定	グループワーク。各グループで決めたテーマについて話し合い。
第 11 回	グループワーク② 下調べ資料の共有	話し合い。新たに出た課題を次回のために各自が分担して持ち帰る。
第 12 回	グループワーク③ まとめの準備作業	前回の課題を踏まえて、まとめ作業にむけて話し合う。
第 13 回	グループワーク④ 発表のためのまとめ作業	各グループで話し合ってきた内容をまとめ、発表し、質疑討議する。
第 14 回	プレゼンテーションとふり返り	各グループで話し合ってきた内容をまとめ、発表し、質疑討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生が地元の生涯学習活動を把握し、一つの実践活動の現場に出かけ、行われている取り組みや現状を確認し、報告を行う。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストは用いず、毎回テーマに沿ったレジュメと、講義内容に関わる記事や各地の取り組みの活動記録、記事、映像などを用いる。

【参考書】
講義内容にかかわる参考図書・資料などは毎回の授業で紹介する。
そのほかに、文部科学省・内閣府・厚労省などの『白書』（毎年度）及び、『月刊社会教育』国土社（毎月）、『東京２３区の社会教育』や『公民館年報』を参考にする。その他に、『異文化間教育』異文化間教育学会編、香川正弘外 2 人編　『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房、2008. 社会教育全国推進協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所。大槻宏樹　編著『21 世紀の生涯学習関係職員の展望－養成・任採用・研修の総合的研究－』多賀出版、2002.2。小林文人・佐藤一子編著『世界の社会教育施設と公民館』エイデル研究所、など。

【成績評価の方法と基準】
小テストと、グループワーク、質疑や意見交換、発表などをもって総合的に採点する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の振り返りシートでの学生の意見・感想について私からコメントを入れ、次回の授業で受講者全員にフィードバックすることに、学生たちも望むので、今年度も続けたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
講義内容の進み具合やグループワークについては、受講生の学年や人数などを考慮したしたうえ、変更する場合がある。

【Outline and objectives】
At this point in time, when lifelong education is under management, in-depth consideration of the history of lifelong education will be followed by the consideration of ways to develop the < education career > .

生涯学習入門Ⅱ

笹川　孝一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン時代のリテラシーと生涯学習・生涯学習社会について考える「学習」は良いものとして「生涯学習の時代」が語られることも多いが、「学習」に必須なコトバ、文字、多様な表現は、実体とは異なるものなので、それを無批判に扱うと、かえって認識を誤ることも多い。
そこでこの授業では、学習のパラドックスが生まれる原因である、言葉、文字、表現の矛盾に立ち入りながら、幸せに繋がる学習の仕方について、文字・記号、能力・個性論に踏み込んで解説する。そして、幸せに繋がる学習の技法について検討する。
さらに、社会教育、生涯教育、キャリアデザインの異同を踏まえ、国際化を視野に入れた生涯学習社会を展望する。

【到達目標】
1）「リテラシー」と「学力」「能力」を育む struggle としての「生涯学習」と「生涯教育」について、「社会教育」と「社会的教育」について学ぶ。
2）「生涯学習」における「学校」「公民館」「博物館」「図書館」「企業研修」等の施設の役割や「ワークショップ」などのプログラム、教材作成や他の施設との連携等について学ぶ。
3）「生涯学習」にかかわる地方自治体や国、企業や NPO などの社会的な仕組みや権利、国際協力、国連やユネスコ、EU や東アジア共同体の役割を学ぶ。
4）生涯学習に関わる法政大学の伝統を理解し、法政大学出身の生涯学習指導者としての誇りを身につける。
また、次の点についても、重視して、授業を進める。
①理論と実際、②学習内容・方法・形態、③支援と評価、④「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の連携、⑤生涯学習振興施策の立案と推進、⑥「社会教育行政」と一般行政の役割と連携、⑦地方自治体の機能や役割と生涯学習関連法規、⑧学習施設や職員、⑨多様な指導者の役割と連携について、⑩日本的特徴の形成と普遍性について、国際的ネットワークを視野に入れて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
① できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
② 学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯学習の理論と実際の歴史的な展開と到達点	伝統的な生涯学習、「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の分離、統合装置としての現代型生涯学習について、理論的展開と実践的展開の相互関連を視野に入れながら理解する。
2	人格危機の諸相と自己イメージのずれ	人は自分自身の「自己イメージ」によって、自分をコントロールしていること、「自己イメージ」と現実とのずれが、成長や心理的抑うつ状態、「不登校」「出社拒否」などの原因となっていることを理解する。
3	自己イメージの修正と生涯学習の機能～同上②	自己イメージと実際の自分とのズレの修正作業は、自分と世界についての認識を生涯にわたって再生産していく「生涯学習」の過程であること、またその中核概念としての「自己教育」「相互教育」について理解する。
4	学習のパラドックスと「学習」「学問」「学力」「能力」	「学習」は常に善とは限らず、「学習」によって人は元気にもなり、病気にもなること、「問」＝チェック抜きの「学習」は運転台のない電車のような危うさをもつこと、リテラシーと「学習のパラドックス」について理解する。
5	「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」	学問の基礎が生活・実践にあること、文字記号習得は詰め込みが基礎であること、「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」のメリット・デメリットを理解する。
6	「創造性」「コアコンピテンス」「個人・地域リテラシー」を育む学習内容と方法～同上③	一般知と経験知、一般的文字記号と経験に基づく文字記号、一般的イメージと個人化・地域化されたイメージとの突き合わせによる「学問」「知識」の創造・発展と「コアコンピテンス」「教養」形成とその機能を、とくに創造性に焦点を当てて理解する。そして、「リテラシー」の習得・活用の世界について、①「健康」をキーワードとする学習内容、②「自分史」や課題発見・解決学習、時間＝歴史学習、空間＝地理学習、時代のキーワード学習などの学習方法の各側面から考察する。
7	学習プログラム編成と学習成果・学習過程の評価および相談	①「学習欲求」「学習必要」「学習要求」と「学習必要自覚化」を重視した、個性的・特色のある学習プログラム編成の実際と、②学習成果・学習過程についての自己評価・相互評価と学習相談の実際等を理解する。
8	生涯学習における、家庭・地域・学校・企業の連携	家庭、地域、学校、企業社会の連携による、「コアコンピテンス」「教養」「ローカルな知とアートの世界」を軸とした、「家庭文化」「地域文化」「学校文化」「企業文化」の世界。その継承・発展とそのための、人の内面・外面にわたる実践過程＝ struggle の実際を理解する。
9	「教育の原理」と「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」「成人教育」の日本的特性	「学習の共有と方向付け」としての「教育の原理」と、「成人の学習・自己教育」を中核とする統合の原理としての「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」について、日本における意義・発展・特質を理解する。その際、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアを視野に入れる。
10	現代型生涯学習社会をめざす生涯学習振興政策・施策の立案と推進	現代型の生涯学習社会を目指す、新たな生涯学習振興策の政策・施策の意義と、地方自治体等の現場で施策、プログラムを立案・実施・推進することの具体的な状況について、広義の「キャリア教育」も視野に入れて理解する。
11	生涯学習に関わる法体系と地方自治体での制度と運用	国際人権規約や日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、博物館法等の現代の教育法体系について、ユネスコ学習権宣言などの国際的な動向を視野に入れて理解するとともに、地方自治体の行財政制度について理解する。
12	社会教育・生涯学習行政と生涯学習の施設の経営と連携	生涯教育は、社会のあらゆるところで行われており、文部科学省や教育委員会がそれらのジャンクションとなることを期待されていること、それらの基本構造が共通していることをラムサール条約や生物多様性条約の CEPA に即して理解する。
13	生涯学習の指導者の役割・連携・研修	社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など文科省・教育委員会管轄の職員と他の省庁が管轄する施設等の職員の役割と連携、地域において民間の立場から生涯教育をリードしている指導者たちの役割や研修等について、理解する。
14	国際社会・アジア太平洋地域での生涯学習ネットワーク	歴史的な「中華帝国世界」と「欧米列強」との衝突の中で生まれた《大日本帝国》《大東亜共栄圏》の解体後の今日、国際的な企業間競争とナショナリズム、日本とアメリカとの非対称的な関係を踏まえ、今後の太平洋・アジア地域における生涯学習を軸とする連携のための国際戦略と人材育成の方向性を、実際の事例にそくして検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・復習を行うこと
日頃より、関連事項について、新聞記事等に注目する習慣をつけること。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】
ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会

【成績評価の方法と基準】
・授業への出席・参加（15 %）
・授業への積極的な貢献度（15 %）
・随時出されるレポートの内容（15 %）
・定期試験の結果（55 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・グループワークの活用

・映像や新聞記事の活用
・テキスト内容の要約とコメントの課題は、力がつくという評価が多いので積極的に活用する
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。

【Outline and objectives】
Literacy and Competency in the Time of Career Design

生涯学習入門Ⅱ

朝岡　幸彦

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門 II) では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	戦後日本社会教育の出発①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開を学ぶ。
第 3 回	戦後日本社会教育の出発②	公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	学習運動と社会教育政策の転換①	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	学習運動と社会教育政策の転換②	自主的な学習運動の展開過程を中心に、沖縄県の動向や「公民館法」制定運動、民間社会教育ネットワークの形成などについて学ぶ。
第 6 回	高度経済成長下の住民運動と社会教育実践①	高度経済成長政策のもとでの地域社会の変容と青年・女性による教育文化運動の発展について学ぶ。
第 7 回	高度経済成長下の住民運動と社会教育実践②	地域課題と向き合う住民の学習運動を、信濃生産大学、地域開発学習、公害学習、自治公民館運動、同和教育講座などの事例を通して学ぶ。
第 8 回	「権利としての社会教育」の広がり①	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 9 回	「権利としての社会教育」の広がり②	主体性を重視する社会教育実践の広がりを、学習機会の保障、主体性を育む実践、社会問題に接近する学習、地域サークルの育成などの視点から学ぶ。
第 10 回	産業構造転換と新たな実践の展開①	急激な社会変動と教育政策の動向を踏まえて、新たな市民運動の広がりと地域教育運動について学ぶ。
第 11 回	産業構造転換と新たな実践の展開②	1980 年代の社会教育実践の展開を、生活と環境をめぐる問題への取り組み、地域づくりと文化創造の実践、公的条件整備などの視点から学ぶ。
第 12 回	生涯学習政策と社会教育運動	２１世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 13 回	構造改革と教育基本法改正	生涯学習政策と社会教育行政の再編を踏まえて、多様な社会教育実践の広がりについて学ぶ。
第 14 回	社会教育・生涯学習の未来	日本の社会教育・生涯学習の歴史と現状から、生涯学習社会における社会教育・生涯学習の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの購読。
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育　増補版』エイデル研究所　2015 年

【成績評価の方法と基準】
テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】
Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

生涯学習入門Ⅱ

文　孝淑

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、自治体や団体などで専門職員として、事業の企画、実施及び住民活動などをマネジメントする能力と、実践活動同士のつながり（ネットワークづくり）を再構築する方法を考えていくことに主眼を置く。

【到達目標】
①「発達・教育キャリア」の視点から大人の学習と実践活動のあり方、活動メンバー同士や「館」の職員との人間関係を考察する。
② 地域住民が「同質な生活者」から多様な価値観・文化・ライフスタイルを所有者へと変わりつつあること、高齢者や障害者、留学生を含む外国籍住民などに対する自治体の様々な施策やボランティア活動の現状を知ったうえ、彼らの「自立力」人生設計の「選択力」のアップ、地域での「出番」づくりを考えていく。
③ 外国籍住民向けの学習内容やボランティア活動のマンネリ化傾向を解消するための「異なる」視点からの学習内容プログラム作りを考えていく。
④ 「館」や「あるべき」姿（在り方）に縛られるのではなく、時代に相応する地域課題解決に取り組む社会教育専門職員のマネジメント能力と住民活動を考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に春学期と同じく、テーマごと講義内容で進めていく。特に、地域の生涯学習の現場で働く専門職員の立場にたって、テーマ別の講義を基にして、小グループで議論し合い、まとめて行く時間を設けていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	講義の進め方、夏休み中に参加した活動を話し合い、情報を共有し合う。
第 2 回	発達・教育キャリアと外国籍住民の学習①	住民活動、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりの重要性、ボランティア活動について取り上げる。
第 3 回	ダイバーシティ社会と地域国際化②	地域の国際化がもたらす地域社会の変容、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の意義・課題について考察。
第 4 回	異文化・異民族間交流共同学習 ③	異なる文化・能力・世代間が行う学習、実践活動のｼｽﾃﾑ、現状の考察。
第 5 回	議論し合う④	地域の国際化と外国人住民にかかわるﾄﾋﾟｯｸを取り上げ、ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに話し合う。
第 6 回	意見のまとめ	第 5 回で議論したものをまとめて提出する。
第 7 回	発達・教育キャリアと高齢社会　①	孤居や介護など高齢社会が抱えている現状を把握し、世代間を越えた実践活動を考える。
第 8 回	高齢者学習について②	社会教育における高齢者学習の取り組みとあり方について。
第 9 回	議論し合う ③	少子・高齢化にかかわるﾄﾋﾟｯｸを取り上げ、ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに話し合う。
第 10 回	意見のまとめ　④	第 9 回で話し合った内容をまとめ、提出する。
第 11 回	発達・教育キャリアと障害者　①	能力の違いによって疎外されがちな障害者の現状と社会教育の役割などを考察する。
第 12 回	障害者と実践（喫茶実践）活動　②	障害者の社会的自立を促す取り組んでいる喫茶実践を検討し、現状に合った活動の方向性を見つける。
第 13 回	議論し合う　③	障害者と実践活動にかかわるﾄﾋﾟｯｸを取り上げ、ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに話し合う。
第 14 回	ふり返りとダイバーシティ社会実現のための提案	話し合ってきた内容をまとめ、それぞれの提案をまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生たちが社会教育施設、NPO 団体などの活動「現場」を自分の目で確かめ、現状を知ることが大切だと思うため、必ず一ヶ所の実践現場に出かける。そのほかに、外国で教育を受けた経験のある学生には、現地の様子について発表してもらい、情報を共有し合えるようにする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはなく、毎回のレジュメ、資料・映像（各地で行われている取り組み、講義内容に関連のあるもの）などを使用する。

【参考書】
毎回の講義の中で参考図書・資料などを紹介していくが、主な参考図書は以下である。
「月刊社会教育」編集部　編　『月刊社会教育』国土社、毎月発行、文部科学省　編　『平成２８年度　教育白書』文部科学省／厚生労働省及び内閣府の白書を参照。　社会教育推進全国協議会　編　『新社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所。小林文人・佐藤一子　編著　『世界の社会教育施設と公民館－草の根の参加と学び』エイデル研究所。大槻宏樹　編著　『21世紀の生涯学習関係職員の展望－養成・任採用。研修の総合的研究』多賀出版、2002 年 2 月など。

【成績評価の方法と基準】
　授業後の振り返りへの積極的な意見、授業態度などの平常点と、活動現場見学・積極的な参加度、期末のレポートなどをもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　毎回の講義に対する受講生の振り返りに対しコメントを出して、次の授業で取り上げ、受講者が共有できるしていることが好評なので、今年度にも続けて行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
　とくになし。

【その他の重要事項】
　地域社会における住民の学習活動・実践活動にかかわることをお勧めする。
　受講者の学年などから、シラバスに計画した講義内容や扱うテーマの順序が変わる可能性もある。

【Outline and objectives】
Based on the individuals' lifestyle, independent or personalised learning activities will be planned and practiced. The communication network between the participants of the learning activities will be formed which will enhance the outcome of the learning activities. Furthermore, this communication network formed will help to find the no-hows to contribute to the local welfare.

図書館情報学概論 I

原田　隆史

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】
1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディア	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史，図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
3	図書館の諸機能 (1)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
4	図書館の諸機能 (2)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
5	図書館行政・図書館政策	図書館行政や図書館政策などについて説明します
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規 (図書館法，著作権法など) について簡単に解説します
7	図書館の管理・経営	図書館経営について考えるとともに，図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します。
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報リテラシー	デジタルデバイドや情報リテラシーの問題について解説します
11	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
12	情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明するとともに，それを実現する情報検索システムについても述べます
13	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
14	図書館の将来展望と課題	授業のまとめを行ないながら，図書館の将来像について考えていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。

【テキスト（教科書）】
逸村裕 (ほか) 編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】
日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」 第 3 版 (丸善) など (必須ではありませんが，専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な貢献度（出席状況を含む），クラス参加，グループ作業の成果等) 0～10%
単に教室にいるだけでは成績評価に反映させませんがクラスに積極的に参加した場合には加点いたします。逆に教室にきても寝たり別の授業のことをしているなどの場合には大幅に減点します。
提出物・レポート 40%
現時点ではレポートを課す予定ですが，レポートを実施しない可能性もあります。その場合，期末試験 100%とします。
期末試験 50～60%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
寝ている場合や，授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は，退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】
Basic knowledge on library and information science

図書館情報学概論 I

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】
　図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。
　市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。
　授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム（HULiC）を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループデスカッションなども取り入れる。
　毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズやメディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	図書館の歴史 ①	（古代～中世）
11	図書館の歴史 ②	（近世～現代）
12	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。

【テキスト（教科書）】
塩見昇　編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】
高山正也、岸田和明　編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認アンケートクイズ（30 %）、図書館ガイダンスのレポート（20 %）、筆記試験（50 %）によって総合的に評価する。
　全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】
本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。
　最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】
As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

図書館情報学概論 Ⅱ

原田　隆史

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術 (図書館システム，Web ページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術 (データベース管理システム，デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し，取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に，どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館をとりまく多様な情報環境，各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず，コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後，図書館システムやデータベース管理システム，WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML，CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版，電子書籍	電子書籍について学ぶとともに，さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに，セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。

【テキスト（教科書）】
杉本重雄編著. 図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3). 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035

【参考書】
特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点　　0〜10%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。
レポート　40%
レポートを課す予定ですが，レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 100% とします。
期末試験　50～60%

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【その他の重要事項】
寝ている場合や，授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は，退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】
1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹　一信

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能　―ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについえ（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルＤＢなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。

【テキスト（教科書）】
日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】
自動書庫やＩＣタグを使った管理システムについては、授業時に動画を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %　レポート課題 20%　期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。
授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館情報学概論 Ⅱ

菅原　真悟

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。
1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの構成要素。
第 4 回	計算機の歴史	コンピュータの歴史。
第 5 回	ウェブ OPAC とデジタルアーカイブ	ウェブ OPAC を用いた演習。デジタルアーカイブの理論と実際。データベースの仕組み。
第 6 回	インターネット	インターネット発展の歴史。インターネットで使われている基本的技術（TCP/IP 等）を学び、演習を行う。
第 7 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 8 回	図書館と ICT	コンピュータ研究の現在と未来。図書館における ICT 活用の将来。人工知能、リーディング・スキル。
第 9 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組みを学び、演習を行う。
第 10 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 11 回	電子図書館 (2)	タブレットを用いた演習。
第 12 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 13 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 14 回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。セキュリティに関する法律。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】
講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む）　30%
課題（授業中に課題を数回出す予定）　40%
期末レポート　30%
課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
演習時間を増やしたいと考えています。また、授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
1. Computer and network
2. Technology related to libraries

3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

図書館情報学概論Ⅱ

丹　一信

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能　―ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについえ（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルＤＢなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。

【テキスト（教科書）】
日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】
自動書庫やＩＣタグを使った管理システムについては、授業時に動画を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %　レポート課題 20%　期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。
授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館サービス概論

丹　一信

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】
図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。
単に講義だけではなく、図書館サービスおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。
将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義にはテキストを使用します。
ただし適宜グループディスカッションを行い、複数回の小レポートや課題などを授業時に課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業について 図書館サービスとは	授業の概要、進め方 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互貸借と図書館ネットワーク ・広域利用制度 について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・ 閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題 を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、実例をもとに考えます。
第 10 回	図書館サービスと市民・利用者	・市民・利用者との協働 ・図書館における接遇の問題 ・問題利用者 ・利用者コミュニケーション ・パスファインダー を中心に学びます
第 11 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 12 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 13 回	多文化サービス	多文化サービスとは何か、その実践例をもとに学習します。

第 14 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。
身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。

【テキスト（教科書）】
『図書館サービス概論』　小黒浩司著　ミネルヴァ書房　2018　本体 2,800 円＋税
ISBN ： 9784623083961

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（15 %）　小課題レポート（30 %）　期末レポートと発表（55 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン（授業に関連するインターネット検索、小課題レポートや期末レポートの作成・提出などに使用）
Hulic

【Outline and objectives】
In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

情報サービス演習

田中　順子

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館において、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスと情報検索サービス能力を習得する。

【到達目標】
図書館における情報サービスの中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスにおける実践的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を育成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスの設計	情報サービスの設計
2	情報源	レファレンスサービスのための情報源
3	レファレンス・コレクション	レファレンスコレクションの整備
4	レファレンス・プロセス	レファレンスサービスのプロセスについて
5	レファレンス・インタビュー	レファレンスインタビュー実践
6	文字や言語検索	情報検索実践（文字や言語を調べる）
7	文字や言語検索評価	調査結果の評価
8	事柄や事象検索	情報検索実践（事柄や事象を調べる）
9	事柄や事象検索評価	調査結果の評価
10	歴史や日時検索	情報検索実践（歴史や日時に関する情報を調べる）
11	歴史や日時検索評価	調査結果の評価
12	地理や地名検索	情報検索実践（地理に関する情報や地名について調べる）
13	地理や地名検索評価	調査結果の評価
14	人物や団体検索	情報検索実践（人物や団体について調べる）
15	人物や団体検索評価	調査結果の評価
16	文学や歴史検索	情報検索実践（文学や歴史について調べる）
17	文学や歴史検索評価	調査結果の評価
18	物語や小説検索	情報検索実践（物語や小説について調べる）
19	物語や小説検索評価	調査結果の評価
20	事象や風習検索	情報検索実践（事象や風習について調べる）
21	事象や風習評価	調査結果の評価
22	文学や風習検索	情報検索実践（文学や風習について調べる）
23	文学や風習検索評価	調査結果の評価
24	海外の作品に関する文献検索	情報検索実践 (海外の作品についてを調べる）
25	海外の作品に関する文献検索評価	調査結果の評価
26	レファレンス・ツール検索	情報検索実践（レファレンスツールを調べる）
27	レファレンス・ツール検索評価	調査結果の評価
28	発信型情報サービス	発信型情報サービスの構築（パスファインダーの作成を含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で課題を調査する。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要な資料を提示

【参考書】
井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
隔週で、文献を調査する課題を出し、授業内に発表してもらいます。
この課題提出と発表に対する評価が成績の 8 割。
出席をして他者の発表を聞くことも大事なので、出席を成績評価の 2 割とします。

【学生の意見等からの気づき】
課題調査に時間がかかるので、出題分量を調整。

【Outline and objectives】
Students do the practice which responds to the question of library users. They go to a library to look for a necessary document to respond to the question. They look for more than one document certainly. After that a group announcement is done and a document is estimated.
They also learn how to show them and explain to a library user.

情報サービス演習

奥泉　和久

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、パスファインダーの作成などをとおして、情報発信型サービスについても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの設計	授業内容と進め方について/情報サービスの態勢づくり
2	情報サービスの基本（1）	OPAC 検索の基礎と応用
3	情報サービスの基本（2）	情報検索の基礎
4	情報サービスの基本（3）	コンピュータ検索の技術
5	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
6	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用
7	情報資源の探し方（3）	インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	医学文献の探し方
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック解題・評価
13	情報検索基礎演習（6）	データベース解題・評価
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき・統計」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	レファレンス事例の作成・評価
26	情報発信型サービスの実際 (1)	パスファインダーの解説・作成
27	情報発信型サービスの実際 (2)	パスファインダーの改訂・発表
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	プログラムの計画・作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、授業が軌道に乗るまで、講義形式の授業を併行して行いますが、ほとんどが演習です。配布資料を参考に復習をしたり、事前に提示する課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が多いのですが、それによって実践への対応力を身につけることができます。そうしたことが理解できるよう取り組んでいきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

情報サービス演習

菅原　真悟

単位：4 **単位** ｜ 開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。
1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。図書館の情報サービスについて調査し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	カレント・アウェアネス	カレント・アウェアネス。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 情報サービスの現状	図書館の情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	CMS 演習 (5)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内演習への参加　30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表　30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
発信型情報サービスについての理解を深めるために、CMS 演習の時間を増やします。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
.Purpose and Goal
1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

小黒　浩司

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】
図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の類型	『日本目録規則　1987 年版改訂 3 版』の類型に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。
第 13 回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献などを、授業中に配布するプリントに掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・平常点（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】
Learn the outline of characteristics by type and subject for various library information resources.

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート　1
7	メディアの発展史②（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命 (2) 印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート　2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %)、（2）2回の小レポート（30 %)、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn pattern of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes.　In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート　1
7	メディアの発展史②（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命 (2) 印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート　2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %)、（2）2回の小レポート（30 %)、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn pattern of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes.　In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

図書館情報資源特論

小黒　浩司

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】
図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に配布するプリントに掲載している情報源などを活用して復習を行い、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深める。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・平常点（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】
Learn about information resources and thematic information which we did not deal with library information resource overview.

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform the field work (students choose one special library as their own fields) and the interview to the librarians as a pair or group in order to compare and evaluates several special libraries and find out current situations and issues of the special libraries. As a part of requirement, students will make presentations, lead discussions, and show problems with which special libraries were confronted as well as the ways of solving the problems.

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform the field work (students choose one special library as their own fields) and the interview to the librarians as a pair or group in order to compare and evaluates several special libraries and find out current situations and issues of the special libraries. As a part of requirement, students will make presentations, lead discussions, and show problems with which special libraries were confronted as well as the ways of solving the problems.

図書館演習

坂本　旬

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】
(1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
(2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
(3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	コア・モジュール 7 情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題をする。

【テキスト（教科書）】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』(日本語版・英語版)
右のサイトからダウンロードできる。http://amilec.org/

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政大出版局

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの仕方や自発的な発表の仕方をしっかりと教えたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業用コンピュータを使用する。

【その他の重要事項】
少人数制演習のため、受講希望者数が多い場合は抽選を行うことがある。

【Outline and objectives】
To study theory of the media and Information literacy of UNESCO
To explore the situation of "fake news" and hate speech on social media in the world
To investigate fact check the news as reference or school librarians

図書館演習

村上　郷子

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】
春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央立図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。
秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル

26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。
秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。
授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HuliC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 %＋秋学期 20 %＝合計 35 %）
（2）個人の課題・アンケート＋個人の覆面調査など（25 %）
（3）課題研究に関する報告書＋学期末レポート（40 %）
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】
In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding in public libraries by conducting research investigation by groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentation together in order to compare and evaluates public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

図書館演習

丹　一信

単位：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては「図書館情報学概論Ⅰ」「図書館情報学概論Ⅱ」を前年度までに修得しておくことが極めて望ましい科目です。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 図書館の調査等を行い、図書館を取り巻く環境や、図書館の現状について、総合的に学びます。
2. パスファインダーなどの作成を通じて、情報リテラシーの向上を目指します。
3. 情報検索のスキルの向上を目指します。
4. 専門図書館・データベース提供事業者の事業やサービスについて深く学びます。
5. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定三級合格レベルとすることです。また実用的なパスファインダーを完成させます。
秋学期は、都内や近県の専門図書館を中心に調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について理解を深めます。また図書館の経営評価を実際に行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーの作成を行います。
秋学期は、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス 人数超過の場合は、選考を行います。
第 2 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 3 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報；一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 4 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索；ネットワーク情報資源の種類
第 5 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 6 回	図書館サービスの実践 1	情報収集と図書館サービスの実践　1 専門的な情報提供サービスに触れる
第 7 回	図書館サービスの実践 2	情報収集と図書館サービスの実践　2 データベース提供事業者との関連について
第 8 回	図書館サービスの実践 3	情報収集と図書館サービスの実践　3 利用者の属性やマーケット分析を基にしたサービス
第 9 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 10 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 11 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表② 手に取ってもらうためのデザイン
第 12 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表③ 情報資源の種類と特徴
第 13 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表④ ネットワーク情報資源の特徴
第 14 回	パスファインダー 夏季課題について	パス・ファインダーの製作と発表⑤ 夏季課題への取り組み方について
第 15 回	秋学期ガイダンス レポート論文の書き方	秋学期授業ガイダンス及びレポート論文の書き方について学びます。

第 16 回	事例研究１	特色あるサービスを行っている図書館の事例を記事を参考に議論・検証します（国内の図書館）
第 17 回	事例研究２	特色あるサービスを行っている図書館の事例を記事を参考に議論・検証します（海外の図書館）
第 18 回	事例研究３	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 19 回	専門図書館について１	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 20 回	専門図書館について２	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 21 回	専門図書館について３	実地調査の準備
第 22 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ デジタルアーキビスト などの情報専門職について学びます。
第 23 回	図書館の評価方法１	図書館の経営評価
第 24 回	図書館の評価方法２	評価方法の一つである ISO 図書館パフォーマンス指標について学びます。
第 25 回	図書館調査	任意選択した図書館への調査を行うための準備
第 26 回	図書館調査	実地調査について
第 27 回	図書館調査	調査結果をまとめる
第 28 回	発表	課題についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また第 21 回「図書館総合展」2019 年 11 月 12 日 (火) - 2019 年 11 月 14 日 (木)（パシフィコ横浜）への見学（課題）などが必須となります。
授業時間外の学習活動（主に見学）が重要となります。
また検索技術者検定 3 級受験を推奨します。
平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2018, ix, 144pp.

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが必須です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
初回授業時には必ず出席のこと。→ 履修者許可者の選抜を行います。初回授業に不参加の場合は、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We conduct surveys of libraries etc and learn comprehensively about the current state of the library.
2. We will aim for improvement of information literacy through creation of path finder and others.
3. We aim to improve the skill of information retrieval.
4. Learn deeply about the business and services of specialized libraries / database providers.
5. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

図書館演習

田村　貴紀

単位：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業/Yearly**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究

【到達目標】
現代社会における公共図書館の働きをフィールドワークを通して理解する。また、パスファインダーや図書館ウェブサイトの作成など発信型情報サービスについて学び、演習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
地域の公共図書館の情報を集めるとともに、フィールドワーク調査を通じて図書館の評価を行う。パスファインダー、図書館ウェブサイトの作成を実習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
第 2 回	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システムの使い方を解説する
第 3 回	現代公共図書館の機能と実際１	現代公共図書館の機能についての解説
第 4 回	現代公共図書館の機能と実際２	現代公共図書館の実例と検討
第 5 回	現代公共図書館の機能と実際３	現代公共図書館の実例と検討
第 6 回	現代公共図書館の管理運営	指定管理者制度をめぐる論点の紹介
第 7 回	指定者管理制度論１	指定者管理制度についての議論をとりあげて紹介する
第 8 回	指定者管理制度論２	都内図書館を取り上げて検討する
第 9 回	図書館と自由１	図書館と自由に関する文献購読
第 10 回	図書館と自由２	図書館と自由に関する文献購読
第 11 回	事例研究―海外図書館の事例―	海外図書館の先進的な事例について学ぶ
第 12 回	事例研究―国内図書館の事例―１	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 13 回	事例研究―国内図書館の事例―２	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 14 回	事例研究―国内図書館の事例―３	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 15 回	事例研究―国内図書館の事例―４	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ。春学期演習のまとめ。
第 16 回	春学期の振り返り	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
第 17 回	パスファインダー概論	発信型情報サービスとしてのパスファインダーについて学ぶ
第 18 回	パスファインダー作成１	レファレンスサービスの一環としてのパスファインダーの作成方法を学ぶ
第 19 回	パスファインダー作成２	課題解決援助としてのパスファインダー作成方法を学ぶ
第 20 回	パスファインダー作成３	パスファインダー作成を通して論理的思考能力を身につける
第 21 回	図書館の調査計画１	都内公共図書館の調査方法の検討（調査企画書作成）
第 22 回	図書館の調査計画２	都内公共図書館の調査方法の検討（図書館調査計画の報告と共有）
第 23 回	レポートの書き方：ロジックとスタイル	図書館評価レポートに備えてレポート書き方とスタイルについて講義する
第 24 回	図書館調査１	フィールドワーク
第 25 回	図書館調査２	フィールドワーク
第 26 回	図書館調査３	フィールドワーク
第 27 回	報告書制作１	報告書制作
第 28 回	報告書制作２	報告書制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、図書館調査のフィールドワークを行うため、授業外での活動が求められる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %　提出物　70 %

【学生の意見等からの気づき】
授業を通じて論理的思考能力とアカデミック・ライティングの基礎が身につくようにします。

【その他の重要事項】
総合的演習のため、できるだけ他の司書課程科目を履修後に履修することが望ましい。
少人数制ゼミのため、受講希望者数が多い場合は抽選を行う。
履修人数によって授業のスケジュールを若干変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
Exploration of new library images in contemporary society

読書と豊かな人間性

高橋　恵美子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育についてねらい、発達段階、方法について学校図書館ができることに即して考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】
まずは読書教育そのものをどう考えるかにとりくみ、学校図書館が行うべき活動と意義を自分なりにまとめる。学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
子どもの読書、読書教育への関心が高まっている。現時点では読書教育の理念、方法論は確立しているとは言いがたい。ねらいとは何か、発達段階をどう考えるか、方法は、など、既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1 回はゲスト講師による実演を味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	読書と豊かな人間性とは 本を知ろう（発表）	最近の動き 読書教育、どうとらえるか
2	子どもの読書をめぐる状況 本を知ろう（発表）	子どもの読書に関する法律など
3	文部科学省の施策 本を知ろう（発表）	OECD 学習到達度調査 文部科学省　読解力向上プログラム
4	読書教育を考える１　日本では 本を知ろう（発表）	朝の読書 読書感想文コンクール
5	読書教育を考える２　ねらい 本を知ろう（発表）	文献比較、日米比較
6	読書教育を考える３　発達段階 本を知ろう（発表）	発達段階の例 どう考えるか？
7	読書教育を考える４　方法 本を知ろう（発表）	日米の違い フィンランド・メソッド
8	ゲスト講師　読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク	実演
9	本の面白さを伝えるために１ 本を知ろう（発表）	読み聞かせ
10	本の面白さを伝えるために２ 本を知ろう（発表）	ブックトーク
11	本の面白さを伝えるために３ 本を知ろう（発表）	ブックトークプランのつくり方
12	本の面白さを伝えるために４ 本を知ろう（発表）	フランスのアニマシオン
13	子どもに読書をすすめること	さまざまなメディアと読書
14	子どもの読書に関わる政策、動きなど	文部科学省の動向など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「本を知ろう」の発表、及び 3 回目の課題「ブックトークプランの作成」では、絵本や児童文学を扱う。公共図書館の子どもセクションに行くことをすすめたい。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『読み聞かせ　この素晴らしい世界』　ジム・トレリース　亀井よし子訳　高文研 1987

『鍛えよう！ 読むチカラ　学校図書館で育てる 25 の方法』　桑田てるみ監修　「読むチカラ」プロジェクト　明治書院　2012
『読書と豊かな人間性　新版』　朝比奈代作　米谷茂則　放送大学教育振興会　2015

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「本を知ろう」、レポート課題など。平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %　課題（「本を知ろう」の発表、提出レポート①子どものときに出会った本、②読書教育を考える、③ブックトークプランの作成、の 3 回）：60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。
しかし、司書教諭資格を必要としない学生も受講できる。

【Outline and objectives】
Reading is the basic of learning.　Students learn the knowledge of reading education and various books.　They also learn the skill of introducing books and sharing the pleasure of reading.

情報メディアの活用

村上　郷子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法－ 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その１）、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その２）、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その３）広報誌の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
- 井上真琴著『図書館に訊け!』、筑摩書房、2004（ちくま新書）
- 山本 順一・二村健監修、緑川信之編集『学校図書館メディアの構成』、最新版、学文社
- 五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語―図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】
課題（40 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30 %）、個人のプロジェクト作品（30 %）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身についているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】
授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】
Students will understand the characteristics of media and information resources in school library and acquire basic skills and knowledges of media and information literacy that necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR newsletters and videos.

情報メディアの活用

坂本　旬

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】
(1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
(2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
(3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
(4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程用授業支援システム (HULiC) を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014 年

【参考書】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』
右のサイトからダウンロードできます。http://amilec.org/

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】
積極的に授業にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
授業用コンピュータ (資格課程準備室備品を使用する)

【その他の重要事項】
授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】
To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians
To produce digital storytelling video about books and reading life

社会教育演習

笹川　孝一

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自分史」を書き、自分自身に関する知識を創りだす。そして、自分史学習が人間の司令塔としての「コアコンピテンス」=人格機能を豊かにする方法であることについて考察する。
自分自身を軸に世界をとらえ直す方法と、世界を軸に自分自身をとらえ直す方法と、この両者を重ね合わせるところで、他の物事や人々との関係性を含む、「自分」を知ることができる。
そして、自分を知らなければ、いくら努力しても、自己形成やキャリアデザインはうまくいかない。
自分自身に関する知識は、どんなにお金があっても手に入らない。それは、自分自身の手で作り出す必要がある。
そこで、この授業では、「自分を軸に社会を捉え直し、自分自身に関する知識を豊かにする方法としての自分史」を実際に駆使して、自分史を書く。そして、あらためて自分史学習に関しての認識を深め、他の人々の自分史学習支援やカウンセリング、コンサルテーションの能力を高める。

【到達目標】
1)　1 年間かけて、演習（ゼミ）参加者が、それぞれの「自分史（自己形成史・生活史）」を書く。
2)　自分史を書くことを通して、自分自身について振りかえる。
3)　自分が育った家庭、地域、時代、そこで出会った人々、影響を受けた文化・生活スタイルとの関係で、自分をとらえる。
4)　演習参加者（ゼミ生）によるグループ作業によって、自分史作成における相互支援を学ぶ。
5)　「自分史・生活史・自己形成史」と「就職のための自己分析」との移動などを検討し、「自己・社会把握の方法」についての認識を深める。
6)　中間まとめの集中授業、パーティー実習、レポート集作成、グループワーク実施等によって、地域や職場、ＮＧＯ等におけるファシリテーターとしての能力を高める。
7)　レポート集と 1 年間のまとめについての映像ＤＶＤを作成し、編集能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1)　この授業のテーマにかかわって、授業の節目節目において、教員が必要な講義を行い、学生とディスカッションして、全体の日程、進行方法などを決める。
2)　学生は、グループワーク、調査活動等によって、実際に自分史を書きながら、必要な文献の検討を行う。
3)　夏の集中授業で中間まとめを行い、秋学期の作業に弾みをつける。
4)　レポート集とＤＶＤ作成を行って、自分たちの足跡を作品化する。
5)　演習（ゼミ）運営のために係り分担を行い、みんなで協力し合い、カバーしあって、授業運営の主人公になる。
6)　卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の「ライフヒストリーを語る」研究会等に参加するとともに、この授業のイベントに卒業生を招き、視野を広げ交流を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要と進め方について	授業の内容と進め方をを説明し、受講希望者と協議する。
2	講義と事例研究①「私の知識は私が創る」～「自分史」を書く意味について～	現代社会で生きる上で、自分史を書くことが、私自身を認識するうえで不可欠であることを学ぶ。社会教育演習で「自分史」を書いた先輩たちの話を聞く。
3	グループワークと発表①	講義①の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
4	講義②「自分史の書き方」～年代によって書き方が異なる「自分史」～	自分史は、年代等によって書き方が異なることを学ぶ。
5	グループワーク②	講義②の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
6	講義③「自分史」の認識・心理過程	自分史を書くことによって、どのような認識力・意志・実行力がつくのか、「自己肯定感」「コンピテンス」に焦点を当てて学ぶ。
7	グループワーク③	講義③の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
8	講義④「自分史」と「就職のための自己分析」との比較検討	「自分史」と「就職のための自己分析」との共通点と相違点について検討し、「自己分析」の発展方向を考える。
9	グループワーク④	講義④の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
10	講義⑤自分史の歴史とその背景、および諸外国の動向	日本における「自分史」の歴史とその背景を、俳句・川柳、短歌・狂歌、生活記録などとの関係を含む庶民の自己表現として、また「自伝」との関係において、考える。また、近年アメリカ・カナダなどで取り組まれ始めている”Guided Autobiography” との比較検討も行う。
11	グループワーク⑤	講義⑤の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
12	中間まとめ準備とパーティ実習準備	以上の作業を通じて考えたこと、感じたことについて議論し、中間まとめに向けた「レポート集①」準備をし、作成する。また、社会教育主事・地域学習支援士等に必須なイベント企画と実行、ファシリテーションの技術を習得するためにパーティー実習の企画を練る。
13	自分史を語る①	「5 つの質問」への答えを基礎に、自分史を語る。グループを作り、グループ内で行う。
14	自分史を語る②	自分史を語る作業を続ける。同時に、そこから、夏休みにインタビュー等によって調べる課題と計画をを明らかにする。 また、夏の集中授業の準備をする。
15	春学期のまとめと夏の課題、秋学期授業計画	夏の課題の振り返りと、秋学期の授業計画について、検討する。
16	夏の課題の成果報告①	各自の夏の調査結果を持ち寄り発表する。
17	夏の課題の成果報告②	夏の調査結果の発表を継続する。
18	夏の課題成果についての討論①	発表を踏まえて討論する。
19	夏の課題成果についての討論②	上記の作業の続き
20	「自分史」を書き進む①	「自分史」を具体的に書き進め、進捗状況を報告し合う。
21	「自分史」を書き進める②～年表の作成～	上記の作業を継続する。特に、年表の作成状況を報告し合う。
22	「自分史」を書き進める③～インタビューの補強～	上記の作業を継続する。とくに、インタビューの補強状況について報告し合う。 この時期に、自分史の具体的な書き方について、教員とゼミ生との個別面談を行い、意見交換と添削等を行う。
23	「自分史」を書き加え発表し合う①～私の自立と親の期待	書き加えた自分史をそれぞれ検討し、親の期待とその効果・逆効果について議論する。
24	「自分史」を書き加え発表し合う②（私の自立と「親離れ・子離れ」）	上記の作業を進める。とくに親離れ、子離れについて検討する。また、レポート集②パーティー実習②の進捗状況を確認する。
25	「自分史」を書き加え発表し合う③（私の自立と大学での勉学と進路選択）	上記の作業を進める。とくに、大学での勉学と進路選択について検討する。また、レポート集②パーティー実習②について、振り返りを行う。
26	「自分史」を書き加え発表し合う④（友情と恋愛、結婚イメージ）	上記の作業の続き。特に、友情と恋愛、結婚イメージについて検討する。この時期に、2 回目の個人面談と添削を行う。
27	「自分史」の発表およびレポート集作成	あらためて、全体会でそれぞれの自分史のアウトライン、発見したこと、課題について発表する。並行してレポート集を作る。
28	レポート集についての合評	レポート集についての合評会を行う。また、修了式の準備をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート集作成。夏季集中授業 1 回、パーティー実習と修了式（2 月第 1 週の火曜日を予定）等。

【テキスト（教科書）】
笹川「コア・コンピテンスを豊かにする『自分史』学習について」（『資格課程年報』第 1 号、法政大学資格課程、2012 年 3 月）
笹川「自分史・生活史・自己形成史と『就職のための自己分析』についての研究ノート」（同上第 2 号、2013 年 3 月）

【参考書】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）

集中授業、レポート集作成、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業はハードだが、きちんと参加し、貢献している場合には、学生の満足度が高いことが確認された。

【学生が準備すべき機器他】
ワード、パワーポイント、エクセル／プロジェクター操作／デジタルカメラ、ビデオカメラ／ DVD 編集ソフト／ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】
☆「自分史」を書きたい人、就職活動における「自己分析」に関心のある人、「『自己肯定感が薄い』ので何とかしたい」と思っている人には、役に立つはず。
☆社会教育主事の資格認定授業でもあるので、実際に書くこと、調べること、まとめること、意見交換すること、協力し合うこと、イベントを企画・実施・振り返ること、成果物=作品を作り上げること、を重視する。
☆学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。学生側の積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】
Making Autobiography and Thinking on Meaning of Autobiography Learning

現代社会と社会教育Ⅰ

笹川　孝一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における「エゴイズム」と表現・自己表現
～自己肯定感を育む生涯学習社会を考える～
ego とはラテン語で「私」という意味で、「エゴイズム」とは私を軸にして他の人々との関係を作ること、自分だけでなく、全ての人の「私」を認めながら、「私たち」「社会」を作り出していくことである。
この「エゴイズム」の実現のためには、自己対話と他の人々との意思疎通のために、様々な自己表現を行い、他の人々と具体的な相互理解と協力を行うこと、そして、そのための技を磨くことが大切である。
現代人には「私を軸に社会を捉えること」と「社会を軸に私を捉えること」との両方が必要だが、「エゴイズム」を肯定できない雰囲気が日本や東アジア社会にあるために、自己肯定ができず、自分を社会的に展開することが苦手な人が多い。
この授業では、「エゴイズム」についての自分たちのイメージの共有を出発点としながら、歴史的・地理的なことがら、現代社会のさまざまなできごとについての理解を深めつつ、私を肯定して社会的に展開するための人々の歩みと、そのための自己表現のスキル、生涯学習社会の在り方について学ぶ。
これらを通して、他者と共に生きる主体としての豊かな自己形成を図る。

【到達目標】
現代社会の諸課題（倫理，社会，文化，政策など）を取り上げて，現代社会における、人間としての在り方生き方について学ぶ。
1) 私たちの表現活動の基礎に、私＝ ego・私たちの生活上の欲望、欲求、要求などの「自己主張」があることを学ぶ。
2)「エゴイズムは悪いこと」として自己主張が抑圧されがちであることと、それを変える努力について、日本や東アジアの実際に即して、歴史的背景と現状を学ぶ。
3) エゴイズムを基礎としながら私・私たちを社会的に展開するための「表現」と「学力」について、自分自身に即しながら考える。また、西欧や日本の先人から、倫理的な諸価値や音楽、絵画、小説、舞踊などのアートの変革について学ぶ。、
4) 以上を踏まえて、リテラシーの世界の広がりとその技法について、学校改革をふくめた生涯学習社会について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
必要な事項を教員が講義し、学生が討論し発表し、教員と意見交換する方法で授業を進める。
必要に応じて、小レポートを書く。
受講生が多い場合には、講義形式になることがある。
それについては、受講生と相談して決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、進め方、ルール等について説明し、合意形成を図る。
2	講義①「エゴイズム」は悪か?	「私」を意味するラテン語である「エゴ」を踏まえたエゴイズムは、「自分の体をくぐらせて物事を認識する」上での基本であるが、日本や「東洋」ではそれが「悪いこと」「自分勝手」として抑圧されてきた。そのことによる、自己肯定感の弱さ、について検討する。
3	グループワークと発表討論①	一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
4	グループワークと発表討論②	グループの発表を行い、一人一人の感想をまとめる。
5	講義②エゴイズムを確立するための人々の努力	近代ヨーロッパや日本で、エゴイズムを確立するために努力したデカルト、福澤諭吉、夏目漱石、ピカソなどの人々から学ぶ。
6	グループワークと発表討論③	講義②を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
7	グループワークと発表討論④	グループごとに発表し、意見交換する。
8	講義③エゴイズムを抑圧してきた「分を守る」社会の伝統	江戸時代における「分を守る」社会政策、教育政策について、『ヨーロッパ文化と日本文化』『女大学』などに即して解説をする。
9	グループワークと発表討論⑤	講義③を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
10	グループワークと発表討論⑥	グループごとに発表し、意見交換する。

11	講義④私と人々、社会をつなぐ表現様式と、現代の学力、生涯学習社会。	ニューミュージック、J-Pop や自分史学習などに即して、自分と人々、社会をつなぐ表現方法や学力、リテラシー、コンピテンシーについて考える。
12	グループワークと発表討論⑦	講義に基づくグループワークを行う。一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
13	グループワークと発表討論⑧	グループ発表と一人一人の感想のまとめ
14	振り返りとまとめ	テストと成績評価について説明するとともに、授業の振り返りと、一人一人の認識変化について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分自身の日常生活に即して、身体、言語、アート、モノづくりなど多様な表現方法について振り返りの習慣を身に着けるよう、心がけること。
・授業内容を把握するために、テキストや授業中に配布される資料を読み込むこと。
・受講生が多い場合には、講義形式にならざるを得ないので、その場合には、グループワークに替えて、小レポートを課す。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
とくに、第Ⅱ部「リテラシー、コンピテンシー、生涯学習」

【参考書】
授業中に適宜紹介する。また、必要な資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
・授業への出席・参加（30 %）
・授業への積極的貢献（10 %）
・随時出されるレポートの内容（10 %）
・定期試験の結果（50 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
市場経済社会に生きる人はすべて、「私」を意識し「エゴイズム」を基盤に置きながら生きている。それにもかかわらず、日本や「東洋」の歴史の特質によって、「エゴイズム」=悪、と思い込まされている傾向が強くある。その結果、自分の個人的な表現の世界と、普遍性の世界が分裂して、自己肯定感が弱くなっている傾向がある。このことを基礎にして、現代社会における、生涯学習、キャリアデザイン、社会的教育を再構築し、その中で、表現と学問運用能力としての「学力」についてとらえ直すよう、内容を精査した。
2016 年度の授業は、「常識」を覆す内容が多く「目から鱗」だったと、評価が高かった。今年度も、緊張感のある、知的刺激の多い授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】
この授業は、笹川が担当する「発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）」における該当部分の中級編なので、発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）を受講してあることが望ましい。
また、関連授業として「社会教育演習」（火曜 4 限）が設定してある。

【Outline and objectives】
Meaning of "ego-ism" and self-expression in the contemporary society

現代社会と社会教育Ⅰ

文　孝淑

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生には多様性を認め合う社会を目指している今だからこそ、生涯学習活動を「異文化・異民族間＜共同交流学習＞の一環としてとらえ、生涯学習の「あるべき姿」や大義名分を掲げる実践活動から顕在している人間同士のコンフリクトを克服し、地域活動の関わり方を考えていく。
それを踏まえ、とりわけダイバーシティ社会における現場の専門職員の講座づくりや住民の実践活動のマネジメントについて考えていく。

【到達目標】
学生一人一人が生涯学習社会の枠組みの中での「異なる」者同士が「共生」していく地域社会づくりの意義を再認識するとともに、＜異文化・異民族「共同交流学習」＞を通して、人間関係の再構築と地域創造へ道標を示す。また、定住・永住者の外国籍住民の受け入れ施策や受け皿について検証を行い、新たな生涯学習・実践活動の提示する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
年齢や性別、障害の有無、国籍といった垣根を越えネットワークの拡がりの中での人間関係のコンフリクトを克服する道標を考えるために、講義とフィールワークの見学および映像などを通じて現状を把握し、意見を出し合い、受講者同士で共有できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義についてのオリエンテーション	講義の進み方の説明とアンケート作成。
第 2 回	地域国際化について（変遷と現状）	アンケートの回答のフィードバック、外国人住民をめぐる法制度や実践の取り組みなどの変遷について。
第 3 回	ダイバーシティ社会と生涯学習	外国人住民の生活・子育てのｻﾎﾟｰﾄ活動と、日本語学習ｻﾎﾟｰﾄ活動について。
第 4 回	各自のテーマと課題提出	各自がテーマを決め、資料集めや現地調査などを行う。
第 5 回	実践・事例検討	外国人住民の学習を支援するﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟの活動実態と課題について
第 6 回	大学が促す国際化	大学と留学生を中心に、地域住民とのかかわり方、支援ｼｽﾃﾑなどを分析する。
第 7 回	発表課題を決める	外国人住民や留学生などの支援活動の検討したうえ、各自の発表課題を決める。
第 8 回	事例検討 ①	外国籍住民に関連するﾄﾋﾟｯｸを取り上げ、それに沿った事例を紹介し、議論する。
第 9 回	事例検討 ②	外国人住民の生活様子を共有するための事例（資料や映像、インタビューなどを取り上げ、検討する。
第 10 回	決めたテーマについてまとめ、発表①	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 11 回	決めたテーマについてまとめ、発表②	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 12 回	決めたテーマについてまとめ、発表③	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 13 回	まとめと発表	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 14 回	ふり返りとダイバーシティ社会への提案	発表した内容をまとめと、ダイバーシティ社会実現に向け、これから生涯学習が果たす役割についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生自身が、外国籍住民や外国人児童・生徒の教育関連の活動の現場を訪ね、異文化・異民族交流活動の現状をについて考えていくようにする。そのためにも、積極的に学校外での国際交流・支援活動に関わることを促していく。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを持たずに毎回、テーマに沿ったレジュメと、講義内容に関わる参考資料配付、自治体の様々な活動や外国人関連内容の資料、映像などを使う。

【参考書】
講義中の参考文献を紹介するが、主な参考図書には以下のものがある。

「月刊社会教育」編集部編『月刊社会教育』国土社、毎月発行。異文化間教育学会編『異文化間教育』アカデイア出版、毎年発行。各自治体の外国人住民施策の報告書。21 世紀研究会　編『常識の世界地図』文春新書、2005。フェリス女子学院大学編『異文化の交流と共生』2004。駒井洋・渡戸一浪編『自治体の外国人政策―内なる国際化への取り組み』明石書店、1997。
日本社会教育編『多文化・民族共生社会と生涯学習』（第 39 集）東洋館出版社、1995。坂井俊樹編著『国際理解と教育実践 ― アジア・内なる国際化・教室－』エムティ出版、1992。日本社会教育学会編『国際識字 10 年と日本の識字問題』（第 35 集）東洋館出版社、1991 など。

【成績評価の方法と基準】
毎回の提出する振り返りシートを媒介にし、質疑応答、意見交換への積極的な参加や発表、期末のレポートををもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が作成するふり返りシートを通じて学生と十分な意見交換ができるように、次の週の授業で振り返りシートに書かれた質問や意見、感想などにコメントを入れて、共有できるようにしていることが好評を得ている。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
受講者の人数や講義の進み具合によっては「授業計画」の変更があり得る。学期中に日本語教室や外国籍住民の活動の現場に出かける。

【Outline and objectives】
The concept of < intercultural exchange between foreigners > will be defined and discussed by the students, with the use of the following keywords; < race > , < discrimination > and < diversity > .
This will be followed by organizing practicable learning programs which will be based on the examination of the local's necessity to educate and create awareness, foreign residents' lifestyle, support of their children, < colloquial language > and < academic language > and the achievements and problems of supporting.

現代社会と社会教育Ⅱ

笹川　孝一

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習社会とグローバリゼーション
～アジア・太平洋学習権共同体を考える～
グローバリゼーションの中で生きる私たちは、一人ひとりの私＝ ego であるが、私は人々とのつながり、社会の中で展開して、初めてリアルな私になることができる。
「21 世紀はアジア・太平洋の時代」と言われているが、この地域では、生活文化の広い交流基盤と近隣諸国間での摩擦の歴史があり、プラスを生かしマイナスをプラスにしていくためには、人と人が触れ合う交流・理解・協力とそのための生涯学習の役割が大きい。
この授業では、世界や日本の歴史的・地理的なことがら、現代社会の諸事象について扱う。ユネスコが提唱する「学習権」を軸として、①それぞれの国の内部、②いわゆる先進国と発展途上国、③先進国同士、発展途上国同士、④ユネスコなどの国際機関の 4 分野における、交流と協力の現状と今後について学ぶ。
そして、社会的なことがらについて、自分の生活体験を踏まえながら、客観的で公正な見方や考え方と人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める。
以上をふまえて、東アジア・太平洋人として生きていく人々に必要な教養と、それを育む生涯学習社会について考える。

【到達目標】
日本やアジア、世界の形成について、歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。
1）グローバリゼーションの中でのアジア・太平洋の時代について学ぶ。
2) 生涯学習社会の生活基盤である、アジア・太平洋地域における生活文化の相互交流についての視野を養う。
3）この地域における摩擦と和解の歴史を知る。
4)「学習権」についての理解を深め、この地域での生涯学習とその交流の現状と課題を知る。
5)「アジア・太平洋人」として生きていく意欲と誇り、能力について理解し、「東アジア＝太平洋学習権共同体」を展望する。
6) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1） 教員が必要な講義を行う。
2）その際、必要な文献を配布するとともに、映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
3) グループワークを可能な限り取り入れるが、受講生の人数が多い場合には、講義が中心になることもある。
4) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する
2	講義①グローバリゼーションと「アジア・太平洋の時代」と生涯学習社会	現在進行中の「グローバリゼーション」について、北米、西欧、アジアを視野に入れながら解説する。そして、アジアが進んでいた農業革命の時代から、アジアがヨーロッパに従属した工業革命の時代を経て登場した「アジア・太平洋の時代」とそこにおける生涯学習の現状について、GNP、QOL、GNH を視野に入れて理解する。
3	グループワーク①	一人ひとりの経験を踏まえて、「グローバリゼーション」「国際化」「アジア・太平洋地域」認識を出し合い、整理する。
4	グループワークの発表①	全体で発表し、討議し、「アジア人として生きる誇り」の基礎を作る。
5	講義②東アジアにおける生活文化交流と摩擦の歴を考える。	水とリテラシーを軸とした東アジア地域の生活文化交流と「中華帝国」「アメリカ帝国」等による摩擦の歴史と現状を考える。
6	グループワーク②	文化交流と摩擦について、衣食住、音楽・絵画、言葉や文字、植民地統治の功罪などを視野に入れながら一人一人の経験や認識を出し合う。

7	グループワークの発表②	全体発表と討議によって、「東アジア・太平洋人」の誇りについて、認識を深める。
8	講義③ユネスコが提唱する学習権とそれを軸とした交流・協力活動を考える。	ユネスコの「学習権宣言」を学ぶとともに、実際の交流活動、協力活動を知る。
9	グループワーク③	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
10	グループワークの発表と討議③	全体発表と討議によって、アジア・太平洋学習権共同体をイメージする。
11	講義④アジア・太平洋人に求められる教養と学校を含む生涯学習社会。	オープンマインド、好奇心、知る努力、企画・実行力、言語能力などについて考える。
12	グループワーク④	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
13	発表と討議④	全体発表と討議によって、「私にできるアジア人の生き方と生涯学習社会」を考える。
14	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、テストの内容と形式の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活の中で、「グローバリゼーション」「国際化」「EU」「アメリカの変化」「アジア」「太平洋」関係のニュースや記事に注目する。
可能であれば、「アジア」「太平洋」地域の国へ行って、生活様式や言葉、音楽などの違いや共通点を感じ取る。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局　2014 年　第Ⅲ部第 3 章

【参考書】
山住正己編『教育と文化をつなぐ』国土社　2001 年
月刊社会教育編集部編『日本で暮らす外国人の学習権』国土社　1993 年
小林文人・伊藤長和・黄宗建編『韓国の生涯学習・社会教育』エイデル研究所　2004 年
日本社会教育学会編『国際識字の十年と日本の識字問題』　東洋館出版社　1991 年
同編『民族共生・多文化社会と生涯学習』　東洋館出版社　1995 年

【成績評価の方法と基準】
・授業への出席・参加（30 %）
・授業への積極的貢献（10 %）
・随時出されるレポートの内容（10 %）
・定期試験の結果（50 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・グループワークの活用
・映像や新聞記事の活用
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフト　オフィス

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
・これを具体化するために、次のことを心がけてほしい。
a. いま世界で何が起きているかという想像力を働かせること。
b. 解らないことがあれば、その場で質問すること。
c. グループワークで、自分の疑問、アイディア、意見を出しながらながら、他の人の疑問、アイディア、意見にも耳を傾け、少数意見を排除せずに、全体をまとめるよう、心がけること。
d. 必要なことを調べ、よく準備してプレゼンテーションを行うこと。

【Outline and objectives】
Lifelong Learning and Globalization

現代社会と社会教育Ⅱ

文　孝淑

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が生涯学習の主体者の多様性を認識し、＜異文化・異民族間「共同交流学習」論＞を軸に、今日求められている生涯学習の内容と実践活動を考察する。
そのうえで、①　現場で見られる地域住民によるボランティア活動のマンネリ化の改善と多様な学習者のニーズに応えられる生涯学習プログラム作りをする。
②　異なる文化背景・民族の所有者たちの地域生活上の自立と地域「参画」を促すためのボランティアと職員のマネジメントの方法を探し出していく。

【到達目標】
①　学生が、授業を通して、ダイバーシティ社会における専門職員の事業や講座プログラムづくりなどのマネジメント能力を向上させていくようにする。
②　外国人住民の生活・育児・働く環境、外国人児童・生徒への施策と教育現状にみられる自治体行政施策の格差をはじめ、外国人住民の「自立」に欠かせない第２言語としての日本語教室とそれに携わっているボランティアの新たなあり方を見つけ出す。
③　年齢や性別、障害の有無、国籍といった垣根を越えネットワークの拡がりをみせているダイバーシティ社会に向けて、従来の実践活動の省察と併せて、異なる文化背景・民族の所有者たちの地域生活上の自立と地域「参画」を促すためのボランティアと職員のマネジメントの方法を探し出していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義前半には、ダイバーシティ社会に向けて様々な取り組みをしている自治体の事例を取り上げて考察する。例えば、外国人住民に対する施策の変遷、社会教育活動の歴史を概説、日本語教室を軸にしながら外国人住民を取り巻く厳しい現状を把握するための事例－日本人住民による生活ｻﾎﾟｰﾄ活動、外国人児童・生徒の学習支援活動などの社会教育実践活動－を取り上げ、取り組みなどを話し合っていく。
講義後半にはｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、社会教育専門職員の視点に立ったﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑづくりの作業をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	夏休み中に参加した活動や授業の進み方について説明する。
第 2 回	地方自治体における外国人住民の現状	地域社会の国際化がもたらす地域社会の変貌と、外国人住民施策の変遷と動向を概説する。
第 3 回	外国人住民と生涯学習活動	地域社会の社会教育施設・地域住民活動の蓄積を検討しつつ、外国人住民が地域づくりにもたらす役割を考える。また実践現場の見学を行う。
第 4 回	実践検討①	社会教育と外国人住民の学習・実践活動実態の概説と姜尚中著『在日』を用いて在日 1 世の生活記録を読みあい活社会教育の場で取り組みを考える。
第 5 回	実践検討②-日本語教室	地域行政と住民が協働で行われている日本語教室の活動を中心に、現場で取り組んでいる外国人住民及び外国人児童・生徒の教育支援システムと支援活動を考察する。
第 6 回	実践検討③-ボランティアの役割	外国人住民の自立を手助けすべく日本人ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を検討、従来の活動を見直し、新たな活動のあり方を考える。
第 7 回	実践検討④-外国人住民自立	外国人住民の自立へ向けての取り組みを見学し、受講者同士の意見を出し合い、異文化・異民族の人々が住みやすい生活環境をつくるためには行政側が果す役割、住民側の活動ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾈｯﾄﾜｰｸ作りの方法などを考える。
第 8 回	専門職員のマネジメントはかるプログラムづくりについて	専門職（司書や学芸員、主事）の立場に立ってﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ編成をしてみる趣旨と、地域の外国人住民のﾘｰﾀﾞｰを育てる必要性について説明をする。
第 9 回	グループ分けとテーマ設定	ｸﾞﾙｰﾌﾟ分けの後、ﾒﾝﾊﾞｰ同士の自己紹介と、今後ダイバーシティ社会におけるプログラム作りのためのテーマを決める。
第 10 回	プログラムづくり①グループ分けと下調べ	日本人住民との協働でつくる地域づくりに向けてのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作り作業を行う。

第 11 回	プログラムづくり② 実践対象の決定と内容決定	意見交換をしながらと日本人住民が協働でつくる地域づくりに向けてのプログラムづくり作り作業を行う。
第 12 回	プログラムづくり③ 意見交換のまとめ、プログラム作成	プログラムづくりに必要な事項、内容編成などを整理していく。
第 13 回	ダイバーシティ社会実現に向けての提言①ー グループ別の発表と質疑	第 12 回でまとめたプログラムづくりを発表、質疑応答を行う。
第 14 回	ダイバーシティ社会実現に向けての提言②ー グループ別の発表と質疑②	第 12 回でまとめたプログラムづくりを発表、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地元の社会教育実践状況を知ると共に、外国人関連の事業・学習会に見学に行き、外国人住民たちとふれ合う機会を積極的に持つようにする。

【テキスト（教科書）】
毎回の講義レジュメ、各地域で行われている教育活動、外国人施策や外国人の生活様子や外国人をサポートするボランティアの取り組みなどの事例、記事、映像を使用する。

【参考書】
毎回の講義内容に沿った参考図書と資料の紹介をする。
その他に、阿部勤也著『日本でいきるということ』、姜尚中著『在日』『オモニ・母へ』及び小熊英二・姜尚中編著『在日 1 世の記憶』集英社／朴鐘碩・上野千鶴子『日本における多文化共生とは何か』新曜社／「月刊社会教育」編集部　編　『月刊社会教育』国土社、毎月発行を参考になれる。そのほかには、坂井俊樹編著『国際理解と教育実践―アジア・内なる国際化・教室－』エムティ出版、1992　異文化間教育学会編『異文化間教育』（第 1 ～24 集）アカデイア出版　日本社会教育学会編『国際識字 10 年と日本の識字問題』（第 35 集）東洋館出版社、1991 などがある。

【成績評価の方法と基準】
授業中や振り返りシートを通じて質疑応答をはじめ、実践現場の見学・傍聴とその感想の提出及び期末試験をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の振り返りシートに書かれている質問や意見、感想に対して、私からコメントを入れ、次週の授業で配布し、全員で共有しあえるようにしていることが好評なので、今年度も続けていこうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
「授業計画」や「授業方法」においては受講者の学年や人数により、講義内容や順序にに変更がある。

【Outline and objectives】
At this point in time, when lifelong education is under management, in-depth consideration of the history of lifelong education will be followed by the consideration of ways to develop the < education career > .
Based on the individuals' lifestyle, independent or personalised learning activities will be planned and practiced. The communication network between the participants of the learning activities will be formed which will enhance the outcome of the learning activities. Furthermore, this communication network formed will help to find the no-hows to contribute to the local welfare.

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木　美貴

単位：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：
この授業では、水辺のある暮らしや環境とそれにかかわる地域づくり、その中での社会教育について、身近な事例に即して学ぶ。
対象：
具体的には、私たちが学ぶ市ヶ谷キャンパスがある、千代田区を中心とした水辺のある暮らしや環境を対象とする。例えば、外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園や後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等である。
方法：
①その中の 1-2 か所の現地へ行き、どのような場所か、どのように利用し保全されているのかを、調査する。
②また、現地にかかわる区役所や NGO などの組織について調べ、それらが行っている現地にかかわる活動等について学ぶ。
③さらに、日本各地で行われている水辺のある暮らしや環境にかかわる事例について、参考として学ぶ。
目標：
以上をふまえて、水辺のある暮らしや環境にかかわる法政大学の学生を対象とした社会教育プログラムを作り、発表し、評価し合う。

【到達目標】
次の 4 点について理解を深めることが、この授業の到達目標である。
①千代田区を中心とする水辺の暮らしや環境についての歴史と現状と解決すべき課題。
②課題を解決するための人々の取り組み。
③その際に役立てられている技や知識や知恵。
④それらと関係する社会教育実践や地域づくりのプログラム。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1）教員がテーマにそった講義を行う。調査の方法や視点についても講義する。必要な資料は配布する。関係する画像・映像を見る。
2) 千代田区にある外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園、後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等の現地に行き、観察する。
3) 区役所や NGO などが行っている現地での活動や計画などについて調べる。
4）観察や調査した内容についてグループワークを行う。
5) 水辺のある暮らしや環境にかかわる社会教育プログラムを作る。
6) 作ったプログラムを発表し、評価し合う。
7）具体的な進め方については、受講生と相談しながら決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	いろいろな「水辺のある暮らしや環境」（その１）～水辺のある暮らしや環境のイメージの共有	①授業の内容、進め方、成績評価基準、テーマなど、この授業について説明する。 ②みんなで水辺のある暮らしと環境のイメージを出し合って、共有する。
第 2 回	いろいろな水辺のある暮らしや環境（その２）～分類と定義を学ぶ～	①第 1 回に出し合った水辺のある暮らしや環境のイメージを振り返り、さまざまなタイプの水辺を分類してみる。 ②定義と分類の参考のために、ラムサール条約の第 1 条や分類法を使う。
第 3 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 1	①千代田区にある外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園、後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等の水辺の環境の歴史や現状について、資料や写真・映像を使って紹介する。 ②その際、前回のラムサール条約の定義や分類にそくして、紹介する。
第 4 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 2	①玉川上水などの江戸時代の水道について、新宿区立歴史博物館もしくは東京都水道歴史館へ行き、学ぶ。 ②気づいたことや興味を持ったことなどについて、川柳や俳句、短歌を 3 点作り、それに関連した写真を撮る。
第 5 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 3	①第 4 回で作った川柳や俳句、短歌、撮影した写真をグループワークで、報告し合う。 ②みんなが関心を持ったことなどについて、分類する。 ③調べたい水辺のある暮らしや環境について、話し合う。

第 6 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 1	①第 5 回で話し合った水辺を調べるための準備をする。 ②具体的には、現地調査の視点や方法について、説明する。 ③さらに、「湿地の文化と技術」の調査項目などを参考にして、グループワークで話し合って、調査シートを作成する。
第 7 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 2	①第 5 回で決めた水辺について現地調査する。 ②その際、第 6 回で作成した調査シートを使い、写真なども撮る。
第 8 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 3	①現地調査の結果をまとめ、グループワークで報告し合う。 ②その際、良いと思ったこと、課題だと思ったことを出し合う。良い点を伸ばす取り組み、課題の解決策についても考える。
第 9 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 1	①全国各地の水辺のある暮らしや環境で行われている、発展のための取り組みを説明する。 ②具体的には、習志野市のユースプログラム、鶴岡市のいのち学、新潟市の潟環境研究所、豊岡市のコウノトリとの共生のための取り組みについて、映像も使って説明する。
第 10 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 2	①第 9 回の発展のための取り組みを参考にして、第 7 回で調べた水辺の発展方向を考える。 ②図書館や博物館での資料調査、区役所や関係する NGO などへのヒアリング調査を行う。
第 11 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 3	①第 10 回で調べた結果を模造紙等にまとめる。 ②まとめた結果を、みんなに報告する。
第 12 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 1	①これまでの授業をふまえて、現地調査を行った水辺の発展方向につながる、法政大学の学生を対象とした社会教育プログラムを作る。 ②その際に、社会教育プログラムを作るために必要な事項、事前準備、手順などについて、学ぶ。 ③社会教育プログラムの構想を練り、グループワークで構想を発表し、学生同士でアドバイスをする。
第 13 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 2	①前回のアドバイスをふまえて、社会教育プログラムを作る。 ②模造紙などに社会教育プログラムをまとめ、報告の準備をする。
第 14 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 3	①前回作成した法政大学の学生を対象とした、千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを報告する。 ②また、報告を聞いて、互いに評価し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出身地や現在住んでいる近くの水辺のある暮らしや環境と自分との関わりについて考えておくこと。千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境で、興味がある場所を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合　2012 年　授業内で配布

【参考書】
日本湿地学会編『図説　日本の湿地』朝倉書店　2017 年、笹川孝一他編『湿地の文化と技術　東アジア編』日本国際湿地保全連合　2015 年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50%）と報告する社会教育プログラム（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝える。水辺のある暮らしや環境について身近に感じられるよう、現地を訪問し、不足の部分は映像を使う。また、学生の多様な視点を交流するため、グループワークを使った授業を行う。

【Outline and objectives】
Theme:
In this lesson, we learn about the environment of the waterside and the community involved in it, social education in it, according to familiar cases.
Target:
Specifically, we target the waterside environment centered on Chiyoda Ward, where there is an Ichigaya campus we learn. For example, the outer moat, the inner moat and daimyo gardens.
Method:
① Go to the one or two places in it and examine what kind of place, how it is used and preserved.
② In addition, we examine the organization such as the ward office and NGOs involved in the field, and learn about the local activities and the like that they are doing.
③ In addition, learn as a reference about the case related to the environment of the waterside being done in various places in Japan.
Goal:
Based on the above, we will make a social education program related to the environment of the waterfront, announce it and evaluate it.

博物館概論

金山　喜昭

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化施設として「ミュージアムとは何か」について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】
将来博物館や美術館などに関連する仕事を志す者に対しては博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。他方、文化・教育関連、地域や NPO の仕事でも活躍できる知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法と関連法令などを取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館学の目的・方法・構成	授業ガイダンスに加えて、博物館ならびに学問としての博物館学について概説する。
第 2 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する。
第 3 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	海外の博物館の現状	英国をはじめ、海外の博物館・美術館の最新状況について説明する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	博物館現地調査	東京および関東近郊の博物館にて、その業務について学芸員から解説指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館はキャンパスメンバーであるために常設展は無料で見学できるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】
金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）
金山 喜昭『公立博物館をＮＰＯに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）
金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
出席 (授業数の 70 %以上）を前提として、学期末試験（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山　喜昭

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムの経営の現状とその課題や改善について具体的に検討する。

【到達目標】
将来、ミュージアム（博物館や美術館などの文化施設）に関連する仕事を志す者が、ミュージアムの適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館や美術館の形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。特に、適切な管理・経営を遂行するミュージアムについて事例を学ぶとともに、実際のミュージアムの経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館・民間博物館）	公立博物館及び民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館の使命・社会的役割	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 5 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 6 回	博物館の計画・評価　Ⅰ	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 7 回	博物館の計画・評価　Ⅱ	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 8 回	博物館のコミュニケーション活動	内外の博物館における広報戦略、広告宣伝・マーケティング活動について、ミュージアム・グッズの開発・販売の事例を交えながら、解説する。
第 9 回	博物館における連携・ネットワークⅠ	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 10 回	博物館における連携・ネットワークⅡ	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 11 回	博物館経営調査（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 12 回	博物館経営調査の実際Ⅰ（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 13 回	博物館経営調査の実際Ⅱ（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 14 回	本授業の総括と試験	本授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携』（同成社、2012）

【参考書】
金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
出席 (授業数の 70 %以上）を前提として、グループ調査の成果（30 %）、学期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長　敬治

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館経営についての基本知識を学習します。基本知識の習得後、学生は、日本の博物館の経営の現状と課題について学習し、経営上の課題を解決するためのスキルについて学びます。

【到達目標】
日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い, 博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、講義内容を踏まえて、自身が選択した博物館について、フィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）などにより経営分析を行い、その成果をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念、博物館の業種特性を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性について学習する。
2	博物館の経営資源について	博物館の主要な経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）について学習する。
3	博物館の経営資源から見た日本の博物館の特徴と課題	博物館の経営資源に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこと）を把握し、博物館の課題を考える。
4	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館のミッションがどのように設定されているかについて学習する。また、ミッションを達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
5	博物館の経営戦略について－マーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の経営戦略について－広報戦略・ブランド戦略	博物館の経営戦略のうち、広報戦略・ブランド戦略について学習する。
7	博物館の経営戦略について－連携・協力、支援組織	経営資源を豊かにする上で、連携・協力は極めて重要である。連携・協力の現状と課題について学習する。また、博物館の支援組織（友の会・後援会、ボランティア）について学習する。
8	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
9	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
10	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。主要国の代表的な博物館との比較を行い、各国の博物館経営の特徴について理解する。

11	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度とその導入事例、国の公立博物館に関する政策の動向について学習する。
12	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に出向くことが必須になります。また、参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいますので、積極的に読んでください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回プリントを配付します。

【参考書】
①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/ に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他－授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析です。対象として取り上げる博物館について、調査 (現地調査を含む。)・分析をしてもらい、その成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。いただいた質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。授業毎に必ずアクセスをしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目です。学芸員資格の取得を目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席表のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】
Students will learn basic knowledge about museum management. After mastering basic knowledge, students learn about the current state of management and tasks of Japanese museums and learn about the skills to solve management problems.

博物館資料論

田中　裕二

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】
博物館を、「資料」という観点から理解することを目ざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通した教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には、配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料（直接資料）について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料（関節資料）について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した事例を各自が調べて発表する等の課題が適宜出されます。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】
授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当のためまだデータ無し。

【Outline and objectives】
Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

荒川　裕子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ミュージアム教育をめぐる基本的な理論を理解したうえで、歴史博物館や美術館など、それぞれのミュージアムの持つ資料や特性を生かして、どのような教育プログラムが実践されているのかを概観します。併せて、受講生自身が、ミュージアム教育のための講座やワークショップの立案を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第 2 回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第 3 回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第 4 回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第 5 回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第 6 回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第 7 回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第 8 回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第 9 回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について具体的に学ぶ。
第 10 回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第 11 回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 12 回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 13 回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（ディスカッションへの参加や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called 'museum education' from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.

博物館教育論

山下　治子

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】
①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 自然史系博物館での学び②
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】
雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート（30%）＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

図書館制度・経営論

森　智彦

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。
利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域に相応した図書館像を考えたい。
図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、ＰＦＩ、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】
・公立図書館の運営について説明ができる。
・ＰＦＩ、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で簡単な課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第２回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第３回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第４回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第５回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第６回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第７回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第８回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第９回	ＰＲとマーケティング	ＰＲとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	確認と試験（レポート）	確認と試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
柳与志夫著.『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学４）　学文社, 2018

【参考書】
糸賀雅児、薬袋秀樹編.『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ２）樹村房, 2013
その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題（30 %）、期末試験またはレポート（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義にならないように、学生の意見を取り入れ、レジュメに工夫をしたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, I will explain the laws of the library and discuss the process of library management mainly from the basic design of public libraries.

In order to achieve the desired service to the user, it is necessary to carefully plan from the basic design point before opening the library. Derive indicators of library services from library statistics, consider the characteristics of users to serve, consider the library image corresponding to the area.

I will also touch on issues such as financial management of the library and personnel management, and consider the influence of PFI, designated manager system and introduction of private vitalization on future library management.

児童サービス論

田中　順子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストの読み込み。
児童図書コーナーのリサーチ。

【テキスト（教科書）】
植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房　2014

【参考書】
笠原良郎編『楽しい読み聞かせ　学校図書館入門シリーズ３』全国学校図書館協議会
『図書館をつくる　教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、発表と課題の提出、学期末のレポート。

【学生の意見等からの気づき】
現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】
The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class,
students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

情報サービス論

田中　順子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストを読んでくる。

【テキスト（教科書）】
山崎久道監修『情報サービス論』樹村房

【参考書】
井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、発表と課題調査、学期末のレポート。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】
In this class, students learn how to support library users and history of library service. Students visit a library actually to research it. They learn about service necessary to library users and how to offer that service.

情報資源組織論

丹　一信

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。
これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深める。

【到達目標】
図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などを PC 画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事柄を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・情報資源組織化の意義・記憶メディアの進歩	オリエンテーション 記憶メディアの進歩
2	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
3	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
4	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
5	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
6	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
7	件名とシソーラス	基本件名標目標を中心に、シソーラスについても学ぶ
8	書誌情報の作成と流通	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
9	MARC, 書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティーの役割と MARC について
10	OPAC　Web OPAC	OPAC の進化の歴史について
11	書誌情報の提供（OPAC その運用）	実際の図書館業務における OPAC の運用方法を中心に学ぶ
12	ネットワーク情報資源の組織化	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
13	メタデータ	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する
14	多様な情報資源の組織化	多種多様な情報資源の組織化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
公共図書館や大学図書館をよく利用し，OPAC や排架について馴染んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
田窪直規 編著 ; 岸田和明, 小林康隆, 時実象一, 山崎久道, 渡邊隆弘 著. 情報資源組織論. 改訂. 樹村房, 2016.3. 201p ; ISBN 978-4-88367-259-2 :

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
レポート (15 %)、平常点（15 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
・実際の実務を念頭においた授業を展開する。
・図書館関連業種への就職を考えている学生への情報提供も行う。

【学生が準備すべき機器他】
時々 PC を使用

【その他の重要事項】
なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせてほしい。

【Outline and objectives】
This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.
In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.
The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

情報資源組織演習

丹　一信

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行ないます。
図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。
また情報資源組織論の授業と連動しています。

【到達目標】
多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規,BSH, 日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定。
尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また、「情報資源組織論 (資料組織論)」と併せて履修するのが望ましいです。
人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。**必ず第一回目の授業は出席してください。四年生や通教生を優先します。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 書誌記述法	オリエンテーションが中心
2	単行資料の書誌記述１ タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ１ タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述２ 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ２ 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述３ 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ３ 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実際について
6	各種資料の記述　（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実際について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習１	MARC を用いた組織業務について（JAPAN　MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習２	MARC を用いた組織業務の実際
10	主題分析（要約主題と網羅的主題）	主題の分析の仕方
11	件名作業 （基本件名標目表を用いて）	基本件名標目表を用いての作業
12	件名作業 （基本件名標目表を用いて）	件名の付与、標目表の使い方、分類記号からの付与の仕方
13	日本十進分類法による分類作業	NDC による分類
14	分類記号付与の実際１	形式区分について
15	分類記号付与の実際２	地理区分・海洋区分について
16	分類記号付与の実際３	言語区分について
17	分類記号付与の実際４	言語共通区分・文学共通区分
18	分類記号付与の実際５	分類規程に基づいて付与する
19	分類記号付与の実際６	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
20	分類記号付与の実際７	分類・件名総合演習１ 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
21	分類記号付与の実際８	分類・件名総合演習２ 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習

22	ネットワーク情報資源について　メタデータ作成の実際	メタデータの作成作業
23	メタデータ作成の実際２	メタデータ作成作業２
24	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築２	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
26	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
27	NACSIS-CAT その実際	NACSIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
28	JAPAN MARC	JAPAN MARC を中心とした演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を随時出します。また復習が必要です。

【テキスト（教科書）】
和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】
(1) 蟹瀬 智弘. やさしく詳しい NACSIS-CAT. , 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.

【成績評価の方法と基準】
授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。
演習課題　30%　　期末試験　70%
授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
ポイントを絞った授業進行にします。
また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。

【学生が準備すべき機器他】
PC を利用します
また授業では、Hulic を使用します。http://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
実践的な演習をめざします。
PC については、私物のものでも構いません。
PC の操作になれておいてください。
教科書は必須です。
毎回、課題が課されます。
「実務経験のある教員による授業」に該当：目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法を中心に授業を行います。
初回授業時に履修者の抽選を行います。必ず初回授業には出席してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents.
It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian.
It is also linked with lesson of information resource organization theory.

情報資源組織演習

村上　郷子

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報資源組織論 (資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】
書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習 (資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習 (資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）　タイトルと責任表示等	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述 （Unit7・8）　形態・シリーズ、注記、標準番号	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①　（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②　（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）通則および記述	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）記述及び所蔵事項	記述及び所蔵事項
9	各種資料の記述（Unit11・12）	録音資料、映像資料、地図資料、電子資料、他
10	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
11	コンピュータ目録（Unit17・18） MARC フォーマット（Unit19・20） NACSIS-CAT（Unit21）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、 NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
13	メタデータ（Unit24-26）	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ、メタデータの記述規則、流通
14	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
15	主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か NDC の構成、形式区分
16	日本十進法による分類作業 （Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教 (1 類)
19	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
20	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
21	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
22	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術 (4・5 類)
23	技術・産業（Unit41）	技術・産業 (5・6 類)
24	人文科学④　芸術（Unit42）	芸術（7 類）
25	言語・文学（Unit43）	言語・文学　（8・9 類）
26	文学・総記（Unit43・44）	文学・総記 (9・0 類)
27	図書記号・別置記号の付与（Unit45・46）・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習

28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】
木原 通夫 [ほか]　著 『情報資源組織法―資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会　編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・毎回の宿題・小テスト（50 %）、春学期試験（25 %）、秋学期試験（25 %）によって総合的に評価する。出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生は司書資格課程のポータルサイトから、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】
Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

情報資源組織演習

鈴木　祐滋

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では図書館司書の基本的かつ重要な仕事である情報資源組織の手法について学びます。目録データの記述・登録・排列、メタデータ作成、主題分析・件名標目付与、資料分類等の演習を通じて、情報資源組織化のスキル獲得を目的としています。

【到達目標】
受講学生が、図書館資料の目録データの記述・登録・排列、流用入力、Web コンテンツのメタデータ作成、資料の主題分析および、それに基づく件名標目付与・資料分類に関する手法を理解し、実践できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日本目録規則、基本件名標目表、日本十進分類法を使って、目録データの記述・排列、件名標目付与、及び資料分類の演習を行います。この他、メタデータ作成法、図書記号付与、地域資料の分類についても学びます。演習に使用するツール数に制限があるため、定員は最大 20 名です。希望者多数の場合は、上級生を優先とし、最後は抽選となります。抽選以降、履修決定者以外は出席できません。予めご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報資源組織演習の概要	情報資源組織の概説および、使用するツールの紹介。演習の進め方や年間スケジュール等の説明。
2	目録規則の解説	目録情報の記述ルールである目録規則の概説。特に日本目録規則（NCR）を中心に解説。
3	書誌の階層レベル	書誌階層の概要説明および、階層レベル理解のための演習。
4	単行資料の記述	単行資料の目録データ作成方法の解説と演習。
5	録音資料、映像資料の記述	録音資料、映像資料の目録データ作成方法の解説と演習。
6	地図、継続資料の記述	地図資料、継続資料の目録データ作成方法の解説と演習。
7	電子資料の記述	物理的形態を持つ電子資料の目録データ作成方法の解説と演習。
8	標目の概要	標目の役割・意義についての解説と標目付与演習。
9	標目および典拠ファイル	タイトル標目、著者標目、件名標目、分類標目および、典拠ファイルに関する解説と演習。
10	目録データの排列規則	目録データ排列規則の解説と排列の演習。
11	データベースを用いたコンピュータ目録作成（書誌データ登録）	目録データベースへの各種資料の書誌データ登録演習。(グループワーク含む)
12	コンピュータ目録の流用入力による作成方法	書誌ユーティリティを利用した流用入力による目録データ登録方法の解説、演習。(グループワーク含む)
13	メタデータ付与	メタデータの解説、メタデータ付与事例紹介および、メタデータ付与演習。
14	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）
15	主題分析	要約主題、網羅的主題の解説・演習。自然語と統制語の解説。統制語である件名標目と分類記号の概説。
16	基本件名標目表による件名作業（1）	基本件名標目表の解説と件名標目付与の演習。
17	基本件名標目表による件名作業（2）	件名標目付与の演習。
18	日本十進分類法（使用方法および一般補助表）	日本十進分類法の使用方法解説及び一般補助表の説明。一般補助表を用いた分類記号作成演習。
19	日本十進分類法（固有補助表）	固有補助表の解説と使用法の演習。
20	分類規程	分類規程の解説と規程に基づく分類の演習。
21	社会科学分野の資料分類	3 類「社会科学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。

22	自然科学、技術・工学分野の資料分類	4 類「自然科学」、5 類「技術・工学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
23	産業分野、総記の資料分類	6 類「産業」分野、0 類「総記」の資料分類の解説と分類記号付与演習。
24	言語・文学分野の資料分類	8 類「言語」、9 類「文学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
25	総合演習（資料分類）	各類の資料分類演習。
26	図書記号	受入順記号法、年代記号法、著者記号法についての解説と演習。
27	地域資料	地域資料の解説。地域資料に独自分類を使用している公共図書館の事例紹介。地域資料の分類演習。
28	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 11 回の演習で行った方法で、Hulic 上のデータベースへの書誌データ登録演習（夏季休暇中の課題）を行う。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織演習 (新訂版)』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-10 巻) 和中幹雄ほか著、日本図書館協会発行、2016 年 3 月刊、1900 円（税別）、ISBN: 978-4-8204-1515-2

【参考書】
関連の資料は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（演習状況および宿題)50%、到達度レベル確認演習問題（春学期・秋学期の合計得点）50%によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ポイントをまとめたレジメは好評だったため、本年度も配布予定です。

【学生が準備すべき機器他】
HULIC 上のデータベースへのデータ登録演習を行う予定です。アカウントの取得方法は授業の中で連絡します。

【その他の重要事項】
大学図書館司書、企業図書館・情報調査部門マネジメント等の経験も踏まえ、図書館情報学の理論と図書館/情報調査の実情を合わせて解説。

【Outline and objectives】
This course introduces the methods of information resources organization that is a basic, important librarian's work. The aim of this course is to help students acquire the skills of the information resources organization
(e.g. the bibliographic data description, registration, array, the metadata making, the subject analysis, the subject heading addition, and the classification of library materials).

情報資源組織演習

菅原　真悟

単位：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】
(1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等のスキルを身につける。
(2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し，実際にデータベースを構築する。
(3)XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。
秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法（NDC）の構造
第 3 回	分類作業の実際 (1)	日本十進分類法を用いた演習（主題分析）
第 4 回	分類作業の実際 (2)	日本十進分類法を用いた演習（補助表）
第 5 回	分類作業の実際 (3)	日本十進分類法を用いた演習（０～２類）
第 6 回	分類作業の実際 (4)	日本十進分類法を用いた演習（３・４類）
第 7 回	分類作業の実際 (5)	日本十進分類法を用いた演習（５～７類）
第 8 回	分類作業の実際 (6)	日本十進分類法を用いた演習（８・９類）
第 9 回	件名作業の実際 (1)	基本件名標目表 (BSH) の概要
第 10 回	件名作業の実際 (2)	基本件名標目表 (BSH) を用いた演習
第 11 回	目録法	書誌コントロールと図書館目録
第 12 回	目録作成の実際 (1)	日本目録規則 (NCR) の構成
第 13 回	目録作成の実際 (2)	日本目録規則 (NCR) を用いた演習
第 14 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録, NACSIS-CAT，NII の教育研究・事業
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の授業内容について
第 16 回	NACSIS-CAT 演習 (1)	NACSIS-CAT の概要
第 17 回	NACSIS-CAT 演習 (2)	NACSIS-CAT による目録作業
第 18 回	データベース (1)	データベースの仕組み。リレーショナルデータベース
第 19 回	データベース (2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ (1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ (2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ (3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習 (1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習 (2)	書誌データベースの構築（Enju）
第 25 回	図書館システム演習 (3)	書誌データベースの構築（DC-NDL(RDF) を利用）
第 26 回	図書館システム演習 (4)	書誌データベースの構築（目録作成）
第 27 回	図書館システム演習 (5)	書誌データベースの構築（件名作業・分類作業）
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で行った演習内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題提出状況をふまえて総合的に評価する。
授業内演習への参加（50%）
小課題（数回出す予定です）・夏季課題の提出（30%）
最終課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】
図書館システムを使った演習時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(http://lc.i.hosei.ac.jp/) を使います。
資格課程のノート PC（Windows/Linux）を用いて演習を行います。

【その他の重要事項】
演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
We learn about
NDC: Nippon Decimal Classification
BSH: Basic Subject Headings
NCR: Nippon Cataloging Rules

学校図書館メディアの構成

高橋　恵美子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。
学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】
学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	アメリカのメディア・センターなど
2	学校図書館メディアの授業での活用１	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの授業での活用２	複数のメディアを活用した授業事例を考える
4	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
5	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
6	学校図書館メディアの選択１	考慮するポイント
7	学校図書館メディアの選択２	収集方針等
8	学校図書館メディアの選択３	予算、組織、方法等
9	分類１	分類の意義、種類　分類演習１
10	分類２	NDC のしくみと応用　分類演習２
11	目録１	目録の意義、種類、NCR　目録演習１
12	目録２	記述と記述を構成する書誌的事項　目録演習２
13	目録３　図書館レイアウト等	件名目録　目録演習３　図書館レイアウト等
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等　まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ学校図書館に実際に行って、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『改訂新版　学校図書館メディアの構成』北克一　平井尊士　放送大学教育振興会　2016
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編　樹村房　2016

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %
演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】
Students learn the basic knowledges and skills of the media resources in the scene of real school library. Those include the way of collection making, cataloguing, classification, etc. The important point is user-friendliness.

学校経営と学校図書館

高橋　恵美子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館に関する基本的な概念、法律、基準、学校図書館が有効に機能するための職員制度、ネットワークの構築、学校図書館運営方針など、学校図書館に関する概論である。そのうえで学校図書館の理念とその教育的役割を学び、考える。

【到達目標】
まずは学校図書館が図書館であることを理解した上で、学校図書館のあるべき姿を学び、日本の学校図書館の現状、問題点を考える。学校図書館のさまざまな活動を学び、司書教諭資格に必要な基本的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校図書館関係法規、基準をはじめとして、運営組織、選書、校内の協力体制、資料・情報の提供、貸出・予約などの図書館活動、地域のネットワーク、学校図書館に働く人の問題などを扱う。欧米、特にアメリカの学校図書館について学ぶ。
理念の高さに対し、日本の現実の学校図書館の実態はあまりにも貧しい。その要因についても考察する。自分の学校図書館体験をふりかえり、論文・実践報告を読み、書籍を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館とは何か	学校図書館の現状 司書教諭とは、学校司書とは
2	学校図書館は図書館である	図書館の三要素 図書館サービス
3	学校図書館と民主主義	ユネスコ学校図書館宣言 戦後の学校図書館の流れ
4	知的自由と学校図書館	図書館の自由 アメリカの学校図書館における事例等
5	学校図書館の関係法規・基準１	学校図書館法 学校図書館法制定の歴史 学校図書館法改正
6	学校図書館の関係法規・基準２	学校図書館基準 学校図書館図書標準 学校図書館メディア基準
7	学校図書館の関係法規・基準３	子どもの読書活動推進に関する法律 文字・活字文化振興法ほか
8	ゲスト講師 学校図書館充実運動について	学校図書館と地域の運動
9	学校図書館の諸活動と職員制度の変遷	学校図書館 8 つのステップ 職員制度の変遷
10	学校図書館の運営	運営組織 校内の協力体制
11	コレクション形成（選書）とリクエスト制度	コレクション形成（選書）の考え方 リクエスト制度導入のために
12	アメリカの学校図書館	アメリカの学校図書館の流れと職員制度 学校図書館を支える地域ネットワーク
13	魅力的な学校図書館をつくる	レイアウト 見出し・サインづくり 学校図書館とマンガ
14	最近の学校図書館をめぐる動きと将来へ向かって	文部科学省の動向 学校図書館の新しい動き まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2 回目（論文・実践報告を読む）、及び 3 回目（書籍を読む）のレポート作成にあたっては、各自必要な文献を図書館で入手し、読んで書く。

【テキスト（教科書）】
『学校教育と学校図書館　新訂 3 版』塩見昇　教育史料出版会　2016

【参考書】
『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック』堀川照代　悠光堂　2018
『学校図書館メディアと読書教育』塩見昇　北村幸子　教育史料出版会　2007
『学校経営と学校図書館』中村百合子　樹村房　2015

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言等授業への積極的な貢献度、レポート（3 回）による。
平常点（授業時の発言等授業への積極的な貢献度、授業時の小課題の提出等）：40 %
レポート（1 回目、2 回目、3 回目と配点が順に高くなる）：60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】
日本の学校図書館は、長い間機能していなかった歴史があり、機能していなかったその姿が学校図書館であるという誤解がある。まずは学校図書館のあるべき姿を知ることが最初の目標となる。意見交換の際には積極的な発言を望む。
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】
School library has an idea of library and an instructional role. Students learn the basic ideas, laws, standards of the school library. In addition to that, they also learn network systems and staffs for school library.

学習指導と学校図書館

高橋　恵美子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館には「学校の教育課程の展開に寄与する」役割がある。学校図書館は学習、授業に活用されてこそ学校図書館なのだということをまず理解する。学校図書館を必要とする学習のあり方であるインフォメーション・リテラシー教育、探究学習を知り、自主的な学びを支える学校図書館の諸活動、働きかけを知る。

【到達目標】
司書教諭資格に必要な学校図書館を使う授業の基本を身につける。インフォメーション・リテラシー教育、探究学習について学び、学校図書館の機能を必要とする教育のあり方を知る。授業を支える学校図書館の活動、サービスの実際を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校教育に不可欠な学校図書館を実現するには、インフォメーション・リテラシー教育の理解が欠かせない。その上で、さまざまな授業で実際に学校図書館が活用された事例を学習し、総合的な学習とのかかわりについても学ぶ。また、使われる学校図書館を実現するための図書館づくりの工夫、図書館が行う利用教育の実際と方法、レファレンスなどの情報提供活動を学ぶ。学校図書館を活用した授業を計画する（第 2 回レポート）。図書館側からの資料案内を作成する（第 3 回レポート）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習指導と学校図書館とは	図書館を使う授業 探究学習（インフォメーション・リテラシー教育）
2	探究学習	学習指導要領 さまざまな学習プロセス 日米比較
3	学校図書館を必要とする授業、授業事例から	『図書館よ、ひらけ！』の事例から 『図書館よ、ひらけ！』について
4	インフォメーション・リテラシー教育１（アメリカの教材ビデオより）	Know It All シリーズ 探究学習のプロセス（計画を立てる他）
5	インフォメーション・リテラシー教育２（アメリカの教材ビデオより）	Know It All シリーズ 探究学習のプロセス（自分の言葉で他）
6	インフォメーション・リテラシー教育１（日本では）	授業とのコラボレーション 情報科とのコラボレーション
7	インフォメーション・リテラシー教育２（日本では）	グラフィック・オーガナイザーの使用 教員のサポート機能
8	総合的な学習と学校図書館	総合的な学習とは 学校図書館との関わり
9	ゲスト講師　図書館を使う授業	事例発表
10	探究型学習、日本の実践	授業事例 図書館を使った調べる学習コンクール
11	学校図書館が行う情報サービス１	オリエンテーション 事例及びさまざまな資料
12	学校図書館が行う情報サービス２	レファレンスサービス
13	学校図書館が行う情報サービス３	日常活動の中で行う利用教育 パスファインダー
14	最近の動き	21 世紀の学習者のための基準 文部科学省の動向 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 回目の課題、図書館からの資料案内の作成は子ども向けに編集された本を重視する。作成にあたっては、公共図書館の子どもセクションに行ってほしい。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『改訂新版　学習指導と学校図書館』（堀川照代　塩谷京子　放送大学教育振興会　2016）
『図書館よ、ひらけ！』（神奈川県高等学校教職員組合図書館教育小委員会編　公人社　1990）など

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な貢献度、意見交換時の発言、授業時の小課題）：40 %
課題（3 回、①図書館を使った授業の評価、②図書館を使う授業の学習計画＆授業計画、③図書館を使う授業のための資料案内）：60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【その他の重要事項】
なぜ学校に図書館があるのか、子どもたちの自主的な学びを支える学校図書館の姿は、日本では根づいているとは言えない。日本の教育の課題であることを知ってほしい。
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】
Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, library staffs(teacher librarian and school librarian)have to appeal the meaning of school library to teachers.

社会教育計画

御園生　純

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主体的な学びのスタイルとは？
★学習キーワード―脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など
私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。
社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。
実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】
社会教育計画立案にかかわる
・プレゼン能力
・現状調査能力
・企画立案力
・イベントプロモーションの在り方
・広報宣伝/集客テクニック
などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。
秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューン度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス

17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画 ・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタヴューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビューン結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビューン結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビューン結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期終了時にレポート提出、秋学期終了時に社会教育のカリキュラム案を作成～提出してもらう予定です。出席状況は最終評価の参考値程度に勘案しますが、出席していることよりも授業に「参加」しているか否かを重要視します。授業中の発言や主体的なレポート発表なども評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
· Understanding of the present situation of local government and father education in Japan.
· Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育計画

御園生　純

単位：4 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主体的な学びのスタイルとは？
★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など
私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。
社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。
実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】
社会教育計画立案にかかわる
・プレゼン能力
・現状調査能力
・企画立案力
・イベントプロモーションの在り方
・広報宣伝/集客テクニック
などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。
秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューン度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス

17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画 ・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタヴューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビューン結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビューン結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビューン結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期終了時にレポート提出、秋学期終了時に社会教育のカリキュラム案を作成～提出してもらう予定です。出席状況は最終評価の参考値程度に勘案しますが、出席していることよりも授業に「参加」しているか否かを重要視します。授業中の発言や主体的なレポート発表なども評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
· Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
· Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

社会教育活動 I

桔川　純子

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたり必要不可欠な、外国籍、外国にルーツをもつ人、女性など、マイノリティの問題を「自分」に引きけて考察できるようにします。
そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティー」の問題について、グルーバルな視点から分析できるようにします。
初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】
1. 国際社会における
日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、視聴覚教材や、受講生による発表などを通じてディスカッションを行っていきます。毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。また、フィールドワークなども受講生と相談しながら取り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方などについて。
2	日本における女性をとりまく状況	日本における女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	日本における< 多文化共生> の現状	日本における多文化共生の現状、「エスニシティ」「ダイバーシティ」「移住労働者」の問題について。
4	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender）とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
5	＜人権＞と社会教育	憲法で保障されている＜人権＞、関連する法律などを確認し、日常のなかの＜人権意識＞について考察する。
6	< ことば> のもつ意味と識字教育	差別を助長する＜ことば＞、配慮のある＜ことば＞について考える。
7	地域における実践１	生野オモニハッキョ・川崎ふれあい館等（多文化共生）
8	地域における実践２	たかとりコミュニティセンター・コミュニティ FM 等（多文化共生）
9	ディスカッション	前半のまとめと考察
10	国際結婚をめぐる諸問題と社会教育	日本、韓国をはじめとした海外の事例を紹介
11	社会問題に取り組む組織と社会教育： NPO、ソーシャルビジネス、協同組合等	社会問題に取り組む組織として、どんなものがあるのか、またその取り組みへの支援策など
12	社会教育としての様々な実践１	人間が学び、成長していける＜実践活動＞について考える：外国人支援、女性支援などの事例：受講生の発表
13	社会教育としての様々な実践２	人間が学び、成長していける＜実践活動＞について考える：地域コミュニティの事例：受講生の発表
14	総括ディスカッション１	全体を通じての感想、理解したことなどを発表し、振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】
講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】
■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）

■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！ NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）
■ソーシャルデザイン会議実行委員会 (著, 編集)『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（発言状況など）と期末レポートによって評価する。レポートの課題は授業中に指示します。
授業中の課題３０％、宿題３０％、レポート課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD,PC

【その他の重要事項】
初回のオリエンテーションを踏まえ、受講生の興味・関心に則し、授業に反映させていくので、初回はできるだけ出席して下さい。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn about minority issues throuth various social education activities.
Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity" ,"gender","ethnicity"and so on.

社会教育活動Ⅱ

佛木　完

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、社会状況と活動内容を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学習し、人間関係を築き、社会に発信し、主体的な生き方を形成する様子を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】
地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。
あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの変容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回、テーマに応じたレジメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業説明	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映画「同胞」に見る青年	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまに繰り広げられる青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのようにかかわっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第 9 回	青年団の平和運動（その１）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。
第 10 回	青年団の平和運動（その２）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶもの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。

第 11 回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第 12 回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、ＤＶ、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第 13 回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】
特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていきながら、若者は自分自身をも形成していくものです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.
As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

博物館資料保存論

今野　農

単位：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。適宜、リアクションペーパーの提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第２回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第３回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第４回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第５回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第６回	日本の伝統的保存法 日本の風土に根差して	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第７回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第８回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第９回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第１０回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第１１回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第１２回	歴史的建造物等の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第１３回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第１４回	まとめ	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 10%、平常点： 60%程度、最終試験： 30%。

【学生の意見等からの気づき】
知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

清水　久夫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館・美術館では、どのように博物館資料・作品を保存し、後代へ伝えているのかを学ぶ。

【到達目標】
将来博物館・美術館の学芸員の仕事をするに際し必須である、博物館資料の保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。博物館・美術館における資料の保存環境、環境保護と博物館の役割について具体的に取り上げる。毎回、授業の終了時、その日の講義で考ええたこと、感想、要望、質問等についてのコメントを提出してもらい、翌週の授業の冒頭で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資料保存の意義	ガイダンスの後、博物館における資料保存の意義について解説する。
2	資料の状態調査、現状把握	博物館では、どのように資料の状態調査、現状把握をしているかについて解説する。
3	資料の修復・修理	主として美術館における資料（作品）の修復・修理について解説する。
4	資料の梱包と輸送	資料を移動させる際、どのように資料を梱包するかについて解説する。また、資料を館外へ搬出する際、どのように輸送するかを解説する。
5	資料保存に適した温湿度	博物館における温湿度管理について解説する。あわせて大気汚染の影響について解説する。
6	資料と照明	光（照明）が資料に与える影響について解説する。あわせて近年取り入れ始められたＬＥＤ電球についても取り上げる。
7	資料の生物被害	資料に害を与える虫、カビについて、ＩＰＭを中心に解説する。
8	火災、地震による被害	過去における火災、地震による資料の損傷とその予防策について解説する。
9	水害、盗難による被害	過去における水害、盗難とその予防策について解説する。
10	伝統的保存方法	日本の風土にあった伝統的な保存方法について解説する。
11	収蔵、展示等の保存環境	博物館における望ましい資料の収蔵、展示等の保存環境について解説する。
12	地域資源・文化財の保存と活用	エコミュージアムおよび景観、歴史的環境を含む文化財の保存と活用について博物館が果たす役割について解説する。
13	自然環境の保護	自然環境の保護について博物館が果たす役割について解説する。
14	まとめと振り返り	13 回目までの講義の「まとめ」と「振り返り」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館の活動は、実際に現場を見なければ理解しがたいところがある。授業で学んだことを念頭に置いて、休日等を利用し、できるだけ多くの博物館・美術館を訪れること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考書】
『博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。『続・博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業終了時に提出するコメント 50 %、レポート 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
授業中のスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
This course provides students with a knowledge of preservation of the museum materials.

博物館展示論

渡邉　尚樹

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

博物館展示論

渡邉　尚樹

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

博物館情報・メディア論

柏女　弘道

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】
博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は主に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）
日本展示学会編『展示論―博物館の展示をつくる―』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら―市民・自治体・地域の連携―』（同成社、2012 年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 52 %、実地見学及びレポート 48 %。レポートの課題や文字数については授業内で発表します。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
博物館について日ごろから興味関心をもち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】
Think about how to make use of information in museums

博物館情報・メディア論

石川　貴敏

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】
将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ＩＣＴ社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】
『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著，学文社，2012 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（西岡貞一・篠田謙一編著，放送大学教育振興会，2013 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（稲村哲也・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編，ぎょうせい，2013 年)
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編，雄山閣，2010 年）
『博物館展示論 (ＫＳ理工学専門書)』（黒沢浩編著，講談社，2014 年）

【成績評価の方法と基準】
期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せている。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【その他の重要事項】
ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】
We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

博物館実習Ⅰ

藤田　直人

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館に関わる実務を学びながら、学芸員としての心構えや技能を習得することを授業の目的とします。博物館はもとより、文化・教育・メディアをはじめ地域社会・NPO など、関連分野で貢献できるアビリティーやスキルを磨きましょう。

【到達目標】
学芸員・キュレーターの職務は多岐にわたります。専門性を持ちながらも、博物館・ミュージアムの各理念・役割に応じて、臨機応変に対応できる人材が求められます。本学所蔵の実資料を取り扱いながら、観察・記録・整理・展示など一連の所作所用を習い、基本的な業務を段階的かつ体系的に学びましょう。この授業で学んだことは、博物館での館務実習やインターンシップなど次なるステップへの糧や備えとなりましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜実習科目＞ですので、積極的な姿勢で臨めば、アクティブにラーニングできるような構成になっています。本学所蔵のコレクションを実際に取り扱うなかで「資料調査法」「資料化法」「資料展示法」などの技法を学びます。また、ワークショップ、エディトリアルデザイン、キュレーションなどのスキルを磨けるよう実践的な講座を配します。ミュージアム活動を積極的に学び、確実に課題を遂行していきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前指導・ガイダンス	①実習全体の事前指導②博物館概況③学芸員関連職務と心得・キャリア形成④課題・評価法など。※受講条件確認・抽選会あり。
2	資料取扱法〔実務実習を進めるための基礎〕	資料を取り扱う上での専門的知識・留意事項を身に付ける。特に教育史・遊戯史学的知見・表象を知る。
3	博物館資料取り扱いⅠ	資料〔民藝玩具〕の概要の理解
4	博物館資料取り扱いⅡ	資料〔民藝玩具〕の選択、調査方法・方針の設定
5	博物館資料取り扱いⅢ	資料〔民藝玩具・凧〕の観察・開梱・考察・収納
6	博物館資料取り扱いⅣ	資料〔民藝玩具・凧〕の実測・図化・由来
7	博物館資料取り扱いⅤ	資料〔民藝玩具・凧〕の比較考証・文献文化学的検討
8	博物館資料取り扱いⅥ	資料カード化（仮提出・一次評価・改善点・校正）
9	博物館資料取り扱いⅦ	資料調査ワークショップ（報告発表・考察・講評）
10	博物館資料取り扱いⅧ	資料の梱包・収納、資料カードの最終校正・課題提出
11	調査資料による展示展開	調査を基にキャプションづくり、撮影、報告展開
12	展示展開ワークショップⅠ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ（博物館ロゴ・展覧会企画デザイン）
13	展示展開ワークショップⅡ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ (プレゼン評価)
14	博物館見学ワークショップⅠ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
15	博物館見学ワークショップⅡ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
16	コレクション調査Ⅰ (調査報告)	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果報告
17	コレクション調査Ⅱ (調査報告)	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果報告（資料・資料カードの課題提出）
18	コレクション調査Ⅲ（資料化実習）	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) の展示準備をする（キャプション案の提出）
19	コレクション調査Ⅳ（資料化実習）	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果を報告する（特別展準備・仮展示）
20	博物館資料の整理・管理実務Ⅰ	掛物・巻子・屏風、古文書類の取り扱い、展示、収納体験

21	博物館資料の整理・管理実務Ⅱ	写真の手技と解説（写真・カメラの原理、オールド～最新カメラの実際、照明機材・撮影手法の基礎）
22	博物館資料の整理・管理実務Ⅲ	写真撮影の実際（アナログカメラ・デジタル一眼等による物撮り・照明設定の理解と実際）
23	博物館資料の整理・管理実務Ⅳ	博物館関連講座・イベントの取材・記録・資料化
24	博物館資料の整理・管理実務Ⅴ	コレクション資料・収蔵資料の梱包・搬出搬入
25	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻(解説：文字・書体・フォント・篆刻落款史）と（実習：素材・用具・技法・刻前準備）
26	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻（実習：意匠・印稿作成)、課題指定と道具貸出）
27	博物館見学ワークショップⅢ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
28	事後指導(まとめ・振り返り）	全課題内容および提出状況の確認。通年を通しての総括・講評・考察、貸出機材・道具の返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
◇夏季調査課題：休暇中に「民藝玩具・凧玩等」の現地調査・資料収集(具体的テーマ・調査報告法は当該授業で展開）◇冬季篆刻課題：刻印を仕上げ、印影落款を提出する

【テキスト（教科書)】
◇利用する資料プリント・文献、道具類は、適宜テーマ・コンテンツに即して授業前に配布または貸出する。

【参考書】
◇最新かつ着実な知見を提供すべく、推薦図書・参考書・図録・展覧会情報は関連トピックとして逐次紹介。

【成績評価の方法と基準】
①授業への貢献度（含むワークショップ・見学会）②授業内の取組姿勢、協調性、ディスカッションへの参画性　③日々の小課題・使用カード・リアクションペーパーのほか、テーマ課題・夏季課題・冬季課題などの状況…これらの視点で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
◇日々の研鑽・積み上げが個人のスキルや進捗にも反映されます。また、特性上、個人作業だけでなく協同作業が発生します。主体性及び協調性をもって実習に臨まれることを期待します。

【学生が準備すべき機器他】
◇必要に応じて、情報機器や実習関連用具を貸し出します。
◇日々の授業で、キャプションづくりや資料カードづくりのほか、文作・編集機会を設けます。メモ用スケッチブックや電子辞書などの活用を推奨しています。

【その他の重要事項】
◇毎回、学びのポイントやスキルアップの確認を目的に、リアクションペーパーや京大式カードを配布するほか、授業の内容に応じてディスカッション機会を設けます。受講生間の積極的な意見交換を期待します。※注意：実習室のスペース的与件もあり、希望者が多い場合、初回授業にて「受講確認・抽選会」を開催します。

【Outline and objectives】
Curators have to carry out variety of duties with high expertise. Most of Museums need human resources who can respond flexibly according to the ideals and roles. Let's learn the basic tasks in a step-by-step and systematic manner. While handling the actual materials in University,learning a series of work results such as observation,recording,arrangement,exhibition. The main purpose of this lesson is to actually hone up basic skills and abilities such as collection,handling,storage,exhibition,organization and classification of actual materials. Let's learn it as a provision for each next step such as the Museum practicum training and internships. This "In-campus Practical Training" allows you to deepen your understanding of the work of museums and the role of curators by putting cover "Museum Practice" at the final stage of the curator training course to the range.

博物館実習Ⅰ

金山　喜昭

単位：2 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】
博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】
前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（凧）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	石器の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	石器の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	石器の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	石器の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	石器の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査　Ⅰ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査　Ⅱ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査　Ⅲ（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査　Ⅳ（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻　Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻　Ⅱ	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to undertake a practicum for practical operations atthe museum.

博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施の手法を学んでいきます。日本の博物館では、コレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象です。しかし、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて、企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界を一緒にのぞいて見ましょう。

【到達目標】
日本の博物館活動では、企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため、学芸員も企画展を前提に活動をすることが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え、基本となる企画展実施の工程、過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて、企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際を通じて学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築に加え、豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想し発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制を、グループワークを通じて体験します。発表ではパワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　博物館展示の世界・学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介します。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証する。
第 3 回	日本の企画展	日本における企画展の実態を見て、将来的な展望を探ります。
第 4 回	世界の企画展	世界ではどのような企画展が行われているのか、その舞台裏をのぞいて見ます。
第 5 回	展示の種類と手法	常設展と企画展との実施手法の違いや意義を考えます。
第 6 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その 1 －展示のための素材探し、種- ヒントの探し方を考える。
第 7 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その 2 －成功した企画展例を基に、自分なりにシュミレーションしてみること。
第 8 回	展示構想（企画書の作成）	展示構想の内容と要点について説明し、企画内容に盛り込むものを整理する。
第 9 回	企画展を構想する①	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。
第 10 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は、出展目録の作成にある。１次候補から２次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 11 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は、資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。
第 12 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画を立てる。
第 13 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。所謂ライターとしての学芸員像。
第 14 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。また、サイン作成も重要。
第 15 回	展示解説	学芸員は展示企画者であると同時に優秀な解説者でなければならない。
第 16 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。

第 17 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 18 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 19 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	５人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 20 回	企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 21 回	企画展実施③ 展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施④ 観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における集客方法や展示の仕方・広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑤ 発表に向けた行動のはじめ	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑥	発表の役割や手順を調整する。限られた時間内での発表を工夫していくこと。
第 26 回	企画展実施⑦ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。レジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが１５分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。１年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企画展発表のためには、いろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を３回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し、自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業配布します。

【参考書】
展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席７割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいですね。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議では PC を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☒を活用してほしいです。

【その他の重要事項】
特にありません。

博物館実習Ⅱ

杉山　享司

単位：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では、博物館における展覧会の意義や学芸員の役割を説明しつつ、各種の博物館施設における展覧会活動を映像資料を使って紹介し、どのようなプロセスで展覧会が作られていくのかを解説します。また、秋学期では、受講生各自が展覧会の企画を練り、開催概要の作成と発表を行い、それを基にしてフライヤー（展覧会チラシ）の制作を実施していきます。なお、発表の際には毎回受講生同士でディスカッションを行い、展覧会を企画する上での留意点や課題について、互いが学び合えるように進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する

20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
レジュメを授業中に配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）40 %、課題制作の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山　喜昭

単位：2 単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、ミュージアムでの実務実習である。そこで働くプロの仕事に触れることで、専門的で多様な技能を身につけるとともに社会人としてのコミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
これまでに学んだ博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、多様な業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の 9 科目全てを取得した者のみを対象に、2 週間（10 日間）以上の館務実習を実施する。
実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び (2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が 10 日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計 5 回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する。
(全員が対象)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ		内容
第 1 回	事前指導	①	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
第 2 回	個別指導	①	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する面談指導。
第 3 回	個別指導	②	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
第 4 回	事前指導	②	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
第 5 回	事前指導	③	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
第 6 回	館園実習	①	博物館施設での館務実習。（実習日数は、合計 10 日以上であること。実習内容の詳細は、各博物館での実習内容・日程に従う）
第 7 回	館園実習	①	博物館施設での館務実習。（同上）
第 8 回	館園実習	②	博物館施設での館務実習。（同上）
第 9 回	館園実習	②	博物館施設での館務実習。（同上）
第 10 回	館園実習	③	博物館施設での館務実習。（同上）
第 11 回	館園実習	③	博物館施設での館務実習。（同上）
第 12 回	館園実習	④	博物館施設での館務実習。（同上）
第 13 回	館園実習	④	博物館施設での館務実習。（同上）
第 14 回	館園実習	⑤	博物館施設での館務実習。（同上）
第 15 回	館園実習	⑤	博物館施設での館務実習。（同上）
第 16 回	館園実習	⑥	博物館施設での館務実習。（同上）
第 17 回	館園実習	⑥	博物館施設での館務実習。（同上）
第 18 回	館園実習	⑦	博物館施設での館務実習。（同上）
第 19 回	館園実習	⑦	博物館施設での館務実習。（同上）
第 20 回	館園実習	⑧	博物館施設での館務実習。（同上）
第 21 回	館園実習	⑧	博物館施設での館務実習。（同上）
第 22 回	館園実習	⑨	博物館施設での館務実習。（同上）
第 23 回	館園実習	⑨	博物館施設での館務実習。（同上）
第 24 回	館園実習	⑩	博物館施設での館務実習。（同上）
第 25 回	館園実習	⑩	博物館施設での館務実習。（同上）
第 26 回	事後指導	①	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
第 27 回	個別指導	③	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
第 28 回	事後指導	②	受講者全員による実習成果の発表会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
ガイダンスを含めた授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）。
実習先での評価。
課題提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
*第 1 回ガイダンス【受講準備】（前年度 12 月）
*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
*第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4 月）
*第 3 回ガイダンス【事前指導】（7 月）
*実地実習
*実習先への礼状の送付
*第 4 回ガイダンス【報告準備】（10 月）
*事後指導・実習報告会および情報交換会（12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】
学内実習の実務実習は、春学期（6 月）及び秋学期（10 月～11 月）にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】
The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

ミュージアム資料保存論

今野　農

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。適宜、リアクションペーパーの提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第 10 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 12 回	歴史的建造物等の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第 13 回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第 14 回	まとめ	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 10%、平常点： 60%程度、最終試験： 30%。

【学生の意見等からの気づき】
知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

ミュージアム資料保存論

清水　久夫

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館・美術館では、どのように博物館資料・作品を保存し、後代へ伝えているのかを学ぶ。

【到達目標】
将来博物館・美術館の学芸員の仕事をするに際し必須である、博物館資料の保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。博物館・美術館における資料の保存環境、環境保護と博物館の役割について具体的に取り上げる。毎回、授業の終了時、その日の講義で考ええたこと、感想、要望、質問等についてのコメントを提出してもらい、翌週の授業の冒頭で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資料保存の意義	ガイダンスの後、博物館における資料保存の意義について解説する。
2	資料の状態調査、現状把握	博物館では、どのように資料の状態調査、現状把握をしているかについて解説する。
3	資料の修復・修理	主として美術館における資料（作品）の修復・修理について解説する。
4	資料の梱包と輸送	資料を移動させる際、どのように資料を梱包するかについて解説する。また、資料を館外へ搬出する際、どのように輸送するかを解説する。
5	資料保存に適した温湿度	博物館における温湿度管理について解説する。あわせて大気汚染の影響について解説する。
6	資料と照明	光（照明）が資料に与える影響について解説する。あわせて近年取り入れ始められたＬＥＤ電球についても取り上げる。
7	資料の生物被害	資料に害を与える虫、カビについて、ＩＰＭを中心に解説する。
8	火災、地震による被害	過去における火災、地震による資料の損傷とその予防策について解説する。
9	水害、盗難による被害	過去における水害、盗難とその予防策について解説する。
10	伝統的保存方法	日本の風土にあった伝統的な保存方法について解説する。
11	収蔵、展示等の保存環境	博物館における望ましい資料の収蔵、展示等の保存環境について解説する。
12	地域資源・文化財の保存と活用	エコミュージアムおよび景観、歴史的環境を含む文化財の保存と活用について博物館が果たす役割について解説する。
13	自然環境の保護	自然環境の保護について博物館が果たす役割について解説する。
14	まとめと振り返り	13 回目までの講義の「まとめ」と「振り返り」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館の活動は、実際に現場を見なければ理解しがたいところがある。授業で学んだことを念頭に置いて、休日等を利用し、できるだけ多くの博物館・美術館を訪れること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考書】
『博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。『続・博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業終了時に提出するコメント 50 %、レポート 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
授業中のスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
This course provides students with a knowledge of preservation of the museum materials.

ミュージアム展示論

渡邉　尚樹

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

ミュージアム展示論

渡邉　尚樹

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

ミュージアム情報・メディア論

柏女　弘道

単位：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】
博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は主に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）
日本展示学会編『展示論―博物館の展示をつくる―』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら―市民・自治体・地域の連携―』（同成社、2012 年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 52 %、実地見学及びレポート 48 %。レポートの課題や文字数については授業内で発表します。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
博物館について日ごろから興味関心をもち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】
Think about how to make use of information in museums

ミュージアム情報・メディア論

石川　貴敏

単位：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】
将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ＩＣＴ社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】
『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著，学文社，2012 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（西岡貞一・篠田謙一編著，放送大学教育振興会，2013 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（稲村哲也・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編，ぎょうせい，2013 年)
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編，雄山閣，2010 年）
『博物館展示論 (ＫＳ理工学専門書)』（黒沢浩編著，講談社，2014 年）

【成績評価の方法と基準】
期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せている。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【その他の重要事項】
ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】
We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

法政大学
HOSEI University